

ビジネス実務学科（目次）

1) 教養科目

文学	柴田 勝二	1
歴史学	蔦木 文湖	3
文化論	平澤 純子	5
法学	長沼 秀明	7
経済学	稲場 建吾	9
自然科学	小島 望	11
環境論	小島 望	13

2) 外国語科目

英語	西山 智則・近藤 真理	15
英会話	熊田 和典	17
中国語	李 小捷	19
韓国語	李 芝善	21

3) 専門科目

経営学総論	吉沢 正広	23
キャリアデザインⅠ	平澤 純子	25
キャリアデザインⅡ	平澤 純子	27
簿記Ⅰ	稲場 建吾・劉 博	29
簿記Ⅱ	稲場 建吾・劉 博	31
情報処理Ⅰ	織戸 恒男	33
情報処理Ⅱ	織戸 恒男	35
ゼミⅠ	ビジネス実務学科専任教員	37
ゼミⅡ（環境学）	小島 望	39
ゼミⅡ（簿記会計）	稲場 建吾	41
ゼミⅡ（経営社会学）	平澤 純子	43
ゼミⅡ（経営学）	吉沢 正広	45
ゼミⅡ（財務管理論）	劉 博	47
ゼミⅡ（企業研究Ⅰ）	齋藤 篤史	49
ゼミⅡ（仕事研究）	富吉 光則	51
ゼミⅡ（マーケティングリサーチ論）	織戸 恒男	53
ゼミⅢ（環境学）	小島 望	55
ゼミⅢ（簿記会計）	稲場 建吾	57
ゼミⅢ（経営社会学）	平澤 純子	59
ゼミⅢ（経営学）	吉沢 正弘	61
ゼミⅢ（財務管理論）	劉 博	63
ゼミⅢ（企業研究Ⅱ）	齋藤 篤史	65
ゼミⅢ（仕事研究）	富吉 光則	67
ゼミⅢ（マーケティングリサーチ論）	織戸 恒男	69
ゼミⅣ（環境学）	小島 望	71
ゼミⅣ（簿記会計）	稲場 建吾	73
ゼミⅣ（経営社会学）	平澤 純子	75
ゼミⅣ（経営学）	吉沢 正広	77
ゼミⅣ（財務管理論）	劉 博	79
ゼミⅣ（企業研究Ⅲ）	齋藤 篤史	81
ゼミⅣ（仕事研究）	富吉 光則	83
ゼミⅣ（マーケティングリサーチ論）	織戸 恒男	85
経営学	吉沢 正広	87
経営管理論	吉沢 正広	89
企業論	藤井喜一郎	91
中小企業論	藤井喜一郎	93
人的資源管理論	平澤 純子	95
財務管理論	劉 博	97
マーケティング論	織戸 恒男	99
会計学	劉 博	101

情報処理概論
文書作成
データ活用
インターンシップ
流通ビジネス論
ベンチャービジネス論
秘書実務
コンテンツビジネス論
サービスビジネス論
国際経営論
インターネットビジネス
簿記Ⅲ
経営分析論
民法
原価計算
金融論
会社法
心理学
医療ビジネス論
医療コミュニケーション論
臨床心理学
メンタルケア
医療情報システム論
産業心理学
観光ビジネス論
ホスピタリティ概論
ホテルビジネス基礎
ホテル経営論
旅行業法
観光マーケティング論
かしこい旅行実務論
エアラインビジネス
エアラインホスピタリティ
観光交通論
観光政策論
ブライダルビジネスⅠ
ブライダルビジネスⅡ
アニメで学ぶ環境論
動物愛護
生命の尊重
ソーシャルメディア
テーマパーク論
健康ビジネス論
スポーツマネジメント論
スポーツマーケティング論
スポーツ心理学
特殊講義Ⅰ
特殊講義Ⅱ

4) こども学科開講科目

文章表現法
国語(書写を含む)
生活
栽培
演劇

原 かおり	103
原 かおり	105
原 かおり	107
齋藤 篤史	109
幡鎌 博	111
織戸 恒男	113
原 かおり	115
黄 仙恵	117
幡鎌 博	119
吉沢 正広	121
劉 博	123
稲場 建吾	125
劉 博	127
長 友昭	129
稲場 建吾	131
藤井喜一郎	133
松田 和久	135
伊澤 利文	137
一戸 真子	139
一戸 真子	141
蓮井千恵子	143
蓮井千恵子	145
一戸 真子	147
川久保 惇	149
齋藤 篤史	151
富吉 光則	153
富吉 光則	155
齋藤 篤史	157
齋藤 篤史	159
齋藤 篤史	161
齋藤 篤史	163
富吉 光則	165
富吉 光則	167
富吉 光則	169
齋藤 篤史	171
落合 歩	173
落合 歩	175
小島 望	177
山田佐代子	179
中野真樹子	181
劉 博	183
富吉 光則	185
一戸 真子	187
大野 貴司	189
織戸 恒男	191
矢野 康介	193
劉 博	195
小島 望	197
三浦 正雄	199
佐内 信之	201
齋藤 澄子	203
橋本 敏幸	205
伊東 弘美	207

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目 選択

授 業 概 要

古典劇と近現代の代表的な小説作品の映画化を取り上げ、日本文学・演劇の世界を知るとともに、文学とドラマがどのように交わるのかを講義します。近現代の作品については、著名作品の内容を把握するとともにそれを映画監督がどのようにアレンジし、自身の世界を作り上げているのかを探ります。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：文学とドラマ
第 2 回	『伊勢物語』と『井筒』①：狂気をはらんだ情念
第 3 回	『源氏物語』①：「似姿」を求める人々
第 4 回	『源氏物語』②：堀川とんこう監督作品の鑑賞と検討
第 5 回	『曾根崎心中』：義理と意地の狭間に生きる男女
第 6 回	『心中天網島』：自己の尊厳へのこだわり
第 7 回	『それから』①：夏目漱石作品の概要と主題
第 8 回	『それから』②：森田芳光監督作品の鑑賞と検討
第 9 回	『細雪』①：谷崎潤一郎作品の概要と主題
第10回	『細雪』②：市川崑監督作品の鑑賞と検討
第11回	『春の雪』①：三島由紀夫作品の概要と主題
第12回	『春の雪』②：行定勲監督作品の鑑賞と検討
第13回	『ドライブ・マイ・カー』①：村上春樹作品の概要と主題
第14回	『ドライブ・マイ・カー』②：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討
第15回	『ドライブ・マイ・カー』③：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討

予 習 ・ 復 習

- ・予習：各時間に取り上げる作品についてあらかじめ学んでおくこと。
- ・復習：学習した内容を振り返り、課題で出された小レポートを提出すること。

履修上の注意

- ・毎時間欠かさず出席すること。
- ・授業中は私語を慎むこと。

到達目標

- ・日本の古典劇にどのような特質があるかを説明できる。
- ・漱石・谷崎・三島・村上といった近現代の代表的な作家がどのような作品を生み出しているか説明できる。
- ・文学と劇・ドラマの間にどのような差異と特質があるかを説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
日本文学への 理解度 (40%)	古典・近現代の 代表的な作家・ 作品の特質を十 分に説明でき る。	古典・近現代の 代表的な作家・ 作品の標準的な 特質を説明でき る。	古典か近現代の 代表的な作家・ 作品の特質をあ る程度説明でき る。	古典か近現代の 代表的な作家・ 作品の特質を最 低限説明でき る。	古典か近現代の 代表的な作家・ 作品の特質を説 明できない。
日本演劇・映画 への理解度 (30%)	古典劇と現代映 画の特質と、文 学作品との連関 を十分に説明で きる。	古典劇と現代映 画の特質と、文 学作品との連関 を標準的に説明 できる。	古典劇か現代映 画の特質をあ る程度説明でき る。	古典劇か現代映 画の特質を最低 限説明できる。	古典劇か現代映 画の特質を説明 できない。
作品への鑑賞と 批評の能力 (30%)	原作の作品とそ のドラマ化の特 徴を把握したう えで自身の見解 を明晰に述べる ことができる。	原作の作品とそ のドラマ化の特 徴を把握し、自 身の見解を不足 なく述べること ができる。	原作の作品とそ のドラマ化の特 徴を把握し、自 身の見解をあ る程度述べるこ とができる。	原作の作品とそ のドラマ化の特 徴に対する自身 の見解を最低限 述べることで きる。	原作の作品とそ のドラマ化の特 徴に対する自身 の見解を適切に 述べることで きない。

評価方法

- ・時間ごとに課する小レポート：60%
- ・期末レポート：40%

テキスト

なし

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目 選択

授業概要

戦後ドイツの歩みは、国際社会の変化と密接に関わって展開してきました。特にその変化に大きな影響を受けてきたベルリンを中心に、戦後のドイツ、ヨーロッパ、国際社会の歴史の変遷を明らかにします。

戦後ドイツの歴史を、国際社会との関係を重視して時間の流れに即しつつ、ナチの歴史をめぐる問題、ベルリンの壁と人の移動、東西ドイツ統一、ヨーロッパ統合に重点を置いて講義します。そして、ドキュメンタリーや映画、毎回授業の最後に提出してもらう小レポートなどで理解を深めるとともに、現代ドイツに対する参加者の関心に応えたテーマ（料理や季節のイベントなど）も随時取り上げて、講義をおこなっていきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	歴史を学ぶことの意義（ガイダンス・授業の進め方）
第 2 回	ドイツ帝国の成立からナチ・ドイツの時代まで
第 3 回	過去と現在の結びつき～ドキュメンタリー「ホロコーストを生きのびて」から学ぶ～
第 4 回	テーマ学習～映画の中のドイツ史、ナチ時代の女性たち～
第 5 回	戦後ドイツの歩み①～第二次世界大戦から東西ドイツの分断～
第 6 回	戦後ドイツの歩み②～国際社会の対立とベルリンの壁建設～
第 7 回	戦後ドイツの歩み③～外交的方向転換と新しい世代の登場～
第 8 回	戦後ドイツの歩み④～民主化運動からベルリンの壁崩壊～
第 9 回	映像で知るベルリンの壁崩壊 ～ドキュメンタリー「ヨーロッパ・ピクニック」から学ぶ～
第10回	東西ドイツ統一をめぐる政治的葛藤と心の壁
第11回	ドイツ統一がもたらしたもの～映画「グッバイ・レーニン！」から学ぶ～
第12回	国際社会の中のドイツ①～移民・難民問題を中心に～
第13回	国際社会の中のドイツ②～ヨーロッパ統合の発展と葛藤～
第14回	日本とドイツ～過去をめぐる取り組みから学ぶ～
第15回	まとめ～学習の振り返りと到達度の確認～

予習・復習

- ・予習：配布されたプリントを読み、授業の概要を把握して授業のポイントを理解すること
- ・復習：プリントに書き込んだ内容を復習し、次回の授業につながる要点を整理すること

履修上の注意

授業への質問・簡単なコメントを小レポートとして毎回授業の最後に作成し、提出することとします。小レポートのテーマは、講義の内容に即して、授業内で毎回発表します。提出されたレポートの中からいくつかを次の講義で紹介し、学生自身の多様な意見をお互いに知るという双方向的な学びを通し、理解を深めていきます。遅刻ややむをえぬ欠席については、その都度相談するようにしてください。

到達目標

- ・私たちの住む日本の状況を常に念頭に置き、ドイツやヨーロッパの歴史を現代社会の問題として考察する。
- ・過去の歴史と現在のわたしたちとの結びつきを理解する。
- ・複合的・多層的な視点の獲得という歴史を学ぶ姿勢を身につける。
- ・授業で理解したことについて、自身の考えを発展させまとめることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (70%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	授業内容についての理解ができていない。
自身の考えを文章で記述する力 (授業内レポート) (30%)	独創的で説得力のある内容を記述できている。	論理が通った考えを記述できている。	不足する点があるが、自身の考えを書くことができている。	最低限の自身の考えについて記述ができる。	自身の考えについての記述ができない。

評価方法

学期末試験 60%、授業内レポート 30%、受講態度 10%

テキスト

使用しません。プリント配布と視覚教材を使用します。また参考文献は授業内でお伝えします。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目 選択

授業概要

授業計画をご覧になって「企業」と「文化」って関係あるのと疑問に思うかもしれません。実は企業活動のプロセスや結果に大きな影響を及ぼすのです。この授業では「経営文化」「組織文化」「企業文化」を学びます。「文化」という概念で企業を見ることができるようになっていただきたいので、授業はできるだけ映像を使い具体的に理解できるように進めます。具体的には次のようなことを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	「文化」とは何かを学ぶ前に その1 文化が違うとはどういうことか、映像を見て考えてみよう。
第 3 回	「文化」とは何かを学ぶ前に その2 文化を理解するとはどういうことか、映像を見て考えてみよう。
第 4 回	「文化」とは何かを学ぶ前に その3 文化の違いを互いに理解しあうとどんな効果があるか映像を見て考えてみよう。
第 5 回	「文化」とは何か 多様な「文化」の概念からどの概念をとるか。「文化」を学ぶ意義はどこにあるか。
第 6 回	「文化」をつくる 文化はどのようにつくられるのか、ある企業の場合から学んでみる。
第 7 回	日本企業と「文化」 その1 日本企業の「文化」について映像で理解を深めよう。
第 8 回	日本企業と「文化」 その2 日本的経営について映像をみながら理解を深めよう。
第 9 回	「文化」で企業を比べてみよう その1 「文化」で企業を見ることができるか、映像を使って確かめてみよう。
第10回	「文化」で企業を比べてみよう その2 「文化」で企業を比べることができるか、映像を使って確かめてみよう。
第11回	振り返り（中間）：授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。 これまでの授業で何を知り、何ができるようになり、思えや行動がどう変わったか確かめる。
第12回	「文化」で企業研究 その1 「文化」で企業を研究する方法を学ぶ。
第13回	「文化」で企業研究 その2 「文化」で企業を研究してみる（練習1）。
第14回	「文化」で企業研究 その3 「文化」で企業を研究してみる（練習2）。
第15回	まとめと振り返り 授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

- ・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。
- ・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。そして、できれば次の授業で教員がどんなことを言うか予想してみてください。

履修上の注意

- ・電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。
- ・やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
- ・授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明があります。

到達目標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。

- 1 文化という視点で企業を比較し、企業を理解できるようになる。
- 2 あらゆる組織で、文化の違いに気づき、理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・成長度 (50%)	指導内容を十分に理解し、思考・行動に生かすことができる。	指導内容の大半は理解し、成長している。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度 (50%)	意欲的に受講し、全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講して、全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に参加している。	意欲的に参加しているとは言えない。	意欲が見られない

評価方法

- ・学期末試験（50%）：「理解・成長度」に対応します。
試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
- ・受講態度（50%）：考察を求めたときなど、どれだけ意欲的に取り組んでいるかを重要視します。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目 選択

授 業 概 要

ビジネス実務学科の教養科目として、私たちの生活を支える法律の枠組みをわかりやすく講義します。
HとJという、どこにでもいる、ごく普通の2人の大学生のドラマをとおして、私たちの生活を支えている法律（刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、憲法）の基礎理論を学びましょう。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	一瞬のできごと：何かが起こったときに突如として意識される法律の存在
第 2 回	なぜ罪を犯すと処罰されなければならないのか— 刑法 の基礎—（その1）
第 3 回	なぜ罪を犯すと処罰されなければならないのか— 刑法 の基礎—（その2）
第 4 回	罪を犯したHの裁判— 刑事訴訟法 の基礎—（その1）
第 5 回	罪を犯したHの裁判— 刑事訴訟法 の基礎—（その2）
第 6 回	罪を犯したHの裁判— 刑事訴訟法 の基礎—（その3）
第 7 回	許せない！—事故を起こしたHの民事責任： 民法 不法行為法の基礎—
第 8 回	民事裁判手続— 民事訴訟法 の基礎—
第 9 回	病院と旅行会社の責任— 民法 契約法の基礎—
第10回	Jと家族の物語— 民法 家族法の基礎—
第11回	さいごの願い—法を決めるのは誰か： 憲法 統治機構の基礎—（その1）
第12回	さいごの願い—法を決めるのは誰か： 憲法 統治機構の基礎—（その2）
第13回	多数者でも侵害することのできない権利— 憲法 基本的人権の基礎—（その1）
第14回	多数者でも侵害することのできない権利— 憲法 基本的人権の基礎—（その2）
第15回	法律学を学ぶということ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次回の授業で扱われる内容に関する教科書の該当部分に目を通しておくこと。
- ・復習：授業で扱われた内容に関する教科書の該当部分を熟読すること。

履修上の注意

- 1) 民法については、ビジネス実務学科の専門科目として「民法」が開講されているので、本科目では基本的な枠組みのみを講義します。また、いわゆる六法のうち商法については、同じく専門科目として「会社法」が開講されているので、本科目では取り扱いません。
- 2) 受講学生諸君と対話を重ねながら授業を進めます。
- 3) 遅刻 3 回＝欠席 1 回として取り扱います。

到達目標

- 1) 私たちの生活を支えている法律（刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、憲法）の基礎理論のうち、その基本的な部分を理解することができるようになること。
- 2) 〈法的な考え方〉を身につけることができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	授業内容をほぼ理解しているが多少の不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容について理解ができていない。
理解したことを 文章で説明する 力 (30%)	他人に対し十分に説得し得る内容を記述することができる。	論理が通った説明文を書くことができる。	不足する点があるものの説明文を書くことができる。	最低限の内容についてのみ説明ができる。	内容についての説明ができない。
法的思考力 (20%)	〈法的な考え方〉を十分に使いこなすことができる。	〈法的な考え方〉を身につけることができる。	〈法的な考え方〉を身につける努力をしている。	〈法的な考え方〉が足りない。	〈法的な考え方〉を知らない。

評価方法

毎回の授業の成果（51%）および定期試験の得点（49%）により厳正に評価する。

テキスト

- ・教科書名：『はじめての法律学—HとJの物語—』第6版
- ・著者名：松井茂記ほか
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年（ISBN）：2020年（978-4-641-22160-4）

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目 選択

授業概要

ニュースや新聞に出てくるような経済事象について理解できるようになることを目的とした講義とします。就活時や就社後に役立つ知識を吸収してください。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 経済学の内容 : I、II、IIIの概要を解説
第 2 回	I 身近な経済用語編 (1) 株式 : 株式と株式市場とは何かを講義する。
第 3 回	(2) 債権 : 債権と債券市場とは何かを講義する。
第 4 回	(3) 景気 : 国民総生産などを踏まえて景気とは何かを講義する。
第 5 回	(4) インフレとデフレ : インフレ、デフレとは何かとその影響を講義する。
第 6 回	(5) 税金と社会保険 : 税金と社会保険とは何かを講義する。
第 7 回	(6) 為替と貿易 : 為替とは何かとその影響を講義する。
第 8 回	II ミクロ経済学編 (1) 需要と供給 1 : 需要曲線、供給曲線について講義する。
第 9 回	(2) 需要と供給 2 : 市場の失敗と政府の役割について講義する。
第 10 回	(3) 機会費用 : 会計上の費用と経済学上の費用の相違を講義する。
第 11 回	III マクロ経済学編 (1) 3面等価 : 国内総生産について講義する。
第 12 回	(2) 財政政策 : 有効需要の原理と乗数効果、および減税効果を講義する。
第 13 回	(3) 金融政策 : 金利の誘導の仕組みを講義する。
第 14 回	III その他 マルクス経済学 : 先のミクロ経済学、マクロ経済学が属している近代経済学と2大潮流をなしていた経済学であるマルクス経済学の考え方を講義する。
第 15 回	まとめ : 2回から14回までポイントを再確認する。2回から14回までポイントを再確認する。

予習・復習

- ・予習：復習が次の予習になります。復習は必ずしてきてください。
- ・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。
2. コロナの影響で、授業形態、授業内容が変更される場合があります。

到達目標

1. 身近な経済事象を経済学の視点から理解する。
2. 上記 1 の理解をもとにして、経済といわれるもの以外の諸々の現象についても考えてみようとする力を付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力 (40%)	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

試験の成績 70% (内訳：基礎力 30%＋発展力 40%)、受講姿勢 30%

テキスト

配付資料

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目 選択

授 業 概 要

自然が大切だと思ふ心を養うには、自然へ「興味を持つ」こと、そして「理解する」ことが必要です。本講義では、現代の社会情勢を把握しやすい自然環境の保全について共感し理解を深めるだけでなく、同時に社会情勢を把握する題材を中心に扱うことで、学際的な講義を行います。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	生物の分類（「種」とは何か？） 同種であれば繁殖可能，種が違えば繁殖はできないのだが…
第 3 回	森林機能と緑のダム 1 天然の森林と人工の森林の比較を通じて「水」が生み出される謎を探る
第 4 回	森林機能と緑のダム 2 白神のブナ林を破壊する開発計画「清秋林道」と，世界遺産「白神山地」の魅力と問題点
第 5 回	自然も人間社会も破壊するダム 1 ダム建設を拒否するムラ「徳島県木頭村」の歴史と現在
第 6 回	自然も人間社会も破壊するダム 2 ダムは洪水防止にはならず反対に洪水を増やすという事実
第 7 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる 1 諫早湾にすむ生き物たちと水質浄化の関係
第 8 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる 2 「諫早干拓事業」を通して考える現代の環境破壊型農林水産業
第 9 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる 3 「諫早干拓事業」をめぐる裁判からみえる日本の歪んだ公共事業の構図
第10回	サンゴと沖縄の暮らし 1 沖縄観光ガイドとサンゴの再生事業の闇
第11回	サンゴと沖縄の暮らし 2 海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ
第12回	サンゴと沖縄の暮らし 3 新たに建設される米軍基地に反対して辺野古に座り込む基地反対運動の歴史と今
第13回	サンゴと沖縄の暮らし 4 不条理な日米地位協定が沖縄の自治と文化・伝統を破壊する
第14回	山と海をつなぐ川 2 「山は海の恋人」の理由とサケ・マス類の研究から導き出される山と海とのつながり
第15回	文明の崩壊と自然破壊 ラパ・ヌイにおける古代文明の衰退事例から学ぶ自然保護の重要性

予 習 ・ 復 習

・予習：次の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をすることがあります。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう場合があります。

履修上の注意

「自然科学」は、後期科目の「環境論」の基礎知識的な位置づけとなっています。この講義が気に入ったならば、「環境論」も履修することを是非お勧めします。皆が知らない「環境問題」に関する驚愕の事実を集めた内容となっているため、かなり楽しめると思います。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めません。授業中のスマホも厳禁です。

到達目標

「環境問題」に興味を持ち、「環境問題」が自分の生活や社会と非常に密接につながっていることを理解、把握、行動ができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (30%)	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ 100%理解している。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力 (40%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

- ・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」 30 の物語』
- ・著者名：小島望
- ・出版社名：農山漁村文化協会出版
- ・出版年：2010 年

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目 選択

授 業 概 要

講義前半は、自然科学・社会科学の視点から「生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体）」とは何かについて考えます。後半は、動物園動物や身近なペットを題材に、「生命のつながり」について法的倫理的問題を扱います。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考える、②物事を批判的に見る目を持つ、③常に弱者へ配慮を忘れないようにする、④科学の限界を知る、の4つの視座から分析・検証を行なうことができる問題設定をし、講義を行います。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	野生動物への餌づけ 野生動物へ餌をあげることによる影響
第 3 回	野生動物の交通事故 野生動物の交通事故の原因と対策
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち 1 レッドリスト、レッドデータブックとは何か
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち 2 生物の絶滅原因
第 6 回	動物園の役割と今後 1 動物園は必要？動物園の実態とは？
第 7 回	動物園の役割と今後 2 動物園を評価するための準備と予備知識
第 8 回	動物園の役割と今後 3 動物園評価の方法とその意味
第 9 回	動物園の役割と今後 4 動物園評価の発表
第10回	動物園の役割と今後 5 動物園の将来像
第11回	ペットと私たちの生活 1 身近なペット、イヌ・ネコ
第12回	ペットと私たちの生活 2 外来生物が引き起こす問題、輸入規制対象となる飼育動物
第13回	ペットと私たちの生活 3 飼育動物に関する法律
第14回	ペットと私たちの生活 4 ペット産業の実態
第15回	ペットと私たちの生活 5 イヌ・ネコの命を救う活動

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をします。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう場合があります。

履修上の注意

可能な限り前期の「自然科学」を履修するようにしてください。本講義は、受講生にとって興味深いであろうとおきの問題の題材ばかりを集め、また、受講生の人生観や価値観を変えるかもしれないような内容も用意しています。魅力的な講義ができるよう最大限の努力をしていますので、楽しみにしておいてください。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到達目標

「環境問題」について、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する「多面的視点」を養うことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (30%)	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ 100%理解している。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力 (40%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施 レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

- ・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」 30 の物語』
- ・著者名：小島望
- ・出版社名：農山漁村文化協会出版
- ・出版年：2010 年

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目 選択

授業概要

『Business Talk やさしいオフィス英語』という教科書を使い、大学生が商社に履歴書を送り、面接を受けるまでの成長の過程において、ビジネスに必要な英語の語彙と表現を学び、受講生が就職活動をするとき、さらには入社してから必須となる英語の知識を身につけられるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 教科書の説明など
第 2 回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第 3 回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう (2) オーラルプラクティス・ライティング
第 4 回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう (3) 確認と復習
第 5 回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第 6 回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう (2) オーラルプラクティス・ライティング
第 7 回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう (3) 確認と復習
第 8 回	これまでのまとめと復習
第 9 回	Unit 3: 英語での面接に備えよう (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第10回	Unit 3: 英語での面接に備えよう (2) オーラルプラクティス・ライティング
第11回	Unit 3: 英語での面接に備えよう (3) 確認と復習
第12回	Unit 4: 英語で面接を受ける (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第13回	Unit 4: 英語で面接を受ける (2) オーラルプラクティス・ライティング
第14回	Unit 4: 英語で面接を受ける (3) 確認と復習
第15回	定期試験対策 これまでのまとめと復習

予習・復習

- ・予習：次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。
- ・復習：授業後には、授業中にとったノートとテキストを使い、読み、書き、繰り返し発音して復習すること。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。小テストを行うときは告知するので、かならず前もって準備をすること。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し音声を聴き、発音して復習してくる（音声データは出版社のサイトからダウンロードできる）。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

到達目標

学生が、ビジネスのさまざまな場面で用いられる英語の語彙や表現を習得することによって、英語の基本的な日常会話能力、英語圏における常識や教養、英語による履歴書やメールなどの文章表現力など、総合的な英語力を身につけることができるように指導する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
英語の基本的な日常会話能力（50%）	相手の言うことが理解でき、十分な会話の発信もできる。	十分ではないが、相手の会話が理解でき、意思疎通が可能である。	聞き取り能力はあるが、発信能力が不足している。	英語力に関する基本的な学力がやや不足し、努力を要する。	英語の基礎力からの再養成が必要である。
英語圏の異文化における常識や教養（20%）	異文化理解に必要な知識を十分にできている。	英語圏の異文化理解のための教養をおおむね修得している。	異文化理解のための文化的基礎力がやや不足している。	異文化理解に、基本的な教養が不足し、努力を要する。	基本的な教養、社会的通念の再要請が必要である。
英語による履歴書やメールなどの文章表現力（30%）	英語で業務に必要な文章を独力で十分に作成できる。	メールなどの一般的な英語の文章は作成できる。	フォーマルな英語を作成するのにやや努力を要する。	英語による日常的文章作成に基本的能力がやや不足し、努力を要する。	英語による日常的文章作成ができない。

評価方法

予習・復習の有無、随時行う小テスト、課題の提出などを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。評価方法は、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。定期試験 60% 受講態度（提出物・小テスト）40%

テキスト

- ・教科書名：『*Business Talk* やさしいオフィス英語』
- ・著者名：城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年（ISBN）：1997年（978-4-7919-4711-9）

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	1	選択	外国語科目 選択

授 業 概 要

グローバル化が進む現代社会において日常生活で英語を使う能力がこれまで以上に求められています。活躍の機会を増やすには、英語でコミュニケーションをする能力も不可欠です。

この授業では、身近なトピックを題材にして、基本的な英会話の定型表現を学び、最終的には、そのトピックについて自分の意見を英語で表現できることを目指します。

また、英語でコミュニケーションをするには、自分の意見を英語で表現する力だけでなく、相手の意見を聞き、理解する力も必要です。英語独特のリズムに留意して会話の音声を聴き、さらにペアワークを行い、英語を聴く力も養っていきます。授業では何度も繰り返し発音練習を行うと同時に、何度も発言していただきます。自分から授業に積極的に参加する姿勢が求められます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション（授業内容、成績評価、英語の学習方法等の説明）
第 2 回	Unit 1 Nice to meet you. I-III（自己紹介をする）
第 3 回	Unit 1 Nice to meet you. IV-VI（自己紹介をする）
第 4 回	Unit 2 What do you like to do? I-III（趣味について話す）
第 5 回	Unit 2 What do you like to do? IV-VI（趣味について話す）
第 6 回	Unit 3 Where are you from? I-III（出身地について話す）
第 7 回	Unit 3 Where are you from? IV-VI（出身地について話す）
第 8 回	Unit 4 Who's that? I-III（家族について話す）
第 9 回	Unit 4 Who's that? IV-VI（家族について話す）
第10回	Unit 5 Where's that? I-III（場所について話す）
第11回	Unit 5 Where's that? IV-VI（場所について話す）
第12回	Unit 6 How do we get there? I-III（交通手段について話す）
第13回	Unit 6 How do we get there? IV-VI（交通手段について話す）
第14回	Unit 7 Are you hungry? I-III（食べ物について話す）
第15回	Unit 7 Are you hungry? IV-VI（食べ物について話す）& この授業のまとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：単語、会話の意味を調べる。会話の音声を聴いて、何度も発音する。
- ・復習：単語、会話の意味を確認する。会話の音声を聴いて、何度も発音を繰り返し、自分の意見を英語で表現できるようにする。

履修上の注意

教科書は必ず購入し、授業に持参すること。持参しなければ出席とみなされません。授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、遅刻のないように注意し、授業に積極的に参加すること。遅刻は3回で欠席1回とします。

到達目標

相手の発言を聴き、自分の意見を英語で表現できる、基礎的な英語のコミュニケーション能力を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準えい				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
リスニング力 (20%)	与えられたリスニングの問題がほぼすべて聴き取れる。	与えられたリスニングの問題が7, 8割聴き取れる。	与えられたリスニングの問題が半分ぐらい聴き取れる。	与えられたリスニングの問題が3, 4割聴き取れる。	与えられたリスニングの問題がほぼすべて聴き取れない。
英語の内容理解 (20%)	他の受講生にアドバイスができるほど、教科書の英語が理解できる。	辞書等を参照せずに独力で教科書の英語が理解できる。	辞書等を参照すれば、独力で教科書の英語が理解できる。	他人からアドバイスをあれば、教科書の英語が理解できる。	他人からアドバイスがあっても、教科書の英語の理解が困難である。
英語で自分の意見を表現できる (課題) (40%)	単語を適切に並べて、多様な表現方法で、独力で自分の意見を適切に表現できる。	単語を適切に並べて、独力で自分の意見を適切に表現できる。	独力で自分の意見を伝えられるものの、単語の並べ方、表現方法等を工夫する必要がある。	他人からアドバイスをあれば、自分の意見をなんとか伝えることができる。	他人からのアドバイスがあっても、自分の意見を伝えることが難しい。
授業内活動の積極性 (20%)	ともに活動する相手の活動を促すほどの積極性が見られる。	自分から積極的に活動する。	自分から活動はするが、やや積極性に欠ける。	自分から活動しようとするが、消極的である。	促されなければ活動せず、極めて消極的である。

評価方法

課題 30% + 小テスト 10% + 授業参加度 10% + 定期試験 50%
詳細については、初回の授業にて説明します。

テキスト

- ・教科書名：Complete Communication Book 1 -Basic-
- ・著者名：James Bury, Anthony Sellick, 堀内香織
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年：2022年

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目 選択

授 業 概 要

この授業は初めて中国語を学ぶ学習者を対象とするものである。中国語の発音、基礎単語、文法を習得し、日常的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、中国関連の視聴覚資料などを通じて、現代中国の文化や社会にたいする理解力を高めていくように講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容		
第 1 回	中国語と中国の概況、簡単な中国語のあいさつ言葉、発音の基礎（声調）		
第 2 回	発音の基礎（単母音、子音）		
第 3 回	発音の基礎（複合母音、鼻母音）、数字の言い方		
第 4 回	第1課 老师好！	単語、会話、文法（人称代名詞、“是”の文、名前の言い方）	
第 5 回	第1課 老师好！	会話、練習問題、クラス活動	
第 6 回	第2課 你去哪儿？	単語、会話、文法（副詞「也」、疑問詞疑問文、省略疑問文）	
第 7 回	第2課 你去哪儿？	会話、練習問題、クラス活動	
第 8 回	第3課 这是什么？	単語、会話、文法（指示代名詞、形容詞文、助動詞「想」）	
第 9 回	第3課 这是什么？	会話、練習問題、クラス活動	
第10回	第4課 四川菜很好吃。	単語、会話、文法（動詞「在」、連動文、文末助詞「吧」）	
第11回	第4課 四川菜很好吃。	会話、練習問題、クラス活動	
第12回	第5課 我们几点出发？	単語、会話、文法（動詞「有」、時間名詞、手段を表す表現）	
第13回	第5課 我们几点出发？	会話、練習問題、クラス活動	
第14回	第6課 你会用微信了吗？	単語、会話、文法（助動詞「会」、助詞「了」、前置詞「在」）	
第15回	第6課 你会用微信了吗？	会話、練習問題、総合復習	

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：各課の前に、その課の単語や文法の説明を予習すること。
- ・ 復習：授業で習った文法、単語、会話文を復習し、覚えること。

履修上の注意

積極的な授業参加の態度が重視される。
遅刻 3 回は無断欠席 1 回となる。

到達目標

1. 正しい発音、基礎単語、文法をマスターする。
2. 中国語で自分の名前や自己紹介などを言えるようになる。
3. 教科書の表現を覚え、実際の場面に生かすことができるようになる。
4. 中国文化の映像などを通じて、中国語学習の興味を高めるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
語彙・文法の習 得度 (60%)	授業における教 員の説明を聞いて 理解でき、習 得できる。	授業で文法や語 彙の使い方の説明 を聞いて教科 書の内容をほと んど理解でき る。	授業で文法や語 彙の使い方の説明 を聞いて教科 書の内容を多く 理解できる。	授業で文法や語 彙の使い方の説明 を聞いて教科 書の内容を最低 限に理解でき る。	授業で文法や語 彙の使い方の説明 を聞いて教科 書の内容を最低 限に理解できな い。
発音習得度 (20%)	一人で音声を聞 いて正しく発音 できる。	一人で音声を聞 いてある程度、 正しく発音でき る。	授業で教員の発 音を聞いて、や や正しく発音で きる。	授業で教員の発 音を聞いて、指 摘されながら、 正しく発音でき る。	教員の発音を聞 いて、何回も指 摘されても、う まくまねできな い。
異文化理解力 (20%)	授業で視聴覚資 料などを通じて 中国の文化を説明 できる。	授業で視聴覚資 料などを通じて 中国の文化を多く 理解できる。	授業で視聴覚資 料などを通じて 一部の中国の文 化を理解でき る。	授業で視聴覚資 料などを通じて 中国の文化を最低 限に程度理解 できる。	授業で視聴覚資 料などを見ても 理解できない。

評価方法

学期末試験 70%、小テスト 20%、授業態度 10%

テキスト

テキストは来年出版される予定であるため、購入の必要はない。その代わりに、毎回の授業の前にテキストの PDF ファイルを配布する。各自でプリントアウトして予習し、必ず授業に持って行くこと。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目 選択

授 業 概 要

言葉は文化の一部であり、他者の文化を理解するための入り口でもある。そのため、自他理解の出発点とも言える外国語の必要性は益々高まる一方である。外国語の中でも韓国語は、日本語と語順が似ている点で学びやすく短期間でも文字が読めるとても魅力的な言語である。この講義では、韓国語・韓国文化学習を通じて国際異文化理解を深めることを主たる目的とし、韓国語の基礎的なコミュニケーションに必要なハングル文字の読み書きはもちろん、簡単な読解と日常会話・観光ビジネス会話ができることを目指す。授業の7回目までは、発音の練習と読み書き、単純な会話が中心で、正確な発音を身につけてもらい同時に聞く、書く、読む力をつけて行く。

基本の読み書きが終わったら毎回、基礎文法事項を活用し言語活動を行う。言語活動時には、異文化体験やリスニングのためにドラマや映画、音楽など韓国文化にも触れながら学習者が緊張せず、自由に話せるように指導する。さらに卒業後、韓国係会社の就職を考える学生のためにも韓国語能力試験（TOPIK）2～3級を目指したいと考えている。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス及び韓国の文字（ハングル）と音韻体系
第 2 回	あいさつと韓国語の基本母音 ◇「自己紹介」＊発表
第 3 回	ハングルの子音①「平音」 ◇文化体験（映像 15 分）
第 4 回	ハングルの子音②「平音」と「複合母音 ‘에 (エ)’」 ◇文化体験（映像 15 分）
第 5 回	ハングルの子音③「激音」子音④「硬音（濃音）」 ◇文化体験（映像 15 分）
第 6 回	ハングルの複合母音 ◇文化体験（映像 15 分）
第 7 回	パッチムと発音の変化・読み書き練習・音楽 ◇文化体験（映像 15 分）
第 8 回	天気の実用表現—助詞「～は・～が」、肯定文・疑問文「～です・～ですか」
第 9 回	趣味を言う—指示代名詞「これ・それ・あれ」、助詞「～も」、疑問詞「何」 ◇文化体験（映像 15 分）
第 10 回	場所や存在の有無を説明する—「～にある・いる」「～にない」、位置名詞、 疑問詞「どこ」、助詞「～と」＊発表
第 11 回	好みを聞く「好きな料理について」否定形「～ない」 ◇文化体験（映像 15 分）
第 12 回	道案内「行きたい場所を聞く」願望の実用表現「～たい」 ◇文化体験（映像 15 分）
第 13 回	電車の乗り換え「動詞・形容詞の丁寧語及び過去形」
第 14 回	歴史・映画①『7 番房の贈り物』前半「1950 年以降の韓国社会を中心に」
第 15 回	歴史・映画②『7 番房の贈り物』後半「冤罪が生まれるシステムを考える」・まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：毎回、提示されるテキストを読んてくること。
- ・復習：小テストのために毎回提示される課題をやってくること。

履修上の注意

1. 外国語の授業なので、ペアで行う言語演習活動など授業への積極的な参加が求められる。
2. 30 分以内の遅刻でも授業への積極さを考慮し、出席とする。

到達目標

1. ハングルの発音表記をマスターして、正確な発音と読み書きができる。
2. 基礎的な文法事項を応用して、韓国語で簡単なコミュニケーションができる。
3. 韓国語での多様な会話演習活動を通じてグローバルビジネスに必要な言語力を高める。
4. 韓国文化・韓国社会についての知識及び異文化理解を深める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
読み書き (40%)	ハングル文字が 正確に読み書き でき、文章の構 造も理解でき る。	ハングル文字が 正確に読み書き できる。	正確ではない が、ハングル文 字が大体読み書 きできる。	最低限のハング ル文字しか読み 書きできない。	指導しないとハ ングル文字が読 み書きできな い。
リスニング (20%)	会話の主旨や基 本的な文脈、難 しい語彙も理解 できる。	会話の基本的な 文脈や簡単な語 彙が理解でき る。	会話の簡単な語 彙やよく使用さ れる句が理解で きる。	会話の簡単な語 彙しか理解でき ない。	会話の極限られ た語彙しか理解 できない。
表現力 (40%)	語彙や文型、文 法を正確に使 え、さらに応用 できる。	語彙や文型、文 法を正確に使え る。	語彙や文型、文 法の使いに多少 の間違いがあ る。	最低限の語彙や 文型、文法しか 使えない。	指導しないと単 語や文型、文法 を正確に使えな い。

評価方法

平常点 (50%—毎回の言語演習参加度 20%・簡単な小テスト 10%・課題 10%・発表 1 回 10%)、試験 (50%)

テキスト

テキストのページ数と授業回数を考慮したところ、テキストの全てを活用することができないため、テキストは使用せず、プリント教材を配布する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

大学に入学し初めて経営学を学ぶ学生のための授業です。この科目は今後学生の皆さんがより高度な経営学を学ぶためのベースとなるような内容を考えています。難しい専門用語を多用するようなことはなるべく避け、わかりやすく学んでいくことを目標とします。

授業回	授業内容
第 1 回	授業の進め方・成績評価・テキストについて説明, 生活を支える企業について学ぶ
第 2 回	企業を取り巻く環境変化と企業経営について学ぶ
第 3 回	現代企業と経営学を学ぶ意義は何か, について学ぶ
第 4 回	企業はだれが経営し, 動かしているのか基本的なことを学ぶ
第 5 回	企業は何を目指して活動しているのかについて基本を学ぶ
第 6 回	企業が利用できる経営資源は何かについて知識を得る
第 7 回	企業はどのように経営組織を作るのか, 経営を動かす仕組みを知る
第 8 回	企業の組織はどのように作られ動いているのかを知る
第 9 回	企業はどのように競争し, また協力しているのか
第 10 回	企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
第 11 回	企業はどのように製品やサービスを開発するのか
第 12 回	企業はどのように資本を調達し資金を運用するのか
第 13 回	企業はどのように資本を調達し資金を運用するのか
第 14 回	企業はどのようにして文化を育むのか
第 15 回	半期のまとめと振り返りと期末レポートの作成

予 習 ・ 復 習

- ・予習: 所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと
- ・復習: 授業で学んだことも含め, どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意

1. この授業は教科書の内容に即して進めることを計画しています
2. 教科書を常に参照し、予習や復習を自主的に行ってください
3. 一般教養科目もこの授業を理解するためにしっかり学習してください
4. 授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください

到達目標

1. 企業や会社は経営能力が必要とされている。組織の経営に課する基礎的事項を理解できるようになる。
2. 会社や企業で要求される基礎的経営知識を身に付けると共に、行動案を立案できるようになる。
3. 自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (60 %)	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力（レポート） (40 %)	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが、説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない

評価方法

1. 期中に課すレポート 40%（テキストの内容に基づき出題する）
2. 期末レポート 60%（15回目の授業時に授業の振り返りの後実施し、終了時間内に回収する）

テキスト

- ・教科書名：『実学 企業とマネジメント』
- ・著 者 名：吉沢正広編著
- ・出版社名：学文社
- ・出 版 年（ISBN）：9784762027918

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

若い頃選んだ職業を何十年も続ける人もいれば、変えていく人もいます。就業形態、職種、勤務先で働き方は様々です。職業上の選択は皆さんの暮らしや生き方に大きな影響を及ぼします。納得できる選択ができるよう、次のようなことを指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明。
第 2 回	キャリアデザインの必要性 キャリアデザインの有無が人生を大きく左右することについて、大学生活の充実について。
第 3 回	お金と人生：人間の一生に関わるお金のこと ライフイベントでかかるお金、生涯賃金など、かかるお金、もらえるお金の平均を学ぶ。
第 4 回	お金と人生：自分の一生に関わるお金のこと 就職、結婚、こども等、自分が思い描く将来にどのくらいお金がかかるか考えてみる。
第 5 回	就業形態で働き方と処遇はどう違うか 就業形態とは何か、どんな種類があり、どうして様々な就業形態があるかを学ぶ。
第 6 回	就業形態で働き方と処遇はどう違うか その1 非正規従業員として働くことのメリットを学ぶ。
第 7 回	就業形態で働き方と処遇はどう違うか その2 非正規従業員として働くことのデメリットを学ぶ。
第 8 回	就業形態で働き方と処遇はどう違うか その3 正社員という働き方のメリット、デメリットを学ぶ。
第 9 回	振り返り（中間）：授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。 これまでの授業で何を知り、何ができるようになり、思いや行動がどう変わったか確かめる。
第10回	自己分析 その1 就職活動の流れ 就職活動で最初に取り組むとされる自己分析。そもそも就活はどう進むのかを学ぶ。
第11回	自己分析 その2 自己分析は何のために 自己分析はなんのために、どこまでやるか。自己分析の結果を何にどう使うか。
第12回	自己分析 その3 自己分析と就職活動の戦略 就職活動がうまくいくのはどういう人なのか、その共通点を学ぶ。
第13回	自己分析 その4 職業に対する自分の志向を知る 自分はどんなところでどんなふうに働きたいのかを考える。
第14回	自己分析 その5 自己の能力・資質を分析 「社会人基礎力チェックシート」等を活用し就活でアピールできる自分の強みを探す。
第15回	振り返り（総括）：授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。 これまでの授業で何を知り、何ができるようになり、考えや行動がどう変わったか確かめる。

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

- ・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。
- ・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。そして、できれば次の授業で教員がどんなことを言うか予想してみてください。

履修上の注意

- ・電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。
- ・やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
- ・授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到達目標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。

- 1 自分が望んでいる働き方を「なんとなく」ではなく、言葉で書き表すことができる。
- 2 自分はどのようなところで働きたいと思っているのか、言葉で書き表すことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
書く力 (30%)	指導内容を十分に理解し自分で考え工夫している。	指導内容の大半は理解できている。	指導内容を理解できていないところがややある。	指導内容の最低限は理解している、期限を過ぎている。	書いていない、書いても提出していない。
理解・成長度 (50%)	指導内容を十分に理解し、思考・行動に生かすことができる。	指導内容の大半は理解し、成長している。	指導内容を理解できていないところがややある。	指導内容の最低限は理解している	指導内容をほとんど理解できていない。
姿勢・行動 (20%)	自分のために自ら考え、実行することが常にできている。	自分のために自ら考え、実行することができている。	自分のために自ら考え、実行することにやや消極的である。	自分のために自ら考え、実行することに消極的である。	自分のために自ら考え、実行する兆しがない。

評価方法

- ・提出物 (30%) : 「書く力」に対応します。
- ・学期末試験 (50%) : 「理解・成長度」に対応します。
試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
- ・受講態度 (20%) : 「姿勢・行動」に対応します。自分のためにどれだけ主体的に考え行動するかです。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

この授業では、採用する側がどんな視点で学生を見ているのか、就職のために、いつ頃、どのようなことをすれば良いのかを学びます。採用とは、企業にとって「一緒に働く仲間を探す活動」だということを前期のキャリアデザインⅠに続いて繰り返し説明します。履歴書作成にも挑戦していただきます。就職活動の指導を専門とする方々をお迎えしてのスペシャル講義も設けて指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明。
第 2 回	特別講師を迎えてのスペシャル講義 就職活動の進め方、就活サイトの利用に関する説明。
第 3 回	履歴書を書いてみる① 履歴書を受け取る側の事情を理解し、集まった履歴書をどのように見るかを学ぶ。
第 4 回	履歴書を書いてみる② 履歴書を書くときの基本的ルールを学び、ルールに従って書いてみる。
第 5 回	履歴書を書いてみる③ 履歴書 1 枚で自分という人間を読み手にイメージしてもらうための書き方を学ぶ。
第 6 回	履歴書を書いてみる④ 自分という人間、自分の能力・資質を伝える履歴書を完成させる。
第 7 回	振り返り（中間）：授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。 これまでの授業で何を知り、何ができるようになり、思えや行動がどう変わったか確かめる。
第 8 回	面接① 面接の基礎と心構え 面接の身だしなみ、持ち物、面接の所作、面接の種類、面接の段階。
第 9 回	面接② 質問の意図を考える その質問で何が知りたいのか、どう答えれば面接官が納得するかを学ぶ。
第 10 回	面接③ 人が人を選ぶということを理解する 「一緒に働く仲間」を選ぶということは、具体的にどういうことか自分なりの理解を持つ。
第 11 回	面接④ 人は人をどこで見ているかを理解する 面接官はどこで学生の人柄や能力・資質を推察しているのか。
第 12 回	情報を集める① 情報を集める目的、方法 集めた情報で何をするのか・すべきか。情報はどこで集められるのか。
第 13 回	情報を集める② 集めた情報から説得力のある志望動機にどうつなげるか 採用する側は志望動機をどう見るのか。視点を理解して集めた情報を効果的に使う。
第 14 回	就職活動の流れのおさらい 就活に必要なマナー：人と会うときの準備や礼儀、フォローの重要性を理解する。
第 15 回	振り返り（総括）：授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。 これまでの授業で何を知り、何ができるようになり、考えや行動がどう変わったか確かめる。

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

- ・復習：毎回の授業の後で次の 3 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。
- ・予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。そして、できれば次の授業で教員がどんなことを言うか予想してみてください。

履修上の注意

- ・電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。
- ・やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
- ・授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。
- ・「キャリアデザインⅠ」の単位が取れていなくても、履修することが可能です。

到達目標

皆さんが次のような状態に到達することを目標とします。

- ①就職活動に必要な履歴書等の書類を書けるようになる。
- ②就職活動の流れや準備、就活生に必要な見方・考え方を理解し、就活に生かせる。
- ③就職、就職活動、将来のために自分で考え、行動できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
書く力 (30%)	指導内容を十分に理解し自分で考え工夫している。	指導内容の大半は理解できている。	指導内容を理解できていないところがややある。	指導内容の最低限は理解している、期限を過ぎている。	書いていない、書いても提出していない。
理解・成長度 (50%)	指導内容を十分に理解し、思考・行動に生かすことができる。	指導内容の大半は理解し、成長している。	指導内容を理解できていないところがややある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
姿勢・行動 (20%)	自分のために自ら考え、実行することが常にできている。	自分のために自ら考え、実行することができている。	自分のために自ら考え、実行することにやや消極的である。	自分のために自ら考え、実行することに消極的である。	自分のために自ら考え、実行する兆しがない。

評価方法

- ・提出物 (30%) : 「書く力」に対応します。履歴書は最重要提出物です。
- ・学期末試験 (50%) : 「理解・成長度」に対応します。
試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
- ・受講態度 (20%) : 「姿勢・行動」に対応します。自分のためにどれだけ主体的に考え行動するかです。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理して、企業の経営成績と財政状態をあきらかにする記帳技術です。簿記Ⅰにおいては、この簿記の入門的な知識および技術を講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	簿記の基礎概念(1)
第 2 回	簿記の基礎概念(2)
第 3 回	簿記上の取引概念(1)
第 4 回	簿記上の取引概念(2)
第 5 回	勘定と仕訳(1)
第 6 回	勘定と仕訳(2)
第 7 回	帳簿の記入(1)
第 8 回	帳簿の記入(2)
第 9 回	決算と財務諸表(1)、とくに試算表(1)について
第10回	決算と財務諸表(2)、とくに試算表(2)について
第11回	決算と財務諸表(3)、とくに財務諸表(1)について
第12回	決算と財務諸表(4)、とくに財務諸表(2)について
第13回	現金と預金(1)
第14回	現金と預金(2)
第15回	まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
- ・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

- 簿記会計の基礎となる科目なので、その他の簿記会計科目を履修しようと考えている人は特に力をいれて学習してください。
- 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。
- 毎回電卓を持参してきてください。
- コロナの影響で、授業形態、授業内容が変更される場合があります。

到達目標

①簿記の基礎概念が理解できる。②簿記上の取引が理解できる。③基本的な仕訳ができる。④転記ができる。

本講受講後に、全国経理協会の「基礎簿記会計」には合格してもらいたいとおもいます。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力 (40%)	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就職などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

期末試験の成績 (40%+30%) 受講態度 30%

テキスト

- 教科書名：『新検定簿記講義 3 級商業簿記』
 - 著者名：渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著
 - 出版社名：中央経済社
 - 出版年：2023 年
- 教科書名：『新検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』
 - 著者名：渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著
 - 出版社名：中央経済社
 - 出版年：2023 年

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

簿記Ⅰでは、商業の小企業で必要とされる簿記上の入門的な知識および技術を修得しました。簿記Ⅱでは、引き続き、商業の小企業で必要とされる簿記上の基礎的な知識および技術を講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	商品売買(1)
第 2 回	商品売買(2)
第 3 回	売掛金と買掛金(1)
第 4 回	売掛金と買掛金(2)
第 5 回	その他の債権債務(1)
第 6 回	その他の債権債務(2)
第 7 回	手形(1)
第 8 回	手形(2)
第 9 回	固定資産(1)
第10回	固定資産(2)
第11回	収益と費用
第12回	合計残高試算表
第13回	精算表と財務諸表
第14回	伝票会計
第15回	重要論点の復習

予 習 ・ 復 習

- ・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
- ・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 簿記Ⅰとともに、簿記会計の基礎となる科目なので、その他の簿記会計科目を履修しようと考えている人は特に力をいれて学習してください。
2. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。
3. 毎回電卓を持参してきてください。
4. コロナの影響で、授業形態、授業内容が変更される場合があります。

到達目標

簿記Ⅰの目標は、受講生の皆さんが①簿記の基礎概念が理解できる、②簿記上の取引が理解できる、③基本的な仕訳ができる、④転記ができる、であったが、それを前提に、簿記Ⅱの目標は、⑤補助簿の作成ができる、⑥基本的な決算手続きができる、となる。

本講受講後に、全経簿記 3 級はもちろんですが、日商簿記 3 級に合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (40%)	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就職などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

試験の成績 70% 受講態度 30%

テキスト

- 1・教科書名：『新検定簿記講義 3 級商業簿記』
・著 者 名：渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著
・出版社名：中央経済社
・出 版 年：2023 年
- 2・教科書名：『新検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』
・著 者 名：渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著
・出版社名：中央経済社
・出 版 年：2023 年

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

ビジネス実務に必要なパソコンの知識と技能を習得するために、パソコンの使用方法和パソコン利用の基礎となるアプリケーションソフト（Microsoft Word／Microsoft Excel）の操作方法を、ハンズオン（体験型学習）形式で指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方と成績の評価方法についての説明／Microsoft (Office) 365 の基本設定
第 2 回	パソコンの基本操作 ① Microsoft Teams の基本設定／パソコンを学ぶことの意義とパソコンの基礎の理解
第 3 回	パソコンの基本操作 ② Microsoft Word ファイルの作成（アプリの起動）／簡単な文字入力
第 4 回	パソコンの基本操作 ③ 簡単な文書作成とタイピング練習
第 5 回	インターネット検索 Web ブラウザと検索エンジンの理解／インターネット検索による情報収集
第 6 回	電子メールの設定と使用 ① ドメインの理解／Outlook の操作方法／電子メールの送受信／添付ファイルの送受信
第 7 回	電子メールの設定と使用 ② 電子メールの署名の設定／電子メールの書き方とマナー（件名・宛名・本文・署名）
第 8 回	Web 会議システム（Zoom）の基本操作 サインアップ／ダウンロード／サインイン／基本機能の理解／会議への参加など
第 9 回	Microsoft Word を使った文書作成 ① イラストを使ったチラシの作成（図形の組み合わせによるイラストの作成など）
第10回	Microsoft Word を使った文書作成 ② アンケート用紙の作成（文字・文章の編集やレイアウトなどの詳細設定など）
第11回	Microsoft Word を使った文章作成 ③ 施設利用申込書の作成（表の作成や行間・列幅の設定／塗りつぶしの装飾など）
第12回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ① Excel の画面構成と機能の理解／表の作成と装飾（基礎）／表計算（基礎）
第13回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ② Excel の画面構成と機能の理解（復習）／表の作成と装飾（応用）／表計算（応用）
第14回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ③ グラフの種類と用途の理解／グラフの作成（縦棒・積み上げ縦棒・集合縦棒グラフ）
第15回	前期 定期試験対策（模擬試験）

予 習 ・ 復 習

- ・予習：講義で取り上げるテーマを必ず事前に確認すること（授業内で事前準備の指示あり）。
 - ・復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること（授業内で課題の指示あり）。
- ※タイピングの練習を毎日必ず 30 分以上行なうこと。

履修上の注意

1. 事前に充電を完了させたノートパソコンを毎回必ず持参すること。
2. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. パソコンの基本機能と操作方法を理解する。
2. キーボードの文字入力・タイピングを習得する。
3. アプリケーションソフト（Microsoft Word/Microsoft Excel）の基本機能を理解するとともに、基礎的な操作方法を習得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
パソコンの基本操作 (20%)	講義で取り上げていないパソコンの機能を応用することができる。	講義で取り上げたパソコンの機能を活用することができる。	パソコンの機能がある程度活用することができる。	パソコンの機能を活用することは不十分だが、アプリケーションソフトがある程度操作することができる。	アプリケーションソフトの操作が不十分である。
Microsoft Wordの基本操作 (30%)	講義で取り上げていないWordの機能を応用することができる。	講義で取り上げたWordの機能を活用することができる。	Wordの機能がある程度活用することができる。	Wordの機能を活用することは不十分だが、Wordで文章を入力することができる。	Wordでは不完全な文章しか入力できない。
Microsoft Excelの基本操作 (50%)	講義で取り上げていないExcelの機能を応用することができる。	講義で取り上げたExcelの機能を活用することができる。	Excelの機能がある程度活用することができる。	Excelの表計算は不十分であるが、Excelで表を作成することができる。	Excelでは不完全な表しか作成できない。

評価方法

前期定期試験 40%、提出課題（合計 10 種類を予定） 40%、受講態度 20%

テキスト

- ・ 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- ・ 講義で用いた資料はMicrosoft Teamsの「情報処理Ⅰ」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

ビジネス実務に必要なアプリケーションソフト (Microsoft Word/Microsoft Excel/Microsoft PowerPoint) の実践的活用方法を習得するために、就職活動や就職後に役立つ資料作成の技能をハンズオン (体験型学習) 形式で指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や情報処理Ⅱの最終ゴール、成績の評価方法などについての説明など
第 2 回	Microsoft Word の実践的活用方法 ① Word を使ったポスターの作成 (イベントの告知)
第 3 回	Microsoft Word の実践的活用方法 ② Word を使ったレポートの作成 (論文・レポートの書き方)
第 4 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ① Microsoft Excel を使った表計算とグラフの作成/データの解釈方法 1 (日本の財政規模)
第 5 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ② Excel を使った表計算とグラフの作成/データの解釈方法 2 (年収ランキング)
第 6 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ③ Excel を使った表計算とグラフの作成/データの解釈方法 3 (平均年収の推移)
第 7 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ④ Excel を使った表計算とグラフの作成/データの解釈方法 4 (生産性・経済成長)
第 8 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ⑤ Excel を使った表計算とグラフの作成/データの解釈方法 5 (データの代表値)
第 9 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ⑥ Excel を使った表計算とグラフの作成/データの解釈方法 6 (相関係数の計算)
第 10 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ① 効果的なプレゼンテーション資料の作成 1 (イベント案内資料の作成)
第 11 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ② 効果的なプレゼンテーション資料の作成 2 (スライドデザインの活用)
第 12 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ③ 効果的なプレゼンテーション資料の作成 3 (オリジナルテンプレートの作成)
第 13 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ④ 自己 PR プレゼンテーション資料の作成 1
第 14 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ⑤ 自己 PR プレゼンテーション資料の作成 2
第 15 回	後期 定期試験対策 (模擬試験)

予 習 ・ 復 習

- ・予習：講義で取り上げるテーマを必ず事前に確認すること (授業内で事前準備の指示あり)。
- ・復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること (授業内で課題の指示あり)。

※文章入力が苦手だと感じている履修生は、情報処理Ⅰに引き続き、タイピングの練習を毎日必ず 30 分以上行なうこと。

履修上の注意

1. 事前に充電を完了させたノートパソコンを毎回必ず持参すること。
2. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. 文字の装飾や図形・画像の挿入、レイアウトのデザインなど、Microsoft Word の応用機能を習得する。
2. グラフの種類と用途を使い分けすることができる（Microsoft Excel）。
3. スライド資料のストーリー作成と図・文字・色・レイアウトなどの装飾を表現することができる（Microsoft PowerPoint）。
4. 自己 PR プレゼンテーション資料を作成することができる（Microsoft PowerPoint）。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
Microsoft Word の機能の習得 (20%)	講義で取り上げていない Word の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Word の高度な機能を活用することができる。	Word の高度な機能のある程度活用することができる。	Word の高度な機能を活用することは不十分だが、Word で文書・資料を作成することができる。	Word では不完全な文書・資料しか作成できない。
グラフの種類 と用途の使い 分け； Microsoft Excel (30%)	講義で取り上げていない Excel の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Excel の高度な機能を活用することができる。	Excel の高度な機能のある程度活用することができる。	Excel の表計算は不十分であるが、Excel で表を作成することができる。	Excel では不完全な表しか作成できない。
スライド資料の ストーリー作成 と装飾の表現； Microsoft PowerPoint (20%)	講義で取り上げていない PowerPoint の機能を応用することができる。	講義で取り上げた PowerPoint の機能を活用することができる。	PowerPoint の機能のある程度活用することができる。	PowerPoint の操作は不十分であるが、スライド資料のある程度作成することができる。	PowerPoint では不完全な資料しか作成できない。
自己 PR プレゼン テーション 資料の作成 (30%)	自分の考えに反論する人も納得させることができる。	自分の考えを論理的に説明することができる。	自分の考えを他人に伝えることができる。	論理にあいまいさが残るが、ある程度自分の考えを伝えることができる。	自分の考えを伝えることができない。

評価方法

提出課題（合計 12 種類を予定） 50%、後期定期試験 30%、受講態度 20%

テキスト

- ・ 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- ・ 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「情報処理Ⅱ」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

ゼミは大学生活で重要な役割を果たします。最初のゼミとなるゼミⅠでは、人間関係づくり、大学での学びの基本姿勢やスタディスキルを習得します。また、2年間の短期大学生活と卒業後のキャリア形成に欠かせないメディアセンター、キャリアセンター、エクステンションセンターの利用方法を学びます。所属ゼミの各チューターがそれぞれの専門性を生かして指導をします。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	履修指導 時間割作成の指導、
第 2 回	人間関係をつくる 自己紹介、グループワーク等
第 3 回	個別面談カード、かわたんシートの作成 大学にプロフィールや、短大2年間の目標などを伝えよう
第 4 回	学びの基本姿勢、スタディスキル 大学での望ましい・望ましくない姿勢・態度、授業の受け方等を学ぶ
第 5 回	アカデミックライティング入門 『簡易版 論文・レポートの書き方』でレポートなどに備える
第 6 回	 ・所属ゼミの各チューターの専門を生かしたゼミ活動 ・メディアセンターツアー ・キャリアセンターツアー ・エクステンションセンターツアー
第 7 回	
第 8 回	
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	専門ゼミの選択・決定 1年後期から卒業まで所属するゼミの選定
第 13 回	学園祭（10月開催予定）の準備 学園祭へのエントリーについて考えてみよう
第 14 回	大学での学びについて 専門分野を学ぶことの意味
第 15 回	総括 まとめと振り返り

予 習 ・ 復 習

別途、各チューターが指示します。

履修上の注意

別途、各チューターが指示します。

到達目標

別途、各チューターが指示します。

ルーブリック

別途、各チューターが指示します。

評価方法

別途、各チューターが指示します。

テキスト

学科共通のテキストとして冊子『簡易版 論文・レポートの書き方』を配付します。その他各ゼミでテキストを使用する場合は、別途、各チューターが指示します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する」ための学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく理解するための手法を身につけることを目的とします。おもに情報の整理や取捨・選択、それに基づいた合意形成の図り方などについて指導していきます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ゼミの進め方、自己紹介など
第 2 回	レポートの書き方 文章作成のルール
第 3 回	レポートの書き方 文章作成における様々な手法
第 4 回	レポート作成 1 レポート作成のための図書選別
第 5 回	レポート作成 2 PC ソフト『Word』による文章作成
第 6 回	レポート作成 3 レポート作成実践
第 7 回	レポート作成 4 レポート添削返却
第 8 回	動物福祉検定試験対策 映画『犬と猫と人間と』上映
第 9 回	動物福祉検定試験対策 人と動物の歴史について
第 10 回	動物福祉検定試験対策 家庭動物について
第 11 回	動物福祉検定試験対策 畜産動物について
第 12 回	動物福祉検定試験対策 実験動物・展示動物について
第 13 回	動物福祉検定試験対策 野生動物について
第 14 回	進学・就職希望調査と就活対策講座 模擬面接・履歴書の書き方講座
第 15 回	進学・就職希望調査と就活対策講座 模擬面接・履歴書の書き方講座

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次の講義でテーマを扱うにあって事前準備等の指示をします。
- ・復習：原則的に講義毎に必ず感想文あるいは成果物を提出してもらいます。これを基に復習をするようにしてください。

履修上の注意

本ゼミで行なう様々な取り組みに意欲的である学生を求めます。なお、ゼミ内での要望が多ければ、イヌネコの譲渡施設や博物館見学、ゼミ合宿など野外実習を行なうことがあります。

到達目標

おもに情報の収集と選択問題解決能力を開発することを目標とします。またゼミ内での要望が多ければ、「動物福祉検定」資格修得のための講義を行ない、検定試験に臨みます（上記授業計画は「動物福祉検定」を前提に作成しています）。要望があまり多くなければ行なわず、授業計画もゼミ生の要望に合わせて修正します。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (30%)	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力 (40%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内提出物 100%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

2 年時のゼミⅣで予定している会計学の研究に入る前に、まず、その基礎である簿記の技法について修得することを目標とします。

それにあたっては、模擬試験などを用いた演習形式で進めたいと思います。学習範囲は、資格試験の範囲で言えば日商簿記 3 級、全経簿記 3 級、2 級を想定しています。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	仕訳
第 3 回	勘定記入
第 4 回	合計残高試算表の作成(1)
第 5 回	精算表の作成(1)
第 6 回	商品売買
第 7 回	手形
第 8 回	合計残高試算表の作成(2)
第 9 回	合計残高試算表の作成(3)
第 10 回	収益と費用
第 11 回	精算表の作成(2)
第 12 回	精算表の作成(3)
第 13 回	資本金と引出金
第 14 回	伝票
第 15 回	重要論点の復習

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
- ・ 復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. ゼミ生の簿記に関する学習状況によっては、授業計画を変更する場合があります。
2. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到達目標

日商簿記3級、全経簿記3級、2級商業簿記の合格

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (40%)	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

配付資料

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

上半期はプレゼンとディスカッションをしてもらいます。働くことに関連する問題を扱った資料（論文や報告書、単行本）を選び、これについてプレゼンをして議論をしてもらい。「一緒にやる」ことを通して、協働の素地を作り、就職・進学に関する助言・指導の理解を促すことを意図しています。

下半期は、履歴書や面接に関する対策を中心に就職準備を指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2 年間におけるゼミⅡの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する。
第 2 回	プレゼンテーション、ディスカッションの方法 プレゼンファイル作成、プレゼン本番の注意点、ディスカッションのやり方を学ぶ。
第 3 回	共通資料についてプレゼンテーション その 1 担当者による発表、質疑応答、講評。
第 4 回	共通資料についてプレゼンテーション その 1 担当者による発表、質疑応答、講評。
第 5 回	共通資料をめぐるディスカッション その 1 準備 ディスカッションのやり方を学び、ディスカッションの準備をする。
第 6 回	共通資料をめぐるディスカッション その 2 本番 前回の準備を踏まえ、ディスカッションに挑戦してみる。
第 7 回	履歴書対策 その 1 価値観・資質の理解 自分はいったい何に興味・関心をもち、何を大事にし、何にどう反応するのか。
第 8 回	履歴書対策 その 2 価値観・資質の説明 自分の価値観や資質を、わかりやすく伝える。
第 9 回	履歴書対策 その 3 強みの理解 履歴書に書いてアピールにつながるような自分の強みを理解する。
第 10 回	履歴書対策 その 4 自己 PR に挑戦 履歴書を読む人にわかりやすく、会ってみたいと思わせる自己 PR を書く。
第 11 回	集団面接の練習 その 1 流れの理解 入室から退室までの流れを理解し、グループを作って集団面接をやってみる。
第 12 回	集団面接の練習 その 2 課題整理 前回に続いて集団面接をやってみて、課題を整理する。
第 13 回	集団面接の練習 その 3 課題達成度の確認 前回浮き彫りにした課題がどのくらいクリアできたかを確認し、本番に備える。
第 14 回	個別面接の練習 その 1 zoom を使ってみる Zoom を教室でみんなと一緒に使ってみる。まずは恐怖心を取り除くことに専念する。
第 15 回	個別面接の練習 その 2 zoom 面接の課題整理 就活本番を意識して、zoom 面接対策として何をしておくべきか課題を整理する。

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

- ・復習：毎回の授業の後で次の 3 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。
- ・予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。そして、できれば次の授業で教員がどんなことを言うか予想してみてください。

履修上の注意

- ・ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
- ・遅刻は、電車の遅延等合理的理由がある場合は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。やむを得ず欠席した場合、「履修のてびき」記載の手続きが必要です。
- ・遅刻・欠席した場合、その間の連絡事項などは自分から確認しにきてください。
- ・発表等があたっているときに穴をあけないことは最低限のルールです。個人として素晴らしい成果を収めても、ゼミ全体を盛り上げて貢献しようという心意気のない言動は評価できません。ゼミ全体に活気をもたらそうとする言動を高く評価します。

到達目標

- ・ゼミのメンバーと共に学ぶことで、姿勢・言動が「協働」に及ぼす影響がわかるようになることが目標です。それが次のゼミⅢや就職活動に生きてくるはずです。川短が「知」「徳」「技」の調和的な発達を目指している意義も、理解できると思います。
- ・その気づきを生かしたうえで就職、進学のための準備をしますが、全員が、相手＝志望先の視点で考えられるようになる状態に到達することを目指します。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
伝える力 (50%)	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動 (50%)	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

- 提出物・発表等 (50%) : 「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方、書き方ができているほど高く評価します。
- 受講態度 (50%) : 「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

教科書はありません。ゼミで一緒に読む本を購入する場合は適宜指示します。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

1 年生の後半のゼミとなるため就職活動に役立つ内容のゼミとする。自分自身のこれまでの成長プロセスを顧みて、アピールポイント、会社の志望動機やさらにプレゼンテーションの基礎的知識も含めその全体像を把握し今後の活動に役立てるような内容としたい

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	1 年次後半から始まる就職活動についての認識を深めるための話し合い
第 2 回	これまでの自身の成長を考え文章化する 自己アピールについて考える
第 3 回	これまでの自身の成長を考え文章化する 自己アピールについて考える
第 4 回	会社を志望する動機やその背景について考え文章化する 自己表現を訓練する
第 5 回	会社を志望する動機やその背景について考え文章化する 自己表現を訓練する
第 6 回	会社を志望する動機やその背景について考え文章化する 自己表現を訓練する
第 7 回	会社を志望する動機やその背景について考え文章化する 自己表現を訓練する
第 8 回	会社を志望する動機やその背景について考え文章化する 自己表現を訓練する
第 9 回	ビジネスマナーについてその基礎を知る 電話のかけ方
第 10 回	ビジネスマナーについてその基礎を知る メールのおし方
第 11 回	ビジネスマナーについてその基礎を知る 各種文書の形式
第 12 回	プレゼンテーションの基礎を学ぶ プレゼントとは何かを知る
第 13 回	プレゼンテーションの基礎を学ぶ プレゼントの目的を考える
第 14 回	プレゼンテーションの基礎を学ぶ プレゼン資料のまとめ方を知る
第 15 回	後半のゼミを行って来て得た成果や反省点などを話し合う

予 習 ・ 復 習

予習：所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと

復習：授業で学んだことも含め、どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意					
1. 多様な基礎知識力が必要なため1年次で履修する科目を確実に履修しておくこと 2. 社会人になる準備段階を意識して主体的に行動すること 3. 授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください					
到達目標					
1. 自分の考えをまとめることができるようになる 2. 自分の考えを記述することができる 3. 自分の考えを相手に伝えることができる					
ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要す る	相当の努力を 要する
理解力 (50%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力 (30%)	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが、説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない
参加姿勢 (20%)	他人を巻き込んで議論に参加させることができる	自分自身の考えをゼミ中に発表できる	質問されたことに対して不十分ではあるが答えることができる	質問されたことに対して最低限の返答ができる	質問の意味を理解し発言することができない
評価方法					
1. ゼミ時における文章作成力 50% 2. ゼミ時における発言力 30% 3. ゼミ時における参加態度 20%					
テキスト					
テキストは特に使用しない					

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

本ゼミでは、経営分析の基礎や金融・投資のしくみを学び、就職活動における業界・企業研究だけでなく、将来の資産形成にも役立つ知識を身につくよう、日経 STOCK リーグ（日本経済新聞社主催、文部科学省・金融庁後援の金融・経済教育プログラム）のグループワークを通じてわかりやすく指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	経済・金融のしくみと株式市場に関する基礎学習
第 3 回	日経電子版を使って記事検索・社会の変化と経済との関係に関する討論
第 4 回	スクリーニング（1）業界研究
第 5 回	スクリーニング（2）企業研究
第 6 回	スクリーニング（3）成長性分析
第 7 回	銘柄・証券コードの確定
第 8 回	バーチャル取引の利用と値動きの分析
第 9 回	銘柄ごとの投資金額の検討と決定
第10回	ポートフォリオの作成
第11回	投資家アピールの作成
第12回	日経ストックリーグを通して学んだこと
第13回	レポート表紙デザインの検討と制作
第14回	レポート提出と最終発表
第15回	総まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜に予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配布プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本ゼミは、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本ゼミは、受講生の皆さんが（１）金融・経済の仕組みを理解し、（２）チームメンバーと協力して投資テーマや関連する企業事例を研究し、（３）それに対する考えを自分の言葉でレポートをまとめて発表できるようになることを目的としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
グループワーク (100%)	自ら積極的に専門知識を身に付け、グループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	自ら積極的に専門知識を身に付け、チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、専門知識の修得に多少不足がある。	専門知識の修得とグループワークに取り組む積極性は最低限である。	専門知識の修得グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

グループワークの参加とフィードバックシートの提出：100%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配布します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

このゼミでは、皆さんの就職先とその業界について理解できるように指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション（就職について考える）
第 2 回	社会人であること
第 3 回	会社で働くということ
第 4 回	将来の設計をどう考える
第 5 回	個別面談
第 6 回	個別面談
第 7 回	個別面談
第 8 回	個別面談
第 9 回	株式会社について
第10回	企業文化とは（会社の歴史と顧客目線）
第11回	ラインとスタッフ（職種としての営業系とサポート系）
第12回	親会社と子会社の関係について（グループ企業について学ぶ）
第13回	企業の人事・評価制度について
第14回	企業の健康経営、福利厚生
第15回	まとめ（やりたい仕事、楽しんで出来る仕事について考える）

予 習 ・ 復 習

・予習：ゼミ内で適宜指示します。

・復習：ゼミ内で適宜指示します。

履修上の注意

- ・進路決定に大切な面接が多くなるため、休まずに出席しましょう。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・少しでも早く進路が決められるようにする。
- ・関心のある企業の業務内容や方針（ミッション、ビジョン、求める人材など）、採用情報を調査して説明できるようにする。
- ・就活で役立つ、時事関連のニュースに関心を持って、知識として得られる習慣を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案がでる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

取り組み姿勢（70%）、課題レポート（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

就活に向かう心構え、業界選定、自己分析等を、個人面談を繰り返しながら洗い出す。志望する職種・業界を明確にする面談を繰り返し行う。ゼミの先輩による就職座談会、企業訪問を通じて、実践体験を養う。講師の企業在籍時に担当した採用担当・人材育成の実務経験を反映し、本気で就活と向き合い、後悔しない就活を実践し各自の目標を実現するためのゼミ活動となる。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、就活の考え方、取り組み方、富吉ゼミの目的
第 2 回	自己PRの作成、個人面談
第 3 回	求人情報サイトの活用方法、個人面談
第 4 回	資格取得、ESの書き方、個人面談
第 5 回	業界・業種の絞り込み方法、個人面談
第 6 回	オンライン説明会・オンライン面接のコツ、個人面談
第 7 回	企業訪問 企業の現場を訪問して就活の心構えを習得する
第 8 回	グループワーク・グループディスカッションのコツ、個人面談、 <u>理解度小テスト①</u>
第 9 回	富吉ゼミ2年生の先輩による合同就活座談会、先輩達からの業界別就活アドバイス
第10回	ガクチカの書き方（国立公園オフィシャルパートナーシップ）、個人面談
第11回	秩父多摩甲斐国立公園へのフィールドワーク（環境省・パートナー企業とコラボ）
第12回	志望企業の絞り込み、個人面談
第13回	逆求人・スカウトサービスの活用方法、個人面談
第14回	面接で勝つためのコツと演習、ホテル業界向け準備、個人面談
第15回	振り返り、 <u>理解度小テスト②</u> 、最終課題レポートの提出

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
 ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがある。
- ・企業訪問の実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることがある。
- ・フィールドワークや企業訪問を実践する際は、交通費などの実費を負担することになる。また安全に留意して取り組むこととする。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. 早い就活スタートを切り、インターンシップと企業の説明会を効果的に活用するノウハウを習得する。
2. 志望業界や志望企業を明確にし、人物重視の選考試験に勝つための面接必勝ノウハウを習得する。
3. 個人面談によりマンツーマンの就活サポートに慣れ、強い意志を持って納得のいく就活を行う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ 100% 理解している。	理解はしているが設定した項目の 50% 程度しか理解していない。	授業内容を最低限レベルの理解として習得している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力 (レポート) (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点 (毎回の授業内課題シートの提出) 50%
- ・理解度小テスト (前半・後半、2 回実施) 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ゼミⅡ（マーケティングリサーチ論）

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸 恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクトを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？（ゼミⅠの復習と応用） マーケティングとマーケティングリサーチ（マーケティング・マネジメントプロセス）
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅡ「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第 3 回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	マーケティングリサーチの基本的な概念 マーケティングリサーチに必要な要件／サンプリングの概念／インターネット調査の基本
第 6 回	調査企画（計画的なマーケティングデータの収集） 調査企画の手順／企画書作成の要件／企画書の内容／調査企画に関する考察
第 7 回	調査の種類・タイプ（データの収集方法） データ・情報取得手段の種類／定量調査と定性調査／その他の調査の分類方法
第 8 回	調査票設計（調査企画の具体化） 調査票の基礎知識と作成の留意点／尺度の理解（等間隔尺度など）／回答方法の分類
第 9 回	データ集計（ビジネス実務の意思決定に必要なデータの準備） 集計の方法と手順／単純集計／代表値／クロス集計／ウェイト集計／検定
第 10 回	定性調査における情報・データ処理の方法 定性情報とは？／分類／類型／再構成／取りまとめと結論／インサイトの抽出
第 11 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第 12 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第 13 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案（タレントの選定）
第 14 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第 15 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの発表（ゼミⅠの仮説強化）

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
 - ・ 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
- ※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること。
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. 企業のマーケティング活動におけるマーケティングリサーチの意義・役割、課題を説明することができる。
2. ビジネス課題を解決するための代表的なデータ収集・分析手法の重要性を理解し、『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡ』を作成する。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
マーケティングリサーチの説明 (30%)	新たな手法を用いて結論を導き出すリサーチを企画することができる。	自発的な論理展開に必要なリサーチ技法を説明することができる。	明示された範囲のリサーチ技法を説明することができる	不十分だが、明示された範囲のリサーチ技法をある程度説明することができる。	リサーチ技法の説明が不完全である。
カワイイプロダクト ポジショニング マップⅡの作成 (70%)	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけでなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べるができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べるできない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- ・ 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- ・ 講義で用いた資料はMicrosoft Teams の「ゼミⅡ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する」ための学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく興味をもって把握できる手法を身につけることを目的とします。おもにグループ単位での活動を基本とし、共同作業によって課題に取り組むといったスタイルをとります。情報の整理や取捨選択、それに基づいた合意形成の図り方などについて指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ゼミのコンセプトや進め方、野外実習などについて
第 2 回	個別相談 ゼミ生の進学進路、その他の相談
第 3 回	個別相談 ゼミ生の進学進路、その他の相談
第 4 回	動物福祉検定試験対策 動物関連の諸問題 1
第 5 回	動物福祉検定試験対策 動物関連の諸問題 2
第 6 回	巡検事前学習 実習現場に行く前の情報整理
第 7 回	巡検事前学習 実習現場に行く前の事前準備
第 8 回	巡検 実習現場での体験・学び 1
第 9 回	巡検 実習現場での体験・学び 2
第 10 回	巡検事後学習 体験したことと関連事業についての情報整理
第 11 回	巡検事後学習 ディスカッション
第 12 回	インターネットや図書館を利用した情報収集方法について
第 13 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 1 グループ作成とワークショップの進め方の説明
第 14 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 2 発表
第 15 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 3 まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次の講義でテーマを扱うにあつての事前準備等の指示をします。
- ・復習：原則的に講義毎に必ず感想文あるいは成果物を提出してもらいます。これを基に復習をするようにしてください。

履修上の注意

本ゼミで行なう様々な取り組みに意欲的である学生を求めます。ゼミ内での要望が多ければ、イヌネコの譲渡施設や博物館見学、ゼミ合宿（北海道・旭山動物園に行く）などの野外実習を行なうことがあります。また普段のゼミについても実施要望が多ければ、動物愛護関連の資格講座を

到達目標

環境問題を題材に、情報の収集と選択、問題解決能力の養成を目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (30%)	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力 (40%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

ゼミ時間内提出物 100%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

2年後期のゼミⅣの発表の準備です。いきなり発表するというのは辛いでしょうから、毎回 PC で自分の興味を持ったニュースを検索して、それを資料化して、他のゼミの方々に発表するという方式を取ります。聴き手側と発表側の間で質問と応答を通してコミュニケーション力を付けたいとおもいます。やらされてる感ではなく、就活で利用しようなど価値転換させて広い視野で捉えてください。大変だとはおもいますが、若い今のうちこういう経験を積んでおいたほうがよいとおもいます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス : ゼミⅢのやり方を説明。
第 2 回	発表資料の作成と発表。聴き手の立場の時は質問を考える。
第 3 回	同上
第 4 回	同上
第 5 回	同上
第 6 回	同上
第 7 回	同上
第 8 回	同上
第 9 回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	同上
第15回	同上

予 習 ・ 復 習

- ・予習：常にニュースに触れておいてください。
- ・復習：発表のあった内容に関して、その後の内容を追いつけてください。

履修上の注意

1. ニュースを検索し、資料を作成するので毎回 PC を持参してください。
2. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到達目標

人の発表内容をよく聞いた上で質問するという、人に対して真摯な対応姿勢を身に着ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
発表側の姿勢 (30%)	就活時や世の中に出た後に、聴き手のみんなが、有用な知識であったとおもえるような発表であったと認められる	発表用の資料に関して、自分が理解した上で人に分かり易く伝えようという努力が認められる。	発表用の資料に関して、時間をかけて作成した努力が認められる。	発表用の資料に関して量が少なく、質が低い。	発表用の資料を作成しない。もしくは出来ない。
聴き手側の姿勢 (40%)	強く興味をもち他の事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

なし。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

「あの人は仕事が『できる』『できない』」という言葉をよく聞きます。それは一体どういうことなのでしょう。ゼミの上半期は、この問題について先行研究や理論を学び、映像を素材にみんなで「できる」「できない」を議論します。就職活動で自分の能力・資質を効果的にアピールすることにつながります。下半期は、上半期の学びを就職活動に生かす方法について指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2 年間にけるゼミⅢの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する。
第 2 回	仕事の能力をめぐる理論研究を学ぶ エンプロイアビリティ、コンピテンシー等、能力に関する人的資源管理論の理論を学ぶ。
第 3 回	「できる」「できない」とはどういうことか その 1 観察 「できる」と言われる人の仕事ぶり、「できない」と言われる人の仕事ぶりを観察する。
第 4 回	「できる」「できない」とはどういうことか その 2 考察 なぜ、どこで「できる」「できない」と思ったのかを洗い出してみる。
第 5 回	「できる」「できない」とはどういうことか その 3 結論 できる人、できない人にはどんな傾向があるのか、自分なりの考察の結論をまとめる。
第 6 回	就職活動を振り返る その 1 「できる」「できない」について学んだことから、自分の就職活動を評価してみる。
第 7 回	就職活動を振り返る その 2 「できる」「できない」の学びから考えたら、どこをどうアピールすべきだったのか。
第 8 回	履歴書の再検討 その 1 「できる」「できない」の観点から履歴書や ES を見直し、改善点を洗い出す。
第 9 回	履歴書の再検討 その 2 前回の作業をもとに履歴書の改善を図る。
第 10 回	面接の再検討 その 1 「できる」「できない」の観点から面接を振り返り、改善点を洗い出す。
第 11 回	面接の再検討 その 2 前回の作業をもとに面接の練習をしてみる。
第 12 回	就職活動中間報告プレゼンの準備 これまで学んできたことから自分の就職活動について自己評価、分析をする
第 13 回	就職活動中間報告プレゼン その 1 担当者による発表と質疑応答、講評。
第 14 回	就職活動中間報告プレゼン その 2 研究発表 2 担当者による発表と質疑応答、講評。
第 15 回	まとめとふり振り返り

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

- ・ 復習：毎回の授業の後で次の 3 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。
- ・ 予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。そして、できれば就職活動をする上で何が求められるのか考えてみてください。

履修上の注意

- ・ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
- ・遅刻は、電車の遅延等合理的理由がある場合は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。やむを得ず欠席した場合、「履修のてびき」記載の手続きが必要です。
- ・遅刻・欠席した場合、その間の連絡事項などは自分から確認しにきてください。
- ・発表等があたっているときに穴をあけないことは最低限のルールです。個人として素晴らしい成果を収めても、ゼミ全体を盛り上げて貢献しようという心意気のない言動は評価できません。ゼミ全体に活気をもたらそうとする言動を高く評価します。

到達目標

- このゼミが終わるころ、皆さんが次のような状態に到達することを目標とします。
- ・仕事の「できる」「できない」に関する自分の考察を、自分の言葉で説明できる。
 - ・その上で、自分の能力・資質を自分の言葉で説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
伝える力 (50%)	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動 (50%)	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

- 提出物・発表等 (50%) : 「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方、書き方ができているほど高く評価します。
- 受講態度 (50%) : 「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

教科書はありません。ゼミで一緒に読む本を購入する場合は適宜指示します。教室で配られる資料やteams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

本ゼミの目的は、2年次の前半において知っておくべき企業についての知識を多く獲得することにある。ゼミ生各自はゼミでの学習を通じてそれぞれ問題意識を持つことが要求される。各自が関心を持った企業に果敢にアプローチして企業や会社についての知識を獲得してほしい。積極的な態度が必要とされる。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ゼミの進め方などの説明と方針の説明
第 2 回	会社とは何かを知る
第 3 回	会社の仕組みを知る
第 4 回	会社の運営に必要な資源について理解を深める
第 5 回	会社にとっての戦略とは何かを知る
第 6 回	会社にとってのマーケティングとは何かを知る
第 7 回	会社にとっての理念や経営哲学を知る
第 8 回	企業研究 製造企業の研究
第 9 回	企業研究 小売業の研究 コンビニなど
第10回	企業研究 小売業の研究 スーパーやドラッグストアなど
第11回	企業研究 非営利企業について学ぶ
第12回	企業研究 日本に所在する外国企業について知る
第13回	企業研究 中小企業の経営について学ぶ
第14回	日本的経営の姿を回顧する
第15回	ゼミを通して学んだことについて話し合う

予 習 ・ 復 習

- ・予習：予習：所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと
- ・復習：授業で学んだことも含め、どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意

1. 多様な基礎知識力が必要なため1年次で履修する科目を確実に履修しておくこと
2. 社会人になる準備段階を意識して主体的の行動すること
3. 授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください

到達目標

1. 自分の考えをまとめることができるようになる
2. 自分の考えを記述することができる
3. 自分の考えを相手に伝えることができる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (50%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力 (30%)	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが、説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない
参加姿勢 (20%)	他人を巻き込んで議論に参加させることができる	自分自身の考えをゼミ中に発表できる	質問されたことに対して不十分ではあるが答えることができる	質問されたことに対して最低限の返答ができる	質問の意味を理解し発言することができない

評価方法

1. ゼミ時における文章作成力 40%
2. ゼミ時における発言力 40%
3. ゼミ時における参加態度 20%

テキスト

テキストは特に使用しない

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

世の中にはどんな業界や会社があるのでしょうか。興味のある業界や企業の将来性を知るにはどうしたらいいのでしょうか。本ゼミでは、就職活動における業界・企業研究を何から始めれば良いのか、どんな情報を使えば良いのか、どんなポイントで判断すれば良いのか、グループワークを通じてわかりやすく指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	就職活動における企業研究の流れ
第 3 回	企業情報の入手方法
第 4 回	企業研究の方法と実践（１）会社の歴史
第 5 回	企業研究の方法と実践（２）企業理念と経営戦略
第 6 回	企業研究の方法と実践（３）ビジネスモデルと経営成績
第 7 回	企業研究の方法と実践（４）株価情報と株主構成
第 8 回	中間まとめ
第 9 回	小売業のビジネスと個別企業を分析する
第 10 回	卸売業のビジネスと個別企業を分析する
第 11 回	物流業のビジネスと個別企業を分析する
第 12 回	金融業のビジネスと個別企業を分析する
第 13 回	情報通信業のビジネスと個別企業を分析する
第 14 回	不動産業のビジネスと個別企業を分析する
第 15 回	総まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜に予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配布プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本ゼミは、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本ゼミは、受講生の皆さんが（1）業界・企業分析に関する基礎知識を修得し、（2）チームメンバーと協力して関連の企業事例を調査でき、（3）自分の言葉でその内容を表現できるようになることを目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
グループワーク (100%)	自ら積極的に専門知識を身に付け、グループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	自ら積極的に専門知識を身に付け、チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、専門知識の修得に多少不足がある。	専門知識の修得とグループワークに取り組む積極性は最低限である。	専門知識の修得グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

グループワークの参加とフィードバックシートの提出：100%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配布します。

ゼミⅢ（企業研究Ⅱ）

～観光産業のホスピタリティーについて学びます～

齋藤 篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

このゼミでは観光関連産業全般について学びます。接客業務でのホスピタリティーやコミュニケーション力、顧客対応力、関係協力機関との対応、ビジネスマナー、チームワーク、協調性などの重要性を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション 授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	観光を取り巻く環境
第 3 回	個別面談
第 4 回	個別面談
第 5 回	企業研究：運輸関連業界（航空、鉄道、バス、船舶他）
第 6 回	企業研究：宿泊業界（ホテル、日本旅館）
第 7 回	企業研究（テーマパーク、レジャー関連）
第 8 回	企業研究（旅行会社の役割、業務内容、海外・国内・訪日旅行）
第 9 回	個別面談
第 10 回	個別面談
第 11 回	業界研究：ホテル、旅行会社のホスピタリティー
第 12 回	業界研究：MICE、イベント業界
第 13 回	業界研究：地方自治体観光課、観光協会の役割
第 14 回	観光立国を目指す日本
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

予習・復習は授業内で適宜指示します。

履修上の注意

- ・観光産業や様々なイベントに興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・「観光関連産業全般」が理解出来て興味を持つことにより就職先の選択肢のひとつとする。
- ・「ホテルや旅行業界におけるホスピタリティー」を学ぶことによって、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

取り組み姿勢 (50%)、授業内の理解度テスト (30%)、課題レポート (20%) を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

2 年生前期は、就活本番という最も大切な時期となる。1 年生後期に学んだノウハウと準備を遺憾なく発揮し、タイミングを逃さず、最大の効果を上げるため、講師の企業在籍時に担当した採用担当・人材育成の実務経験を反映した有益な活動を行う。就活を進めていくと志望する業界や希望職種が変わることもあり、自分自身の変化にも柔軟に対処する精神力とスピード感を養う。納得のいく就職活動ができたとき、内々定という結果を得て、社会人になるという自覚が芽生えてくる。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、これまでの就活の状況チェック、今後の就活戦略
第 2 回	ES の見直しと改善、個人面談
第 3 回	メール・電話のマナーの振り返り
第 4 回	面接の改善①、個人面談
第 5 回	面接の改善②、個人面談
第 6 回	インターネットサービスの活用方法① ハローワーク
第 7 回	インターネットサービスの活用方法② indeed、キャリアタス UC
第 8 回	就職情報サイトの活用方法① 基本、 <u>理解度小テスト①</u>
第 9 回	就職情報サイトの活用方法② 実践、個人面談
第 10 回	6 月の対応方法と連携①、個人面談
第 11 回	6 月の対応方法と連携②
第 12 回	7・8 月の対応方法と連携③、個人面談
第 13 回	残りの大学時代を有意義に過ごすための課題のあぶり出し①
第 14 回	残りの大学時代を有意義に過ごすための対策の決定②
第 15 回	振り返り、 <u>理解度小テスト②</u> 、最終課題レポート提出

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。

・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を 2 回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・ほうれんそう（報告、連絡、相談）の意味を理解し行動に反映し、レポート等の提出期限を遵守すること。
- ・授業計画は変更になることがある。
- ・フィールドワークや企業訪問を実践する際は、交通費などの実費を負担していただき、安全対策に留意して行う。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. 業界・業種ごとの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
2. 就職活動の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
3. 就職活動の現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート） (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ゼミⅢ（マーケティングリサーチ論）

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸 恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	前期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクトを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？（ゼミⅡの復習と応用） マーケティングとマーケティングリサーチ（マーケティング・マネジメントプロセス）
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅡ「カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第 3 回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	定性調査（インタビュー）の企画書作成 ① 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 6 回	定性調査（インタビュー）の企画書作成 ② 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 7 回	定性調査（インタビュー）の実施 ① 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 8 回	定性調査（インタビュー）の実施 ② 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 9 回	調査結果の整理と取りまとめ ① カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第 10 回	調査結果の整理と取りまとめ ② カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第 11 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第 12 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第 13 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案（タレントの選定）
第 14 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第 15 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの発表（ゼミⅡの仮説強化）

予 習 ・ 復 習

- ・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
 - ・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
- ※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. 仮説の確認と強化を目的とした定性調査を企画し、実施することができる。
2. 定性調査の結果を反映させた『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢ』を作成する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
定性調査の企画と実施 (30%)	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる。	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる。	提示された仮説の確認に必要な調査を実施することができる。	指示された手法の範囲内で調査を実施することができる。	調査が不完全である。
カワイイプロダクトポジショニングマップⅢの作成 (70%)	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけでなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べるができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べることができない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- ・ 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- ・ 講義で用いた資料はMicrosoft Teams の「ゼミⅢ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する」ための学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく理解するための手法を身につけることを目的とします。その成果として、環境問題を題材にしたレポート作成およびパワーポイントによるグループ発表の方法について指導していきます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	個別相談
第 2 回	個別相談
第 3 回	パワーポイントの作成準備 1 卒業プレゼン発表についてのガイダンス
第 4 回	パワーポイントの作成準備 2 テーマの決定
第 5 回	パワーポイントの作成 1 発表計画書の作成
第 6 回	パワーポイントの作成 2 発表計画書の作成
第 7 回	パワーポイントの作成 3 発表計画書の提出と内容確認、修正
第 8 回	パワーポイントの作成 4 発表計画書の提出と内容確認、修正
第 9 回	パワーポイントの作成 5 進行状況確認
第 10 回	パワーポイントの作成 6 進行状況確認
第 11 回	パワーポイントの作成 7 進行状況確認
第 12 回	パワーポイントの作成 8 発表前最終確認
第 13 回	パワーポイントの作成 9 発表前最終確認
第 14 回	パワーポイントによる発表 1 各ゼミ生、または各グループ毎のプレゼン発表
第 15 回	パワーポイントによる発表 2 各ゼミ生、または各グループ毎のプレゼン発表

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次回の講義でテーマを扱うにあって事前準備等の指示をすることがあります。
- ・復習：卒業プレゼンを作成する際には、進捗状況について頻繁に報告するようにしてください。

履修上の注意

指示がない限り、特に必要ありません。

到達目標

環境問題を題材に、情報の収集と選択、問題解決能力の養成を目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (30%)	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力 (40%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

卒業プレゼン発表 80%、講義時間内提出物 20%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

会計学とはどのような学問なのかを知ることが目標とします。それにあたっては、まず、会計の役割および必要性を歴史的な観点から確認します。つぎに、過去に会計学上で問題とされてきたいくつかの事項を見ます。そして、現在問題とされているいくつかの事項を考察します。会計が研究されることが理解できるとおもいます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	会計とはなにか、会計の歴史をどうみるか（下記テキストの第 1 章） 1
第 3 回	会計とはなにか、会計の歴史をどうみるか（下記テキストの第 1 章） 2
第 4 回	複式簿記（第 2 章） 1
第 5 回	複式簿記（第 2 章） 2
第 6 回	期間計算（第 3 章） 1
第 7 回	期間計算（第 3 章） 2
第 8 回	近代会計の成立環境（第 4 章） 1
第 9 回	近代会計の成立環境（第 4 章） 2
第 10 回	発生主義（第 5 章） 1
第 11 回	発生主義（第 5 章） 2
第 12 回	会計プロフェッションの生成（第 6 章） 1
第 13 回	会計プロフェッションの生成（第 6 章） 2
第 14 回	近代会計制度の成立（第 7 章） 1
第 15 回	近代会計制度の成立（第 7 章） 2

予 習 ・ 復 習

- ・予習：担当者によって発表される教科書の範囲を毎回読んできてください。
- ・復習：発表を聞いた後、再度その範囲を読み直してください。

履修上の注意

1. ガイダンス時に、いくつか候補を挙げるので、その候補の中からこのゼミで使用する本をゼミ員のみなさんに選択してもらいます。つまり、下記の「使用教科書」が選択されれば、授業計画のようになりますが、違うものが選択されれば、計画は異なるものとなります。ご了承ください。
2. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到達目標

- ①会計の必要性を理解できる。②会計学上ではどのようなことが問題となっているかを理解できる。③会計学上の問題は、会計学内部からだけでなく社会の変化から問題が発生することを理解できる。④会計学の範囲の広さを理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
発表側の姿勢 (30%)	就活時や世の中に出た後に、聴き手みんなが、有用な情報であったとおもえるような発表であったと認められる	発表用の資料に関して、自分が理解した上で人に分かり易く伝えようという努力が認められる。	発表用の資料に関して、時間をかけて作成した努力が認められる。	発表用の資料に関して量が少なく、質が低い。	発表用の資料を作成しない。もしくは出来ない。
聴き手側の姿勢 (40%)	強く興味をもち他の事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

- ・教科書名：『会計の時代だ』
- ・著者名：友岡 賛
- ・出版社名：ちくま新書
- ・出版年 (ISBN)：978-4480063298

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目 必修

授業概要

最後のゼミです。みなさんは短期大学士（ビジネス実務）になります。主として経営学を学んできました。同じ現象を前にしても、学んできた分野や関心で物事の捉え方・考え方は異なるものです。経営学を学び、経営学の概念で見て、考えてきたことをはっきりと認識して2年間勉強してきたことを実感してください。就職活動報告プレゼンでは仲間の就活を知り自分の就活がどうだったのかを考えてみてください。卒業後のことを考えて社会でうまくやっていくためにぜひ知っておいてほしいことも指導します。最後は短期大学士にふさわしいことを自分で説明するプレゼンに取り組んでいただきます。

授業計画

授業回	授業内容
第1回	ガイダンス 2年間におけるゼミⅣの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する。
第2回	「経営学」とはどんな学問だったか この学科で主に学んだ経営学の社会科学全体における位置づけ、使命を再認識する。
第3回	マネジメントとはどういうことか マネジメントとは具体的には何をどうするというものかを考え、議論する。
第4回	共同研究：経営学の概念装置は身についたか その1 経営学（人的資源管理論、経営社会学を含む）の概念装置で事象を見ることができるか。
第5回	共同研究：経営学の概念装置は身についたか その2 経営学の概念装置で考察、議論できるか。
第6回	就職活動報告プレゼン その1 担当者による発表、質疑応答、講評。
第7回	就職活動報告プレゼン その1 担当者による発表、質疑応答、講評。
第8回	社会人になる準備 その1 マナー 社会人に必要なマナーを学ぶ。どこで失敗しやすいのか、ありがちな場面と注意点を学ぶ。
第9回	社会人になる準備 その2 居場所をつくる 職場で自分の居場所をつくり快適に過ごすには、何をしたら良いかを学ぶ。
第10回	学位請求プレゼンの準備（説明） なぜプレゼンをやるのか必要性を説き、プレゼンに求められることを説明する。
第11回	学位請求プレゼンの準備（プレゼンの構成を考える） 全てのものは二度つくられる。プレゼンファイルを作る前にその構成を設計してもらう。
第12回	学位請求プレゼン その1 担当者による発表、質疑応答、講評。
第13回	学位請求プレゼン その2 担当者による発表、質疑応答、講評。
第14回	学位請求プレゼン その3 担当者による発表、質疑応答、講評。
第15回	まとめと振り返り：これまで一緒に学んできたゼミの仲間と、ゼミをとおして「協働」を学ぶ ことができたか、「協働」を実践できたか振り返ってみる。

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

- ・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。
- ・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください（要約）。そして、できれば次の授業で教員がどんなことを言うか予想してみてください。

履修上の注意

- ・ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
- ・遅刻は、電車の遅延等合理的理由がある場合は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。やむを得ず欠席した場合、「履修のてびき」記載の手続きが必要です。
- ・遅刻・欠席した場合、その間の連絡事項などは自分から確認しにきてください。
- ・発表等があたっているときに穴をあけないことは最低限のルールです。個人として素晴らしい成果を収めても、ゼミ全体を盛り上げて貢献しようという心意気のない言動は評価できません。ゼミ全体に活気をもたらそうとする言動を高く評価します。

到達目標

このゼミが終わるころ、次のような状態に到達することが目標です。

- 1 この学科で主として学んだ経営学がどういう学問なのか、数分で話せる。
- 2 経営学の概念装置が身についていることを認識できる。
- 3 短期大学士（ビジネス実務）の学位に、高校卒より一段上の処遇を受けるに値すると自ら説明できる。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
伝える力 (50%)	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動 (50%)	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

提出物・発表等 (50%) : 「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方、書き方ができているほど高く評価します。

受講態度 (50%) : 「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

教科書はありません。ゼミで一緒に読む本を購入する場合は適宜指示します。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

本ゼミは 2 年次の後半のゼミであり，卒業を控えた段階にある学生対してビジネスの基礎になる知識を獲得することを目的とする。企業や会社などの組織におけるヒトの働き方などの焦点を当て，社会で働く自身の姿をシミュレーションしてみたい。社会に出てから役に立つ内容としたい。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ヒトの働き方とキャリア形成について認識を深める
第 2 回	会社における人事管理はどのように行われるのかについて理解する
第 3 回	人事管理論における 4 つの視点を知る
第 4 回	日本的人事管理について知る
第 5 回	新しい日本型の人事管理について知る
第 6 回	雇用管理における採用と・退職について知る
第 7 回	配置・移動と人事管理の関係を知る
第 8 回	人材の評価と人事考課制度について知る
第 9 回	人材開発と学習組織づくりを知る
第 10 回	OJT と Off-JT，自己啓発とは何かを知る
第 11 回	キャリアデザインとキャリアカウンセリングについて知る
第 12 回	キャリアデザインの方策を考える
第 13 回	採用管理と学生のキャリア意識について知る
第 14 回	日本的経営について知る
第 15 回	ゼミに参加し行動してきたことを振り返りを行いその成果を話し合う

予 習 ・ 復 習

- ・予習：予習：所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと
- ・復習：授業で学んだことも含め，どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意

1. 多様な基礎知識力が必要なため1年次で履修する科目を確実に履修しておくこと
2. 社会人になる準備段階を意識して主体的に行動すること
3. 授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください

到達目標

1. 自分の考えをまとめることができるようになる
2. 自分の考えを記述することができる
3. 自分の考えを相手に伝えることができる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (50%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力 (30%)	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが、説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない
参加姿勢 (20%)	他人を巻き込んで議論に参加させることができる	自分自身の考えをゼミ中に発表できる	質問されたことに対して不十分ではあるが答えることができる	質問されたことに対して最低限の返答ができる	質問の意味を理解し発言することができない

評価方法

1. ゼミ時における文章作成力 50%
2. ゼミ時における発言力 30%
3. ゼミ時における参加態度 20%

テキスト

テキストは特に使用しない

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

本ゼミは、経営分析の応用的知識と金融・投資のしくみをグループワークでさらに深め、就職活動における業界・企業研究だけでなく、将来の資産形成にも役立つ知識を身につくよう、日経 STOCK リーグ（日本経済新聞社主催、文部科学省・金融庁後援のコンテスト型の金融・経済教育プログラム）への2回目の挑戦を通じてわかりやすく指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	経済・金融のしくみと株式市場に関する基礎学習
第 3 回	日経電子版を使って記事検索・社会の変化と経済との関係に関する討論
第 4 回	スクリーニング（1）業界研究（レベルアップ）
第 5 回	スクリーニング（2）企業研究（レベルアップ）
第 6 回	スクリーニング（3）成長性分析（レベルアップ）
第 7 回	銘柄・証券コードの確定
第 8 回	バーチャル取引の利用と値動きの分析（レベルアップ）
第 9 回	銘柄ごとの投資金額の検討と決定（レベルアップ）
第10回	ポートフォリオの作成（レベルアップ）
第11回	投資家アピールの作成（レベルアップ）
第12回	日経ストックリーグを通して学んだこと
第13回	レポート表紙デザインの検討と制作
第14回	レポート提出と最終発表
第15回	総まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜に予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配布プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本ゼミは、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本ゼミは、受講生の皆さんが（1）金融・経済の仕組みを理解し、（2）チームメンバーと協力して投資テーマや関連する企業事例を研究し、（3）それに対する考えを自分の言葉でレポートをまとめて発表できるようになることを目的としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
グループワーク (100%)	自ら積極的に専門知識を身に付け、グループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	自ら積極的に専門知識を身に付け、チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、専門知識の修得に多少不足がある。	専門知識の修得とグループワークに取り組む積極性は最低限である。	専門知識の修得グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

グループワークの参加とフィードバックシートの提出：100%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配布します。

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

このゼミでは社会人になる心構えと、社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー、ESG、社会保障制度について指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション
第 2 回	個別面談
第 3 回	個別面談
第 4 回	個別面談
第 5 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー①
第 6 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー②
第 7 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー③
第 8 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー④
第 9 回	企業の求める人材
第10回	個別面談
第11回	個別面談
第12回	ESG（環境、社会、ガバメント）について①
第13回	ESG（環境、社会、ガバメント）について②
第14回	社会保障制度について
第15回	まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：ゼミ内で適宜指示します。
- ・ 復習：ゼミ内で適宜指示します。

履修上の注意

- ・
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・社会に必要なビジネスマナー、社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナーを理解して身に付ける。
- ・E S G の概略について理解して説明できる様にする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案が出来る。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

取り組み姿勢 (70%)、課題レポート (30%) を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

就職活動を継続する学生と、内々定を獲得した学生、双方の指導を行いながら、講師の企業在籍時に担当した採用担当・人材育成の実務経験を反映した社会人となるためのオフィスワーク、先を読んだ思考、働き方改革について、総合的に今必要な技術を習得する。この授業を通じて、講師とは講師・学生の関係を超えた「人生の先輩・後輩」となっていく。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、ゼミⅣの目的、就職活動の総括、社会人になるにあたり
第 2 回	PC 操作・オフィスソフトの高度化①
第 3 回	PC 操作・オフィスソフトの高度化②
第 4 回	PC 操作・オフィスソフトの高度化③
第 5 回	タッチタイピングの習得、ショートカットキーのマスター①
第 6 回	タッチタイピングの習得、ショートカットキーのマスター②
第 7 回	2025 年問題・国際的大イベントのビジネスチャンス
第 8 回	働き方改革（フレックスタイム、ワーケーション）、 <u>理解度小テスト①</u>
第 9 回	プレゼンテーションと PPT ソフトの活用①
第 10 回	プレゼンテーションと PPT ソフトの活用②
第 11 回	キャリアデザインの考え方をアップデートする
第 12 回	ファイナンス（お金・金融・株）の基礎と考え方
第 13 回	2030 年までの社会インフラ・国際情勢
第 14 回	E S G 経営とは？
第 15 回	振り返り、 <u>理解度小テスト②</u> 、最終課題レポートの提出

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。

・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・ほうれんそう（報告、連絡、相談）と提出期限の遵守、のゼミのルールを守ること。
- ・企業訪問の実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
- ・フィールドワークや企業訪問を実践する際は、交通費などの実費を負担していただくことになる。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. 社会人になる準備として、最低限出来なければならないビジネスマナーを習得する。
2. タッチタイピングやプレゼン能力の基礎を習得し、社会人となる準備ができる。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ 100% 理解している。	理解はしているが設定した項目の 50% 程度しか理解していない。	授業内容を最低限レベルの理解として習得している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート） (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ゼミⅣ（マーケティングリサーチ論）

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸 恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	後期	2	必修	専門科目 必修

授 業 概 要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクトを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？（ゼミⅢの復習と応用） マーケティングとマーケティングリサーチ（マーケティング・マネジメントプロセス）
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅢ「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第 3 回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	定量調査（アンケート）の企画書作成 ① 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 6 回	定量調査（アンケート）の企画書作成 ② 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 7 回	定量調査（アンケート）の実施 ① 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 8 回	定量調査（アンケート）の実施 ② 第 2～4 回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 9 回	調査結果の整理と取りまとめ ① カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第 10 回	調査結果の整理と取りまとめ ② カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第 11 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第 12 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第 13 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案（タレントの選定）
第 14 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第 15 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの発表（卒業制作の完成）

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
 - ・ 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
- ※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. 仮説の検証を目的とした定量調査を企画し、実施することができる。
2. 定量調査の結果を反映させた『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣ』を完成させる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
定量調査の 企画と実施 (30%)	新たな手法を用 いて結論に至る 調査を実施する ことができる。	自発的な論理展 開に必要な調査 を実施すること ができる。	提示された仮設 の検証に必要な 調査を実施する ことができる。	指示された手法 の範囲内で調査 を実施すること ができる。	調査が不完全で ある。
カワイイ プロダクト ポジショニング マップⅣの作成 (70%)	根拠を示して説 得力のある意見 を述べるだけで はなく、新たな 論点を提示する ことができる。	根拠を示して説 得力のある意見 を述べることで きる。	他者への賛成意 見・反対意見を 述べることで きる。	単なる感想しか 述べることがで きない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- ・ 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- ・ 講義で用いた資料はMicrosoft Teams の「ゼミⅣ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

経営学総論という科目にはいくつかの特徴があります。第 1 番としては、経営学についての基本的な内容について理解を得ることです。経営学という学問は多くの研究対象があり、それらについて大学で初めて経営学を学ぶ学生に対して全体像が把握できるような学習を進めます

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の進め方，期末試験，テキストなどについて説明する
第 2 回	株式会社のシステムについて理解する。会社機関とは何かを確認する
第 3 回	経営資源とは何かについて理解する。会社を動かす原動力を確認する
第 4 回	マネジメント理論を理解するーテイラーの科学的管理法とは何か？
第 5 回	マーケティングについて知るー基礎的な知識を得る
第 6 回	経営戦略についてその概要を知る。現代企業運営に不可欠な戦略とは何か。
第 7 回	経営戦略について知るー事業戦略の概略を理解する。
第 8 回	組織とは何かーその基本形を理解する。
第 9 回	職能制組織とは何かを理解する。
第 10 回	事業部制組織とは何かを理解する
第 11 回	日本企業におけるこれまでの働き方を知るー人的資源管理とは何か？
第 12 回	日本的経営とは何かー歴史的視点を含め理解する。
第 13 回	コーポレートガバナンス（企業統治）とは何か，その概要を知る
第 14 回	企業におけるマネジメント階層について理解する。
第 15 回	全体のまとめと期末レポートの作成を行う。

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと
- ・ 復習：授業で学んだことも含め，どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意

1. この科目は経済学，社会学などの研究成果を取り入れているため，そうした関連科目を履修していることが望まし
2. 大学生のスタンスとして，教科書を準備する，授業中の周囲に迷惑となる私語はしない，など社会へ出るための準備をしてください
3. 授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください

到達目標

1. 企業や会社は経営能力が必要とされている。組織の経営に課する基礎的事項を理解できるようになる。
2. 会社や企業で要求される基礎的経営知識を身に付けると共に，行動案を立案できるようになる。
3. 自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (60 %)	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力（レポート） (40 %)	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが，説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない

評価方法

1. 期中に課すレポート 40%（適す津の内容に基づき出題する）
2. 期末レポート 60%（15回目の授業時に授業の振り返りの後実施し，終了時間内に回収する）

テキスト

- ・教科書名：『やさしく学ぶ経営学』
- ・著者名：吉沢正広編著
- ・出版社名：学文社
- ・出版年（ISBN）：9784762025259

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

本授業において取り扱う項目は、経営学総論を学習したベースの上での内容となる。企業形態、大企業の成立、日本企業の国際化戦略、株式会社の仕組み、コーポレートガバナンス、人的資源管理など多岐にわたる。各視点から各項目を学習することになるため、基礎的な経営学に関する知識が必要となります

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の進め方・期末試験・テキストなどについて解説する、企業活動とはについて解説
第 2 回	企業形態の展開－個人企業から会社へ
第 3 回	会社形態について理解する－株式会社など
第 4 回	大企業成立の背景－アメリカにおける大企業の成立
第 5 回	大企業成立の背景－日本における大企業の成立
第 6 回	株式会社を理解する－社内における機関の役割を理解する
第 7 回	企業統治論について理解を深める－コーポレートガバナンスを理解する
第 8 回	日本企業の国際化を理解する－輸出から始まった国際化
第 9 回	日本企業の国際化を理解する－輸出から現地生産へ
第10回	企業国際化の理論－ハイマー、バーノンの理論
第11回	ヒトのマネジメントについて理解する
第12回	組織のマネジメントについて理解する
第13回	戦略について理解する
第14回	マーケティング・マネジメントについて学ぶ
第15回	半期の振り返りと期末レポートの作成

予 習 ・ 復 習

- ・予習：予習：所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと
- ・復習：授業で学んだことも含め、どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意

1. 経営学総論，経営学，経営管理論を含む経営学関連科目を履修していることが望ましい
2. 授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください

到達目標

1. 経済新聞・経済雑誌の記事が読め，内容が理解できるようになること
2. 現在会社や企業で起こっている，事象について理解できるようになる
3. 企業経営について経営者の立場で構想できるようになる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (60%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力 (レポート) (40%)	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが，説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない

評価方法

1. 期中に課すレポート40% (適す津の内容に基づき出題する)
2. 期末レポート60% (15回目の授業時に授業の振り返りの後実施し，終了時間内に回収する)

テキスト

- ・教科書名：『実学 企業とマネジメント』
- ・著者名：吉沢正広編著
- ・出版社名：学文社
- ・出版年 (ISBN)：9784762027918

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

従業では、企業の実情や経営の事例をできる限り多く説明し、企業経営の現実を基本的な用語を使って理論的に解説しようとしている。企業論をはじめて学ぶ学生、あるいはこれから企業論を専門的に勉強してみようとする初心者を念頭において、組織と企業、経営管理、経営戦略、マーケティング、会計とファイナンスについて学んでいく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について講義する。
第 2 回	会社の経営とはどんなことかについて講義する。
第 3 回	会社はどのようにして社会に役立っているのかについて講義する。
第 4 回	会社はだれが動かしているのかについて講義する。
第 5 回	会社はどのような方針で動いているのかについて講義する。
第 6 回	会社はどんな仕組みで動いているのかについて講義する。
第 7 回	会社は他の会社とどのように協力しているのかについて講義する。
第 8 回	会社はどのようにしてモノを作るのかについて講義する。
第 9 回	社員は仕事をどのように分担しているのかについて講義する。
第10回	社員はなぜ働くのかについて講義する。
第11回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのかについて講義する。
第12回	会社はどのようにして商品を提供するのかについて講義する。
第13回	会社は海外でどのように経営しているのかについて講義する。
第14回	会社の利益はどのようにして測定するのかについて講義する。
第15回	全体のまとめ。

予習・復習

- ・予習：日本の大企業に関するニュース等をまとめておくこと。
- ・復習：教科書・講義資料などを復習しておくこと。

履修上の注意

特に日本の主要産業と企業に関心を持って、講義を受けていただきたい。

- ・資料は教室で配布する。
- ・受講中の飲食、雑談は禁止する。
- ・受講中の PC、スマホ、携帯の利用は原則禁止する。
- ・20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到達目標

授業では、企業の形態、創業、経営、マーケティング、財務について学びながら企業経営の現実を知ることが目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (40%)	企業経営の現実を理解している うえ、経営問題を探ることができる	企業経営の仕組みを十分に理解している	企業経営の理解にはやや努力を要する	企業経営の理解にはかなり努力を要する	企業経営の仕組みについて理解できていない
課題解法能力 (20%)	経営課題についてアドバイスもできる	経営課題について十分理解し、問題解法もできる	特に経営現場やマーケティングについての課題解法にはやや努力を要する	経営学の課題の解法にはかなりの努力が必要である	企業経営の課題解法はできていない
解法を文書で説明する力・レポート (20%)	企業経営やケースを巡って論文まで書ける	経営現場の他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った経営課題説明文を記述することができる	ケース・スタディについて説明不足があるが、説明文を書くことができる	ケース・スタディについて説明文を書くことができない
統計的分析能力 (10%)	経営財務について統計的分析に優れている	経営財務について統計的分析が良くできている	経営財務についての統計的な分析にやや努力を要する	経営財務についての統計的な分析にかなり努力を要する	企業経営や財務についての統計的な分析ができていない
歴史的知識 (10%)	企業経営の歴史について詳しい	企業経営の歴史について理解している	企業経営の歴史を知るにはやや努力が必要である	企業経営の歴史を知るにはかなり努力を要する	企業経営の歴史について分かっていない

評価方法

期末試験 (70%)、受講態度 (20%)、小テスト (10%)

テキスト

- ・教科書名：『経験から学ぶ経営学入門』[第2版]
- ・著 者 名：上林憲雄・奥林康司ほか
- ・出版社名：有斐閣ブックス
- ・出 版 年 (ISBN)：978-4-641-18443-5 (2020 年 10 月 15 日第2版第5刷発行)

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

日本企業総数の 99.7%に当たる中小企業を知ることが、日本経済・日本国民の暮らしを知ることに通じる。授業では、中小企業の創業、中小企業の経営課題、中小企業金融と財務についてケース・スタディを用いて学んでいく。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について講義する。
第 2 回	日本における中小企業の量的と質的定義について講義する。
第 3 回	日本における中小企業の歴史的推移について講義する。
第 4 回	中小企業の創業について講義する。
第 5 回	中小企業の経営について講義する。
第 6 回	中小企業の事業承継について講義する。
第 7 回	中小製造業について講義する。
第 8 回	中小非製造業について講義する。
第 9 回	中小企業財務について講義する。
第 10 回	中小企業信用格付について講義する。
第 11 回	中小企業金融システムについて講義する。
第 12 回	中小企業金融実務について講義する。
第 13 回	地域経済と中小企業について講義する。
第 14 回	中小企業問題と中小企業政策について講義する。
第 15 回	まとめ：中小企業の課題と展望について講義する。

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：日本の中小企業、地場産業についてケースを学ぶこと。
- ・ 復習：教科書・講義資料などを復習しておくこと。

履修上の注意

特に社員 20 人以下の小規模企業に関心を持って、講義を受けていただきたい。

- ・資料は教室で配布する。
- ・受講中の飲食、雑談は禁止する。
- ・受講中の PC、スマホ、携帯の利用は原則禁止する。
- ・20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到達目標

中小企業の経営課題を探り、中小企業の視点から、経済社会や企業経営を見通す能力を身につけることが目標である。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (40%)	中小企業経営の 現実を理解して いるうえ、経営 課題を探ること ができる	中小企業経営の 仕組みを十分に 理解している	中小企業経営の 理解にはやや努 力を要する	中小企業経営の 理解にはかなり 努力を要する	中小企業経営の 仕組みついて理 解できていない
課題解法能力 (20%)	中小企業の経 営課題につい てアドバイス もできる	中小企業の経 営課題について 十分理解し、 問題解法もで きる	特に中小企業 の経営現場や マーケティング についての 課題解法には やや努力を要 する	中小企業経営の 課題の解法には かなりの努力が 必要である	中小企業経営の 課題解法はでき ていない
解法を文書で説 明する力・レポ ート (20%)	中小企業経営や ケースを巡って 論文まで書ける	中小企業経営現 場の他人を説得 する内容が記述 することができる	経営学の論理が 通った経営課題 説明文を記述す ることができる	ケース・スタデ ィについて説明 不足があるが、 説明文を書くこ とができる	ケース・スタデ ィについて説明 文を書くことが できない
統計的分析能力 (10%)	中小企業経営 財務について 統計的分析に 優れている	中小企業経営財 務について統 計的分析が良 くできている	中小企業経営財 務についての統 計的な分析にや や努力を要する	中小企業経営財 務についての統 計的な分析にか なり努力を要す る	中小企業経営や 財務についての 統計的な分析が できていない
歴史的知識 (10%)	地域経済、地場 産業や中小企業 経営の歴史につ いて詳しい	地場産業や中小 企業経営の歴史 について理解し ている	中小企業経営の 歴史を知るには やや努力が必要 である	中小企業経営の 歴史を知るには かなり努力を要 する	中小企業経営の 歴史について分 かっていない

評価方法

期末試験 (70%)、受講態度 (20%)、小テスト (10%)

テキスト

- ・教科書名：『中小企業論』
- ・著 者 名：藤井喜一郎
- ・出版社名：時潮社
- ・出 版 年 (ISBN)：2022 年 8 月

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

経営資源には、ヒト（人的資源）やモノ（生産設備）、カネ（資本）、情報等がありますが、この授業では、ヒトをどのように管理するのかを学びます。人的資源管理論の理論を理解し、概念装置で物事を見る練習をしてほしいので、授業ではできるだけ映像を使います。ほぼ毎回、理論や概念装置というめがねをかけて映像の中の出来事を見て、考察してリアクションペーパーを書いていただきます。この授業では具体的には次のようなことを講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	総論その1 人的資源管理論とはどのような学問か 人的資源管理論の成り立ち、人的資源管理論の対象、領域、課題について学ぶ。
第 2 回	総論その2 人的資源の特性、「人間観」について 他の経営資源と違って人的資源にはどんな特性があるか。人間観が管理に及ぼす影響。
第 3 回	総論の振り返り 第1回、第2回の授業で学んだ重要な概念が理解できているか、確認する。
第 4 回	ヒトと仕事をどう結びつけるか その1 採用：採用戦略、採用の種類・方法、難しさについて学ぶ。
第 5 回	ヒトと仕事をどう結びつけるか その2 配置：配置の種類や配置に対する考え方について学ぶ。
第 6 回	ヒトをどのように働かせるか 採用すれば働いてくれるわけではない。働いてもらうには何をしなければならないのか。
第 7 回	コミットメントによる管理、コントロールによる管理 その1 二つの管理方法を比較し、それぞれの特徴や長所・短所を学ぶ。
第 8 回	コミットメントによる管理、コントロールによる管理 その3 コミットメントはいかにして引き出すことができるのか。
第 9 回	ヒトは育てるものか、育つものか 育成：能力開発は誰が、どこが担うのか。能力開発における選択と自己責任を学ぶ。
第10回	ヒトは育てるものか、育つものか 評価、報酬：報酬はお金とはかぎらない。
第11回	リーダーシップ論 今日、リーダーシップの型と、それぞれの型の長所・短所を学ぶ。
第12回	経営においてヒトとは何か その1 ヒトの確保と維持に何が必要かを考えてみる。
第13回	労使紛争、労使関係管理 雇用調整をめぐる紛争を手がかりに、労使紛争の痛みと労使関係の維持・管理を学ぶ。
第14回	経営においてヒトとは何か その2 結局、経営においてヒトとは何なのか、自分なりの答えを持つ。
第15回	まとめと振り返り 授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

- ・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。
- ・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。そして、できれば次の授業で教員がどんなことを言うか予想してみてください。

履修上の注意

- ・電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。
- ・やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
- ・授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明があります。

到達目標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。

- 1 企業で働くとき、どのように管理されるのかがわかる。
- 2 ヒトを管理する側になったときを想定し、自分なりにヒトの管理を考えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
書く力 (30%)	指導内容を十分に理解し自分で考え工夫している。	指導内容の大半は理解できている。	指導内容を理解できていないところがややある。	指導内容の最低限は理解している、期限を過ぎている。	書いていない、書いても提出していない。
理解・成長度 (50%)	指導内容を十分に理解し、思考・行動に生かすことができる。	指導内容の大半は理解し、成長している。	指導内容を理解できていないところがややある。0	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度 (20%)	意欲的に受講し、全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講して、全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に参加している。	意欲的に参加しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

- ・提出物 (30%) : 「書く力」に対応します。
- ・学期末試験 (50%) : 「理解・成長度」に対応します。
試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
- ・受講態度 (20%) : 考察を求めたときなど、どれだけ意欲的に取り組んでいるかを重要視します。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

財務管理とは、企業の経営と成長に必要な資金をどのように集めて（調達）、それをどのように使えば（運用）よいのかを管理を行っていくことです。本授業では、企業金融の基礎知識、特に株式や債券などによる企業の資金調達と個人の家計の資産形成との関係からアプローチして体系的に講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	経済活動と企業金融の基礎知識（1）
第 3 回	経済活動と企業金融の基礎知識（2）
第 4 回	株式会社の基礎概念
第 5 回	株式発行による資金調達と株主の権利
第 6 回	株価と証券市場
第 7 回	株価の変動要因（1）
第 8 回	中間まとめ（課題提出あり）
第 9 回	株価の変動要因（2）
第10回	債券の基礎知識と債券による資金調達（1）
第11回	債券の基礎知識と債券による資金調達（2）
第12回	債券の基礎知識と債券による資金調達（3）
第13回	企業の資金調達と家計の資産形成（1）リスク分散とポートフォリオ
第14回	企業の資金調達と家計の資産形成（2）投資信託の仕組みと注意点
第15回	期末まとめ（課題提出あり）

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜に予習しましょう。
- ・ 復習：授業終了後、配布プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本授業は、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本授業は、受講生の皆さんが（１）企業の資金調達と家計の資産形成の関係に関する基礎知識を修得し、（２）チームメンバーと協力して関連の企業事例を調査でき、（３）自分の言葉でその内容を表現できるようになることを目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (35%)	学習内容を理解した上で、他の分野にも応用できるか常に考えている。	学習内容だけでなくその限界を深く理解している。	学習内容を理解している。	学習内容について最低限の理解をしている。	学習内容についての理解ができていない。
応用力 (20%)	自ら積極的に学習を進め、それを社会の発展に活用しようと考えている。	学習内容を強みとして自らの就職や進学などで活用することを考えている。	学習内容の利活用場面を見出すことを考えている。	単位の取得のみ考えている。	受講の意義について考えていない。
グループワーク (45%)	積極的にグループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、多少不足がある。	グループワークに取り組む積極性は最低限である。	グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

期末試験の成績：55%（基礎力：35%＋応用力：20%）
グループワークの参加とフィードバックシートの提出：45%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配布します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

『マーケティング』は「ファイナンス」と「アドミニストレーション」とともに企業体を構成する機能であり、業種・職種を問わず、身につけるべきビジネス実務の知識である。そのマーケティングの考え方の枠組みとビジネスにおけるマーケティング戦略立案・戦術策定の発想法を、担当教員の広告会社マッキャン・ワールドグループ及びインターネット調査会社 GMO リサーチ社での実務経験に基づいて、具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングとは？ 企業のマーケティング活動の定義／マーケティングを学ぶための基本的な考え方
第 2 回	マーケティングの本質 マーケティングファネルという考え方／具体的事例で学ぶマーケティングの本質
第 3 回	マーケティングリサーチ マーケティングの実施管理プロセスとその起点となるマーケティングリサーチ
第 4 回	競争優位性の確立の基本と発想法（有利な立ち位置でビジネスを進める；STP）① Segmentation セグメンテーション／Targeting ターゲティング／Positioning ポジショニング
第 5 回	競争優位性の確立の基本と発想法（有利な立ち位置でビジネスを進める；STP）② Segmentation セグメンテーション／Targeting ターゲティング／Positioning ポジショニング
第 6 回	製品戦略 4P／4C ① 何を売するのか／Product と Customer Value（製品／顧客にとっての価値）
第 7 回	価格戦略 4P／4C ② いくらで売するのか／Price と Cost（価格／購入までの時間を含めたトータルコスト）
第 8 回	販売チャネル戦略 4P／4C ③ どのように届けるのか／Place と Convenience（流通／購入・利用の利便性）
第 9 回	広告・プロモーション戦略 4P／4C ④ どのように知らせるのか／Promotion と Communication（販売促進／顧客との関係構築）
第10回	ネーミングとパッケージ 製品名・サービス名称・店舗名の考案／マーケティングにおける役割／ブランドの基本
第11回	ブランディング ブランドの定義・種類と役割の変遷／ブランド価値の重要性／ブランドエクイティ
第12回	サービスマーケティング モノとサービスの違い／サービス品質の構成要素／顧客接点の重要性
第13回	Web マーケティング Web サイトへの集客手法／Web サイトでの接客／ターゲティング・リターゲティング
第14回	企業のマーケティング活動の実例を調べる（グループワークによる資料作成） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか
第15回	企業のマーケティング活動の実例を発表する（グループによるプレゼンテーション） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか

予習・復習

- ・予習：毎回講義で取り上げるテーマに関して、身近な製品・サービスや店舗・施設等のマーケティング活動を想定し、簡潔にまとめておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- ・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配付するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。

※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

2. 自身が利用している身近な製品・サービスや店舗・施設等のマーケティング活動を想定し、講義で解説するテーマに当てはめて考える習慣を身につけること。
3. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
4. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
5. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. マーケティング戦略立案のための基本的な考え方の枠組み（フレームワーク）である「STP (Segmentation/Targeting/Positioning)」を説明することができる。
2. マーケティング戦術策定のための手段である「4P (Product、Price、Place、Promotion)/4C (Customer Value、Cost、Convenience、Communication)」を説明することができる。
3. 身近な製品・サービスや店舗・施設等の「マーケティング戦略と戦術」を説明することができる。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
STPの説明 (30%)	STPの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力まで習得できている。	STPのフレームワークを用いて分析し説明できる。	STPの基本とフレームワークを説明できる。	STPの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	STPの基本もフレームワークも十分に説明できない。
4P/4Cの説明 (30%)	4P/4Cの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力まで習得できている。	4P/4Cのフレームワークを用いて分析し説明できる。	4P/4Cの基本とフレームワークを説明できる。	4P/4Cの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	4P/4Cの基本もフレームワークも十分に説明できない。
企業のマーケティング活動の説明 (40%)	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	企業のマーケティング戦略と戦術について、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

前期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

- ・ 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- ・ 講義で用いた資料はMicrosoft Teamsの「マーケティング論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

会計とは、ビジネスをお金の視点から把握して、その実態を利害関係者に報告する仕組みのことです。本授業では、会計の役割や仕組み、企業の「健康診断書」ともいえる「財務諸表」を読み解くための専門知識と活用方法を体系的に講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	損益計算書（１）収益の概念と企業実例
第 3 回	損益計算書（２）費用の概念と企業実例
第 4 回	損益計算書（３）利益の概念と企業実例
第 5 回	貸借対照表（１）資産の概念と企業実例
第 6 回	貸借対照表（２）負債の概念と企業実例
第 7 回	貸借対照表（３）純資産の概念と企業実例
第 8 回	中間まとめ（課題提出あり）
第 9 回	キャッシュフロー計算書（１）３種のキャッシュフローと企業実例
第10回	キャッシュフロー計算書（２）キャッシュフローのパターン分析と企業実例
第11回	財務三表のつながり
第12回	減価償却・減損の概念と企業実例
第13回	のれん（企業買収で生まれる不思議な資産）と企業実例
第14回	ROE（自己資本利益率）の概念・分解と「経営分析論」への招待
第15回	期末まとめ（課題提出あり）

予 習 ・ 復 習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配付プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本授業は、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本授業は、受講生の皆さんが（1）会計の役割と企業の財務諸表を読み解くための基礎知識を修得し、（2）チームメンバーと協力して関連の企業事例を調査でき、（3）自分の言葉でその内容を表現できるようになることを目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (35%)	学習内容を理解した上で、他の分野にも応用できるか常に考えている。	学習内容だけでなくその限界を深く理解している。	学習内容を理解している。	学習内容について最低限の理解をしている。	学習内容についての理解ができていない。
応用力 (20%)	自ら積極的に学習を進め、それを社会の発展に活用しようと考えている。	学習内容を強みとして自らの就職や進学などで活用することを考えている。	学習内容の利活用場面を見出すことを考えている。	単位の取得のみ考えている。	受講の意義について考えていない。
グループワーク (45%)	積極的にグループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、多少不足がある。	グループワークに取り組む積極性は最低限である。	グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

期末試験の成績：55%（基礎力：35%＋応用力：20%）

グループワークの参加とフィードバックシートの提出：45%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

本講義では、情報機器の仕組みや情報技術について講義をします。
 インターネットの普及により、私たちの日常は情報で溢れています。私たちが日々、受け取る情報は正しいのか、誤っているものはないのか。自身が発信している情報は正しく発信されているのか。自身の情報は守られているのか、情報はどのように管理されているのかなどを一緒に考察していきます。
 情報社会における問題点や危険性を踏まえ、情報リテラシーが身につくよう指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、情報処理とコンピュータ、コンピュータの種類
第 2 回	ハードウェアとソフトウェア、コンピュータの歴史
第 3 回	入力装置と出力装置
第 4 回	主記憶装置と補助記憶装置
第 5 回	コンピュータの世界は 0 と 1 (コンピュータの扱うデータ)
第 6 回	ソフトウェアとファイルの形式
第 7 回	データベースの仕組み
第 8 回	ネットワーク方式とプロトコル
第 9 回	通信回線と送信方式
第 10 回	セキュリティと脅威の種類
第 11 回	セキュリティ対策
第 12 回	情報セキュリティマネジメント
第 13 回	様々なシステム (システムと導入までの流れ)
第 14 回	情報に関する法制度
第 15 回	情報システムの活用とまとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：情報に関するニュースに関心を持ち、自身で考えること（講義内で取り上げることがあります）。
- ・復習：講義内で取り扱った用語について、自身で調べ確認すること。
 講義での内容を振り返り、自身のセキュリティや情報発信の仕方について考えること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室までは遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。

講義内でパソコンを使用する場合があります。予告があった時にはパソコンを持参して受講してください。予告については、Teams 内でも掲示します。受講前に各自確認をしてください。

到達目標

- ・情報に関する用語を理解すること。
- ・コンピュータの仕組みについて理解すること。
- ・情報を扱うことのリスクを考え、行動できるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
用語理解度 (30%)	十分に理解し活用 ができる。	理解して解釈で きる。	おおよそ理解し ている。	やや正しく理解 していない。	理解できていな い。
仕組理解度 (30%)	理解して他者に 説明ができる。	十分に理解して いる。	おおよそ理解し ている。	やや正しく理解 していない。	理解できていな い。
情報リテラシー (40%)	危険を回避して 行動できる。	判断ができる。	おおよそ判断が できる。	判断に迷いがあ る。	危険な状況を 判断できない。

評価方法

学期末試験 (50%) 授業内課題 (30%) 授業態度 (20%)

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、ワークシート形式のプリントを配付します。
全講義が終了した時に、各自のオリジナルテキストが完成します。
プリントを入れるファイル (A4 版) を用意してください (初回の講義で説明します)。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

MOS (Microsoft Office Specialist) (Word)の資格は、wordの利用能力を証明する資格試験制度です。本講義では、資格試験に対応できるスキルが身につくよう指導します。

資格試験に必要なスキルを身につけることで、様々なビジネス文書が作成でき、扱えるようになります。MOS (Microsoft Office Specialist) (Word)取得をめざし、模擬試験なども含め、試験対策についても指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画の説明 タイピング練習の方法 簡単な文書作成
第 2 回	ビジネス文書の基本ルール、ビジネス文書の種類、基本的なフォーマット 敬称の種類、頭語と結語、前文と末文
第 3 回	記号と特殊文字、検索と置換、行間、段落の間隔、インデント、書式のコピー、書式のクリア
第 4 回	セクション区切り、段組、段組のある文書の作成
第 5 回	表の作成、表の編集（余白、間隔の設定、結合と分割、高さと幅の調整）
第 6 回	リストの作成、編集（行頭文字、レベルの設定、変更、リスト番号）
第 7 回	表、リスト、段組を含む新規文書の作成
第 8 回	図の挿入、図の書式設定、図の編集、SmartArt の挿入と編集
第 9 回	テキストボックス、図形へのテキスト追加、図の扱い方
第10回	文書のスタイル、ページの背景、文書のプロパティ、印刷設定
第11回	脚注や文末脚注、資料文献、引用文献、目次の作成
第12回	図やテキストボックスを含む新規文書の作成
第13回	コメントと変更履歴
第14回	総合演習（グループ課題作成）
第15回	MOS 試験対策：まとめ、模擬試験問題

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次回講義部分のテキストを読んでくこと。
- ・復習：講義内で扱った練習問題を繰り返し解いてみること。
わからなかった部分は次の講義までに解決すること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室までは遅刻として受講を認めます、30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。

資格試験合格が目標です。資格を取得したい学生向けの講義です。

毎授業、パソコンを持参してください。授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。パソコンの充電は充分にしておいてください。

到達目標

- ・ Microsoft Office Specialist (Word) の資格取得。
- ・ 自分の力で、目的のデータを作成できるようになる。
- ・ 他者の作成したデータを理解し、編集できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
資格取得への 姿勢 (60%)	MOS 資格の 資格取得	MOS 資格取得への 十分な知識がある	ヒントを与えれば、 問題に解答できる。	指示通りに操作は できるが、理解が 不足している。	1 つ 1 つの機能の 理解が足りない。
応用力 (発想能力) (20%)	使用したことのない 機能でも自分で調べ 活用できる。	基本を十分に理解し、 機能を組み合わせて 結果を出せる。	ヒントを与えれば、 問題に解答できる。	指示通りに操作は できるが、理解が 不足している。	1 つ 1 つの機能の 理解が足りない。
読解力 (判断能力) (20%)	作成者の意図を理解 した上で、データを アップグレードできる。	作成者の意図を理解し、 編集作業ができる。	ヒントを与えれば 理解し、編集作業が できる。	指示通りに操作は できるが、自分自身 で判断ができない。	どのようにしたら よいか判断ができない。

評価方法

課題提出 (3 回) (60%) 授業内課題 (20%) 授業態度 (20%)

テキスト

- ・ 教科書名：『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist
MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集』
- ・ 著作/製作：富士通エフ・オー・エム株式会社
- ・ 出版社名：FOM 出版
- ・ 出版年：2020 年 (978-4865104301)

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

MOS (Microsoft Office Specialist) (Excel)の資格は、Excel の利用能力を証明する資格試験制度です。本講義では、資格試験に対応できるスキルが身につくよう指導します。

資格試験に必要なスキルを身につけることで、Excel 機能を理解し、ビジネスで活用できるようになります。MOS (Microsoft Office Specialist) (Excel)取得をめざし、模擬試験なども含め、試験対策についても指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画の説明、タイピング、表計算ソフトの画面構成、基本操作
第 2 回	表の編集：高さと幅、挿入と削除、テキストの配置、オートフィル機能
第 3 回	表の編集：セルの結合、数値の書式、表示形式、条件付書式の適用と削除
第 4 回	テーブルの作成、テーブルスタイル、集計行の挿入と設定
第 5 回	フィルターと並び替え、確認問題
第 6 回	計算式：相対参照、絶対参照、複合参照
第 7 回	関数：Average、MAX、MIN、COUNT、COUNTA、COUNTBLANK、IF
第 8 回	関数：LEFT、RIGHT、MID、UPPER、LOWER、LEN、CONCAT、TEXTJOIN
第 9 回	グラフの作成：円グラフ、棒グラフ、散布図
第 10 回	グラフの編集：グラフシートの作成、グラフの書式設定、代替テキストの追加
第 11 回	確認問題：グラフと表の総合演習
第 12 回	検索とジャンプ、ハイパーリンクの挿入と削除、表示モード、ウィンドウの固定、分割
第 13 回	印刷設定、ページサイズ、ヘッダー・フッターの挿入、ツールバーのカスタマイズ
第 14 回	別ファイル形式での保存（PDF、CSV）、インポートとエクスポート、ドキュメント検査
第 15 回	MOS 試験対策：まとめ、模擬試験問題

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次回講義部分のテキストを読んでくこと。
- ・復習：講義内で扱った練習問題を繰り返し解いてみること。
わからなかった部分は次の講義までに解決すること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室までは遅刻として受講を認めます、30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。

資格試験合格が目標です。資格を取得したい学生向けの講義です。

毎授業、パソコンを持参してください。授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。パソコンの充電は充分にしておいてください。

到達目標

- ・ Microsoft Office Specialist (Excel) の資格取得。
- ・ 関数を応用して、目的のデータを作成できるようになる。
- ・ 他者の作成したデータを理解し、編集できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
資格取得への 姿勢 (60%)	MOS 資格の 資格取得	MOS 資格取得への 十分な知識がある	ヒントを与えれば、 問題に解答できる。	指示通りに操作は できるが、理解が 不足している。	1 つ 1 つの機能の 理解が足りない。
応用力 (発想能力) (20%)	使用したことのない 機能でも自分で調べ 活用できる。	基本を十分に理解し、 機能を組み合わせて 結果を出せる。	ヒントを与えれば、 問題に解答できる。	指示通りに操作は できるが、理解が 不足している。	1 つ 1 つの機能の 理解が足りない。
読解力 (判断能力) (20%)	作成者の意図を理解 した上で、データを アップグレードできる。	作成者の意図を理解し、 編集作業ができる。	ヒントを与えれば 理解し、編集作業が できる。	指示通りに操作は できるが、自分自身 で判断ができない。	どのようにしたら よいか判断ができない。

評価方法

課題提出 (3 回) (60%)

授業内課題 (20%)

授業態度 (20%)

テキスト

- ・ 教科書名：『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist
MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集』
- ・ 著作/製作：富士通エフ・オー・エム株式会社
- ・ 出版社名：FOM出版
- ・ 出版年：2020 年 (978-4865104295)

年次	時期	単位	卒業	区分
1 年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

旅行会社において様々な業界との取引や社員教育・育成などの実務経験に基づき、企業等での現場実習を体験します。これに先立ち現場実習のための準備として、仕事や就職活動の方向性の確認、現場実習に向けての履歴書の作成、ビジネスマナーの習得等を行います。実習後は報告書の作成と報告会等を行います。実習と事前・事後指導を通して、就職活動・就職への意識を高めるための指導を行います。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	履修者の選考
第 2 回	授業の進め方
第 3 回	<事前指導>
第 4 回	<事前指導>履歴書等、必要書類の作成
第 5 回	<事前指導>実習先に関する研究
第 6 回	<事前指導>実習本番への準備（マナー）
第 7 回	<事前指導>実習報告の準備（プレゼン準備）
第 8 回	〔現場実習〕
第 9 回	〔現場実習〕 各々の実習先での現場実習
第 10 回	〔現場実習〕 日報の記載・提出
第 11 回	〔現場実習〕 お礼状の作成と送付
第 12 回	《事後指導》
第 13 回	《事後指導》 実習の内容と成果について
第 14 回	《事後指導》 各自 PowerPoint を使用してのプレゼン
第 15 回	実習報告会

予 習 ・ 復 習

- ・予習：実習先への提出書類作成準備、実習先での留意事項、マナーなどのおさらい
- ・復習：日報を作成して、学んだことを振り返る。実習報告会の準備、就職活動と就職に活かせることをまとめておく。

履修上の注意

- ・履修者選考（第1回授業で実施）の合格者だけが履修登録をすることができます。
なお定員は最大でも10名程度です。
- ・履修者の選考は、前期科目履修状況（特に遅刻・欠席）、面接等総合的に行います。
- ・後期総合ガイダンスの日に説明会を実施します。
- ・現場実習はもちろん、事前・事後指導も、授業時間外に実施する場合があります。もちろん、事前の調整・連絡は致しますので、連絡のチェックを怠らないようにして下さい。
- ・遅刻は原則不可とし、正当な理由のない遅刻、欠席の累計が6回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・ビジネス現場で実際に働く事を通じて、仕事の流れや職場における人間関係のあり方などを体験する。
- ・働く事の面白さと難しさ、働く事の意義を考えるとともに、就職への意識を高める。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

現場実習（50%）、事前・事後における取り組み姿勢（50%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

教科書はありません。必要な資料は適宜配付しますので、受け取りと管理を各自適切に実行してください。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

この科目は、みなさんにとって身近なスーパー・コンビニ・衣料店などについて、ビジネス面から理解するための科目です。そのために、流通の仕組みや、流通の経営や現場の実務で重要になる点（店舗開発・設計、マーチャンダizing、流通のマーケティングの基本、販売管理など）、ネットを利用した流通、オムニチャネル（ネットとリアル融合）などについて講義します。理解を深めるために、具体的な事例を多く取り上げます。最後には、事例に関してのグループワークを行って議論してもらった上で指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、流通と商業の基礎
第 2 回	流通業界と主な業態、流通チャネル・システムの概要、主な業態の種類・歴史（百貨店、スーパー、コンビニ、専門店）、商業集積（ショッピングセンター、商店街、商業施設、モール）、小売・卸・製造業の関係
第 3 回	店舗開発、店舗設計、商圈分析、出店戦略、チェーン展開、物流機能、通販（メディア）・ネット販売・オムニチャネルの概要
第 4 回	小売業態とは、主な小売業界の動向、主な小売企業の戦略（アパレル、スーパー、コンビニなど）
第 5 回	マーチャンダイジング、品揃え戦略、プライベートブランド、SPA、流通のマーケティング、広告、店内プロモーション、販売促進、値引き/特売
第 6 回	販売管理、在庫管理・ABC 分析、発注管理、商品補充、POS 情報分析、バーコード、単品管理、自動発注、レジシステム、IC タグの活用、EDI、トレーサビリティ、小テスト 1 回目
第 7 回	顧客情報分析、ID-POS データ分析、CRM システム、RFM 分析、デシル分析、FSP、顧客生涯価値
第 8 回	店舗での IT 活用、レジ不要の仕組み、無人店、来店客の分析（動線分析、買い回り分析など）、レコメンド・パーソナライズ、ミニ・グループワーク
第 9 回	流通企業の組織・人事、教育（OJT 等）、労働関連の法律、労働環境の動向、卸の役割（一括物流、リテールサポート等）
第 10 回	ネット販売の手法（モール、自社 EC/D2C、シェアリング、CtoC、二次流通、サブスクリプション等）
第 11 回	ネット販売と店舗との関係、ネット接客、ライブコマース、ネットスーパー、オムニチャネル（ネットとリアル融合）、小テスト 2 回目
第 12 回	OtoO、OMO、ショールーミングストア（売らない店）、RaaS、グループ分け
第 13 回	流通業界研究のグループワーク
第 14 回	販売士試験の概要
第 15 回	全体のまとめと振り返り

予 習 ・ 復 習

- ・予習：事例資料を事前に読んでおくというような宿題を出します。
- ・復習：授業資料を使った復習。また、具体的に身近な流通ビジネスに触れることで理解を深めてもらいたいです。

履修上の注意

配付資料等を使用して講義を行います。レジュメを配付しますので、講義の内容などを書き込んだり、メモしたりしてください。本学の学生の皆さんの多くが流通業に就職しています。流通業のしくみを理解することで、就職活動や卒業後の仕事に応用できる仕掛けや考え方を学んでほしいと期待しています。なお、この科目では販売士検定 3 級で出題される内容をいくらか含めるようにしていますが、販売士 3 級の試験範囲を一通りしっかり学びたい人はエクステンションセンターの講座等を受講したほうがいいです。正当な理由のない遅刻は、受講態度の点数を減点します。

到達目標

- ・理解度
流通業の意義・役割・構造、流通業の経営や実務の内容の基礎を理解できること。
- ・課題解決能力
流通での基本的な課題を自ら解決できること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (80%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ 100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (20%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。

評価方法

学期末試験 40%、小テスト 20%、受講態度（グループワークへの出席姿勢など）・提出物 40%

テキスト

レジュメや資料を配付します。参考書は授業中に指示します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

起業する・しないに関わらず、将来のビジネス実務において、自ら考え主体となって働くことの意義と大切さを学ぶために、「ベンチャースピリット／アントレプレナーシップ」を『起業家の精神と行動能力』と定義し、担当教員の GMO インターネットグループへの参画と経験で得た実務経験に基づいて、ベンチャービジネスの具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	イントロダクション（ベンチャースピリット／アントレプレナーシップを学ぶことの重要性） ベンチャービジネスの定義／伝統的企業との違い／イノベーションとは？	
第 2 回	(1) 事業機会の発見とアイデア考案	(2) ケーススタディ：萌芽期のベンチャービジネス① 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 3 回	(1) 弱者が圧倒的に勝つための法則	(2) ケーススタディ：萌芽期のベンチャービジネス② 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 4 回	(1) 儲ける仕組み（ビジネスモデル）	(2) ケーススタディ：萌芽期のベンチャービジネス③ 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 5 回	(1) 目標を達成するための作戦	(2) ケーススタディ：萌芽期のベンチャービジネス④ 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 6 回	(1) 事業計画の立案（リスタートアップ）	(2) ケーススタディ：成長期のベンチャービジネス① 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 7 回	(1) チームビルディング	(2) ケーススタディ：成長期のベンチャービジネス② 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 8 回	(1) ベンチャーのマーケティング	(2) ケーススタディ：成長期のベンチャービジネス③ 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 9 回	(1) 事業の成長	(2) ケーススタディ：成長期のベンチャービジネス④ 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 10 回	(1) お金の調達	(2) ケーススタディ：発展期のベンチャービジネス① 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 11 回	(1) 総括 ①：ベンチャースピリット	(2) ケーススタディ：発展期のベンチャービジネス② 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 12 回	(1) 総括 ②：ゴールの先にあるもの	(2) ケーススタディ：発展期のベンチャービジネス③ 受講生同士や担当教員とのディスカッション
第 13 回	ベンチャービジネスの実例を調べる（グループワークによる資料作成） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	
第 14 回	ベンチャービジネスの実例を調べる（グループワークによる資料作成） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	
第 15 回	ベンチャービジネスの実例を発表する（グループによるプレゼンテーション） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	

予習・復習

- ・予習：教科書の指定された範囲を必ず講義までに読み、自分の意見をまとめておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- ・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。

※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 授業内容は、前半「(1)講義形式」、後半「(2)指定テーマについてのディスカッション（アクティブラーニング形式）」とする。
2. 経済や産業の変化、最先端テクノロジーの進化や業界のトレンドを自ら学び、どの事象が自身にとって重要な出来事なのかを考え、将来のキャリアの方向性を見出すこと。
3. ベンチャー（スタートアップ）企業のホームページやニュース記事、起業家の著書などを調べる習慣を身につけること。
4. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
5. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
6. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. 自ら考え主体となって働くために（もしくは、起業・事業創造に）必要不可欠なマインドセットとスキルであるベンチャースピリット／アントレプレナーシップを理解する。
2. 「ベンチャービジネスの実例（または、オリジナルのビジネスプラン）」を説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
ベンチャースピリット／アントレプレナーシップの理解 (40%)	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップの理解にとどまらず、事業構想力まで習得できている。	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップを理解している。	ベンチャービジネスの特徴を理解している。	ベンチャービジネスの特徴をある程度理解している。	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップもベンチャービジネスの特徴も理解していない。
ベンチャービジネスの実例の説明 (60%)	特定のベンチャービジネスについて、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	特定のベンチャービジネスについて、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	特定のベンチャービジネスについて、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	特定のベンチャービジネスについて、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	特定のベンチャービジネスについて、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

前期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

- ・教科書名：クレイジーで行こう！ グーグルとスタンフォードが認めた男、「水道管」に挑む
- ・著者名：加藤 崇
- ・出版社名：日経 BP 社
- ・出版年（ISBN）：2019 年（978-4-8222-8958-4）

※講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ベンチャービジネス論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

秘書実務では、秘書になるためだけでなく、社会人になるために必要な知識を講義します。
 リモートで業務を行うことが当たり前になりつつあり、一方ではコミュニケーションの取り方も多様化し、難しくなってます。本講義では、用語や習慣など必要知識を講義し、デジタルなコミュニケーションとアナログなコミュニケーションについて一緒に考えていきます。
 周囲の人々と協働するためには何が大切か、異なった立場の人とのコミュニケーションとは、ロールプレイングや演習を通して、自分で考え工夫する力を身につけます。
 業務遂行上必要な知識・技能を「知る」だけでなく、実践で使えるよう指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画の説明 秘書の資質とは
第 2 回	第一印象：身だしなみ・表情・目線・美しい所作
第 3 回	コミュニケーション基礎：伝わる話し方・わかりやすい話し方・上手な聞き方
第 4 回	言葉使いー正しい敬語の使い方：尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語
第 5 回	コミュニケーション応用：ビジネス会話マナー クッション言葉・ビジネス慣用句 信頼される話し方
第 6 回	一般知識：カタカナ用語・略語・ビジネス用語（労務・会計・法律）
第 7 回	仕事のマナー：社内編（役割と業務内容）
第 8 回	仕事のマナー：社外編（アポイント・訪問時のマナー）
第 9 回	郵便の知識（種類と扱い）・会議の知識（種類と形式、必要な業務）
第10回	電話対応：基本対応・取り次ぎ・クレーム電話の対応・携帯電話のマナー
第11回	ビジネス文書の基本ルール：社内文書・社外文書・文書の取り扱い
第12回	ビジネス文書の基本ルール：社交文書・メール・FAX・お決まりのフレーズ
第13回	ビジネスでの慶事・弔事のマナー
第14回	ZOOM の使い方・ZOOM 会議をやってみよう
第15回	まとめと振り返り

予 習 ・ 復 習

- ・予習：予告された内容について、調べ予習をすること。
- ・復習：講義内で出てきた用語について自身で調べ覚えること。また、日常使えるスキルは即実践すること。講義内で解いた問題を再度自身で解いてみる。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室までは遅刻として受講を認めます、30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。

後半の講義ではパソコンを使用します。予告のあった日は、パソコンを持参してください。

(講義内で予告した内容は、Teams 内にも掲示します。受講前に Teams で各自確認をしてください)

到達目標

- ・ビジネス用語を理解し、使えるようになる
- ・場面に応じた立ち居振る舞いができるようになる
- ・自分の意思をきちんと伝えられるようになる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
用語理解度 (30%)	十分に理解した 上で、実践で応 用できる。	用語を理解し、 実践で活用でき る。	ヒントがあれば、 用語と意味 が一致する。	用語は知ってい るが意味と一致 していない。	各用語について の理解ができて いない。
相手を理解し 行動する (30%)	相手を理解し、 期待以上の行動 ができる。	相手を理解し行 動することがで きる。	相手を理解して いるが、行動が あと一歩。	相手を理解して いるが、行動が できない。	相手の立場を理 解できない。
伝達能力 (40%)	伝えたい内容を すべて、気落ち よく伝えられ る。	伝えたい内容を すべて伝えられ る。	伝えることは出 来るが、確認が 必要なレベル。	伝えるべき内容 に誤解を招く表 現がある。	伝えたい事がま とまらない。

評価方法

学期末試験 (50%) 授業内課題 (30%) 授業態度 (20%)

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、ワークシート形式のプリントを配付します。

全講義が終了した時に、各自のオリジナルテキストが完成します。

プリントを入れるファイル (A4 版) を用意してください (初回の講義で説明します)。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

- ・コンテンツビジネスとは何か、ジャンルごとの特徴について講義する。
- ・コンテンツビジネスの現場で応用できる実務知識を学習する。
- ・自身の利用・体験に基づくファンの立場として、消費者行動を分析、考察する。
- ・コンテンツにかかわるビジネス事例と成功条件について理解する。
- ・グローバル視野を念頭にし、コンテンツ市場の未来について理解する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	(総合) オリエンテーション
第 2 回	(総合) IP ビジネスの展開と特徴
第 3 回	(ドラマ)「番組」から「商品コンテンツ」への変貌 (グループ発表とディスカッション)
第 4 回	(音楽) K-POP にみるグローバル戦略 (グループ発表とディスカッション)
第 5 回	(漫画) スマートフォンに適するウェブトゥーンの現状 (グループ発表とディスカッション)
第 6 回	(ゲーム) e スポーツの出現と興行ビジネスの実態 (グループ発表とディスカッション)
第 7 回	(出版) 紙から WEB への変化 (グループ発表とディスカッション)
第 8 回	(公演) ライブの強みとデジタルメディアの最先端 (グループ発表とディスカッション)
第 9 回	(ニューメディア) メタバース、新たな産業への可能性 (グループ発表とディスカッション)
第10回	(文化政策) 韓流と国家戦略 (グループ発表とディスカッション)
第11回	(海外展開) クールジャパンと海外展開の支援策 (グループ発表とディスカッション)
第12回	(映画) ストーリーIP、国際共同制作、映画際の役割 (グループ発表とディスカッション)
第13回	(著作権) ビジネスの源、著作権にかかわる問題 (グループ発表とディスカッション)
第14回	(SNS) SNS によるファンダム形成 (グループ発表とディスカッション)
第15回	(プラットフォーム) 動画配信サービスとグローバル (グループ発表とディスカッション)

予 習 ・ 復 習

- ・予習：事前小レポート作成またはグループ発表準備
- ・復習：授業中にグループワークした内容のまとめ

履修上の注意

コンテンツビジネスについてのこれから実社会で活動する者にとっての基礎的な教養を身につけられる幅広く総合的な内容となる。DX 時代におけるメディアコンテンツの社会的役割とグローバル視野を念頭にし、コンテンツ市場の未来について理解すること。授業内容は受講学生の習熟度に応じて変更する場合がある。遅刻・私語は成績評価において厳しく対処する。

到達目標

- ・エンタメコンテンツビジネス業界の実践基礎知識を身につけることができる。
- ・コンテンツ市場への理解と最新トレンドについて説明がすることができる。
- ・市場ごとの異なるコンテンツの特徴について説明することができる。
- ・グローバル展開の必然性について説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 (30%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力 (25%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文書で説明する力（レポート） (25%)	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
参加意欲 (20%)	グループ発表やディスカッションに参加し、8回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、6回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、4回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、2回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加せず、発言しない。

評価方法

- ・中間レポート：30%
- ・授業への取り組み・発表：40%
- ・期末レポート：30%

テキスト

教科書とともに適宜スライドを使用し、学生の視覚的理解の向上を狙っている。スライド資料は毎回配付する。

- ・教科書名：韓国コンテンツのグローバル戦略 韓流ドラマ・K-POP・ウェブトゥーンの未来地図
- ・著者名：黄仙恵
- ・出版社名：星海社
- ・出版年（ISBN）：2023年（9784065309490）

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

サービス産業の国内経済全体の中に占める重要性は高まる一方です。そのため、サービスやサービスを理解することは重要です。この科目では、まずサービスマネジメントの理論とサービス設計の方法について講義します。そして、サービスのマーケティング、サービス品質・顧客満足度などについて実務的な内容を講義します。次に、サービス運営で重要となる教育や従業員満足の問題について講義します。事例研究の後、ネットのサービスやIT活用などについて講義します。最後に、グループワークでサービスの動向や事例について議論してもらった上で指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、サービスの概要・特徴
第 2 回	サービスを提供する企業（サービス企業、メーカーのサービス化、コト消費など）、サービスマネジメント論の概要
第 3 回	フロントステージ（従業員・設備・コンピュータなどの面）、接客・おもてなし・ホスピタリティ、マニュアル、顧客接点（タッチポイント）。
第 4 回	バックステージ、サービス・デリバリー・システム、サービスコンセプト、サービス設計（サービスデザイン）、サービスパッケージ、サービスブループリント
第 5 回	サービスのマーケティング・ブランディング・広告・価格戦略、需要の変動性への対応、リレーションシップマーケティング、CRM、サービスの事業展開、ブルーオーシャン戦略
第 6 回	サービス品質（成果品質/プロセス品質、ギャップ分析など）、顧客満足度、サービス産業生産性協議会の顧客満足度評価、NPS、覆面調査、VOC 活動
第 7 回	従業員教育、育成方法（OJT、接客コンテスト、他の従業員からの評価など）、従業員満足、サービス・プロフィット・チェーン、エンゲージメント
第 8 回	ケーススタディ（飲食などの事例）
第 9 回	ケーススタディ（旅客などの事例）
第10回	サービスでの IT 活用、管理手法、無人サービス（ロボット活用など）、インフラや公共のサービスの IT 活用、IT サービスマネジメントなど
第11回	ネットのサービス（金融、旅行など）、情報サービス（バイト募集サイトなど）、各種プラットフォーム
第12回	サービスで利用するデータ（ビッグデータ、分析方法）、オープンデータ（RESAS、シビックテック等）、コンテンツ活用、著作権、個人情報保護法など
第13回	サービスの業界研究
第14回	グループワーク（サービスの動向や事例についての議論と発表）
第15回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の内容に関する予習が必要です。ケーススタディやグループワークを行う回では、配布資料を読むなどの十分な予習が必要です。

・復習：資料を読み直すなどの復習を行って、理解を深めてください。

履修上の注意

配付資料等を使用して講義を行います。レジュメを配付しますので、講義の内容などを書き込んだり、メモしたりしてください。現在の経済環境を考えると、卒業後の進路が民間、公共を問わず、サービスのしくみや考え方を知っているか否かで、生き方に大きな違いが生まれるはずです。みなさんに身近なサービスだけでなく、企業向けサービスや公共サービスなどについても、理解するようにしてほしいです。正当な理由のない遅刻は、受講態度の点数を減点します。

到達目標

・理解度

サービスの特性、サービス業の意義・種類、サービス設計、サービスの顧客満足・従業員満足について理解できること。

・課題解決能力

サービス分野での基本的な課題を自ら解決できること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (80%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限を理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (20%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。

評価方法

最終レポート 50%、グループワーク 10%、受講態度・提出物 40%

テキスト

レジュメや資料を配付します。参考書は授業中に指示します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

今や世界はグローバルな規模で大きく変化している。グローバル化、情報化、ネットワーク化などの言葉に代表されるように国家や企業にとって従来とは違う状況が作り出され、国や企業を取り巻く環境は大きく変貌を遂げている。こうしたことを踏まえて、国際経営に関する知識、理論を学びます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の進め方・評価方法・テキスト紹介し、グローバル市場の成立を学ぶ
第 2 回	企業の国際化初期の KD 輸出とは何かを知る
第 3 回	日本企業の成立と輸出活動—トヨタの事例を学ぶ
第 4 回	日本企業の成立と輸出活動—日産の事例を学ぶ
第 5 回	トヨタの対米輸出の開始について重要点を学ぶ
第 6 回	NUMMI とは何かについて理解する
第 7 回	日本企業の対米輸出の開始—日産の事例を学ぶ
第 8 回	日本企業の成立と輸出活動の開始—ホンダの事例を学ぶ
第 9 回	日米自動車摩擦はなぜ起こり結果はどうなったかについて学ぶ
第 10 回	トヨタ・日産・ホンダの書く企業の対米輸出の比較を行い各社の違いを知る
第 11 回	トヨタ・日産・ホンダのグローバルビジネスの比較を行い各社の違いを知る
第 12 回	日本企業の輸出戦略と現地生産について既に学んだ事例を基に検討する
第 13 回	日本企業のグローバル化の状況について理解する
第 14 回	外国企業の日本進出は日本に何をもたらしたかについて学ぶ
第 15 回	授業の振り返りと期末レポート作成

予習・復習

- ・予習：予習：所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと
- ・復習：授業で学んだことも含め、どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意

1. この科目は経営学総論，経営学，経営管理論，経済学などと多様なつながりがあるので，関連科目を履修していることが望ましい
2. 授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください

到達目標

1. ニュースや経済新聞の企業活動に関する記事が理解できる
2. 企業の国際化やグローバル化について理解できる
3. グローバルな経営活動について理解できる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (60%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力(レポート) (40%)	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが，説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない

評価方法

1. 期中に課すレポート40% (テキストの内容に基づき出題する)
2. 期末レポート60% (15回目の授業時に授業の振り返りの後実施し，終了時間内に回収する)

テキスト

- ・教科書名：『入門 グローバル・ビジネス』
- ・著者名：吉沢正広編著
- ・出版社名：学文社
- ・出版年 (ISBN)：9784762016004

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

インターネットビジネスは、インターネットを活用したビジネス全般を指します。本授業では、インターネットの仕組みとその基本技術、特にインターネットビジネスの諸形態と収益モデルからアプローチして、その最新動向について体系的に講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	インターネットの仕組みとその基本技術
第 3 回	インターネットビジネスの諸形態と収益モデル
第 4 回	オンラインショッピングの仕組みと現状
第 5 回	シェアリングエコノミーの仕組みと現状
第 6 回	クラウドファンディングの仕組みと現状
第 7 回	中間まとめ（課題提出あり）
第 8 回	新動向（1）DX：デジタルがビジネスを変革させる
第 9 回	新動向（2）IoT：あらゆるモノがインターネットにつながる
第10回	新動向（3）ビッグデータ：未知の可能性を可視化する
第11回	新動向（4）クラウド：業務効率向上とリスク低減を同時実現させる
第12回	新動向（5）AI：人工知能が新たなビジネスを拓く
第13回	新動向（6）XR（クロスリアリティ）：リアルとバーチャルを融合させる
第14回	新動向（7）ソーシャルメディア：つながりで社会を変革させる
第15回	総まとめ（課題提出あり）

予習・復習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配付プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本授業は、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本授業は、受講生の皆さんが（１）インターネットビジネスの諸形態と収益モデルに関する基礎知識を修得し、（２）チームメンバーと協力して関連の企業事例を調査でき、（３）自分の言葉でその内容を表現できるようになることを目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (35%)	学習内容を理解した上で、他の分野にも応用できるか常に考えている。	学習内容だけでなくその限界を深く理解している。	学習内容を理解している。	学習内容について最低限の理解をしている。	学習内容についての理解ができていない。
応用力 (20%)	自ら積極的に学習を進め、それを社会の発展に活用しようと考えている。	学習内容を強みとして自らの就職や進学などで活用することを考えている。	学習内容の利活用場面を見出すことを考えている。	単位の取得のみ考えている。	受講の意義について考えていない。
グループワーク (45%)	積極的にグループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、多少不足がある。	グループワークに取り組む積極性は最低限である。	グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

期末試験の成績：55%（基礎力：35%＋応用力：20%）
グループワークの参加とフィードバックシートの提出：45%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	4	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

簿記Ⅰ・Ⅱでは、商業の小企業で必要とされる簿記上の入門的、基礎的な知識および技術を修得しました。簿記Ⅲでは、簿記Ⅰ・Ⅱよりは高度な、商業の中企業で必要とされる簿記上の知識および技術を講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容	授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス	第 16 回	中間試験
第 2 回	簿記Ⅰ・Ⅱ(3級レベル)の復習(1)	第 17 回	株式会社の純資産(1)
第 3 回	簿記Ⅰ・Ⅱ(3級レベル)の復習(2)	第 18 回	株式会社の純資産(2)
第 4 回	現金預金(1)	第 19 回	株式会社の純資産(3)
第 5 回	現金預金(2)	第 20 回	リース会計
第 6 回	有価証券(1)	第 21 回	外貨取引
第 7 回	有価証券(2)	第 22 回	税効果会計
第 8 回	手形	第 23 回	決算(1)
第 9 回	その他の債権債務	第 24 回	決算(2)
第 10 回	一般商品販売(1)	第 25 回	本支店会計(1)
第 11 回	一般商品販売(2)	第 26 回	本支店会計(2)
第 12 回	固定資産(1)	第 27 回	連結会計(1)
第 13 回	固定資産(2)	第 28 回	連結会計(2)
第 14 回	引当金(1)	第 29 回	連結会計(3)
第 15 回	引当金(2)	第 30 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
- ・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 「簿記ⅠおよびⅡ」の単位取得者、または、日商簿記検定3級もしくは全商簿記2級商業簿記程度の学習をすでに終えている人が対象の科目です。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。
4. コロナの影響で、授業形態、授業内容が変更される場合があります。

到達目標

①やや高度な個別処理が理解できる。②決算が理解できる。③本支店会計が理解できる。
本講受講後に、全経簿記2級商業簿記には合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (40%)	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 30%＋発展力 40%）、受講姿勢 30%

テキスト

- ・教科書名：『新検定簿記講義 2級商業簿記』
- ・著者名：渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著
- ・出版社名：中央経済社
- ・出版年（ISBN）：2023 年

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

経営分析とは、企業が公開している財務諸表などの情報からその経営状態を分析評価することです。本授業は、経営分析の基本的な考え方、財務諸表を読み解くことで企業の収益性、生産性、成長性、安全性や効率性に関する基礎知識と分析方法を体系的に講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	経営分析の考え方と財務諸表の読み方
第 3 回	収益性分析：売上高利益率の概念と分析方法とケーススタディ
第 4 回	生産性分析：1人当たり分析の概念と分析方法とケーススタディ
第 5 回	成長性分析：売上高、利益、資産規模や従業員数の伸び率とケーススタディ
第 6 回	成長性分析：研究開発費比率の概念とケーススタディ
第 7 回	成長性分析：キャッシュフローのパターンとフリーキャッシュフローとケーススタディ
第 8 回	中間まとめ（課題提出あり）
第 9 回	安全性分析：流動比率の概念と分析方法とケーススタディ
第10回	安全性分析：固定比率の概念と分析方法とケーススタディ
第11回	安全性分析：自己資本率の概念と分析方法とケーススタディ
第12回	効率性分析：総資産回転率の概念と分析方法とケーススタディ
第13回	総合分析（1）ROA（総資産利益率）の概念と分解とケーススタディ
第14回	総合分析（2）ROE（株主資本利益率）の概念と分解とケーススタディ
第15回	期末まとめ（課題提出あり）

予 習 ・ 復 習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配付プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本授業はグループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の意見を発表することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本授業は、受講生の皆さんが（1）経営分析の基本理論とケーススタディの方法を修得し、（2）チームメンバーと協力して関連の企業事例を調査でき、（3）自分の言葉でその内容を表現できるようになることを目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (35%)	学習内容を理解した上で、他の分野にも応用できるか常に考えている。	学習内容だけでなくその限界を深く理解している。	学習内容を理解している。	学習内容について最低限の理解をしている。	学習内容についての理解ができていない。
応用力 (20%)	自ら積極的に学習を進め、それを社会の発展に活用しようと考えている。	学習内容を強みとして自らの就職や進学などで活用することを考えている。	学習内容の利活用場面を見出すことを考えている。	単位の取得のみ考えている。	受講の意義について考えていない。
グループワーク (45%)	積極的にグループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、多少不足がある。	グループワークに取り組む積極性は最低限である。	グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

期末試験の成績：55%（基礎力：35%＋応用力：20%）

グループワークの参加とフィードバックシートの提出：45%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

最近話題になった実際の事件などを通して、生活の基本ルールである民法をできるだけ法律用語は使わずに説明する。また、グローバル化と法の視点から、映像資料や新聞記事なども紹介する。知識定着と検定試験合格のために、授業の最後に練習問題を解くことで、法的知識を身に付けられるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス・民法の基本原則…権利とは何か、法律の分類
第 2 回	民法の主人公とその役割…権利能力、意思能力、行為能力、法人、代理
第 3 回	法人の役割…社団法人・財団法人・NPO法人など
第 4 回	契約の種類と役割①…売買契約の成立、契約の効力、契約の法的保護
第 5 回	契約の種類と役割②…賃貸借契約、借地借家法、請負・委任・寄託など
第 6 回	弁済と法…弁済とは、手形・小切手と電子マネー・クレジットカードなど
第 7 回	不法行為・事務管理・不当利得…予想外の出来事と法、誰が責任をとるのか
第 8 回	財産に関する法…物権と債権、各種の財産権、財産権の移転、不動産登記
第 9 回	権利の確保…担保の性質、抵当権・質権、保証・連帯保証、債権回収と強制手続き
第10回	民法の広がり①…消費者保護の法、クーリングオフ、個人情報保護法
第11回	民法の広がり②…労働と法、男女雇用機会均等法、労働者派遣事業法
第12回	家族と法…家族の法的意味、夫婦間の財産関係、法定相続、遺言・遺産分割など
第13回	民法とグローバル化①…日本の土地は誰のものか、モノの国際的取引、法的保護
第14回	民法とグローバル化②…国際結婚・離婚、家族・親せきの範囲、子どもの権利など
第15回	全体のまとめ…今ある民法とこれからの民法、民法改正、私たちの民法へ

予習・復習

・予習：授業の進行予定を初回授業時に配付するので、次回扱う内容のキーワードを予め後掲の教科書で調べておくこと。

・復習：各回の授業の最後に確認テストを解いてもらうので、確認テストの解答解説をよく読んで、授業内容をふりかえり、知識を実際に使えるものとして定着させておくこと。

履修上の注意

教科書は、講義中や毎回の小テストにおいて頻繁に使うので、毎回持参すること。授業内では実際の裁判について学生の意見を求めて対話を行う。授業中の質問は大歓迎だが、私語は別である。私語・遅刻などをする学生には教室および成績評価において厳しく対処する。

到達目標

- ・ビジネス実務法務検定3級に合格できる法的知識を身につける。
- ・法律問題に直面した時に、自分で解決できるか、関係機関や専門家に相談するべきかを判断できる法的判断能力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
法的知識 (70%)	民法およびビジネスに関する各種の法制度を正確に理解している。	民法およびビジネスに関する各種の法制度をおおむね理解している。	民法上の制度をおおむね理解している。	民法上の制度をある程度理解している。	民法上の制度がほとんど理解できていない。
法的判断応力 (30%)	法的問題について、法律や判例に基づいた正確な判断ができる。	法的問題について、法律に基づいて判断ができる。	法的問題について、内容を理解し、どこに法的問題があるかが分かる。	法的問題について、内容は理解しているが、何が法的問題かは分からない。	法的問題の理解ができていない。

評価方法

- ・定期試験 70%、中間テスト・各回テスト 30%。

テキスト

①菅谷貴子＝厚井久弥編著『法務教科書 ビジネス実務法務検定試験(R)3級テキストいらずの問題集 2023 年版』(翔泳社) 2023 年

②國谷知史ほか編『確認中国法用語 250』(成文堂) 2011 年

*①②の2冊とも使用します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

原価計算はおもに、(1) 企業外部の利害関係者に有用な会計情報を作成するため、もしくは(2) 企業内部の経営管理者に有用な会計情報を作成するために利用されています。この科目ではとくに、前者の目的に対して原価計算がどのように利用されているかを理解できることを目標に、原価計算の仕組みを講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	原価計算の基礎(1)
第 3 回	原価計算の基礎(2)
第 4 回	材料費の計算(1)
第 5 回	材料費の計算(2)
第 6 回	労務費の計算
第 7 回	経費の計算
第 8 回	製造間接費の計算
第 9 回	個別原価計算(1)
第10回	個別原価計算(2)
第11回	個別原価計算(3)
第12回	総合原価計算(1)
第13回	総合原価計算(2)
第14回	総合原価計算(3)
第15回	まとめ

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
- ・ 復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 初歩的な仕訳のできる人が対象の科目です。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。
4. コロナの影響で、授業形態、授業内容が変更される場合があります。

到達目標

①原価計算の意義、目的などの基礎知識が理解できる。②費目別計算、部門別計算、製品別計算という原価計算の基本的手続きが理解できる。③個別原価計算、総合原価計算などの計算ができる。
本講受講後に、少なくとも全経簿記2級工業簿に合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (40%)	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

試験の成績 70% (内訳：基礎力 30%＋発展力 40%)、受講姿勢 30%

テキスト

- ・教科書名：『新検定簿記講義 2級工業簿記』
- ・著者名：岡本 清、廣本敏郎編著
- ・出版社名：中央経済社
- ・出版年 (ISBN)：2023 年

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

金融とは、簡単に言えば「資金の貸借」のことである。資金は、お金の余っている人（「資金余剰主体」という）から、お金の足りない人（「資金不足主体」という）に貸される。前者のことを「資金運用者」、後者を「資金調達者」とも呼ぶ。この間を取り持つのが、金融の機能（役割）である。授業では、誰もが普通に働いて暮らすことができるよう、金融の機能と家計管理・生活設計を目指す金融リテラシーについて学ぶ。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について講義する。
第 2 回	金融とはどういうことかについて講義する。
第 3 回	金融機関と金融業務について講義する。
第 4 回	金融市場と金利について講義する。
第 5 回	デリバティブと証券化について講義する。
第 6 回	企業金融と消費者金融について講義する。
第 7 回	資金循環と決済システムについて講義する。
第 8 回	金融の IT 化とフィンテックについて講義する。
第 9 回	仮想通貨とブロックチェーンについて講義する。
第 10 回	金融政策について講義する。
第 11 回	プルーデンス政策について講義する。
第 12 回	金融制度の改革について講義する。
第 13 回	国際収支の仕組みと動向について講義する。
第 14 回	国際金融と外国為替について講義する。
第 15 回	全体のまとめ。

予 習 ・ 復 習

- ・予習：金融に関するニュース等をまとめておくこと。
- ・復習：教科書・講義資料などを復習しておくこと。

履修上の注意

特に金融リテラシーに関心を持って、講義を受けていただきたい。

- ・資料は教室で配布する。
- ・受講中の飲食、雑談は禁止する。
- ・受講中の PC、スマホ、携帯の利用は原則禁止する。
- ・20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到達目標

授業では、個人の資金運用者、または資金調達者としての稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどのお金を介した生活スキル・金融リテラシーについて学んでいく。

ループブック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (40%)	金融リテラシーを理解し、お金を介した生活スキルを身に付けている	金融の仕組みを十分に理解している	資金調達者と運用者についての理解にはやや努力を要する	資金調達手法など従業内容の理解にはかなり努力を要する	金融の仕組みについて理解できていない
課題解法能力 (20%)	個人の資金運用者、または資金調達者としての稼ぐ・使う・借りる・増やすなどの金融リテラシーについて理解できる	個人と法人の資金運用者、または資金調達者について十分に理解し、問題解法もできる	特に金融リテラシーについての課題解法能力はやや不足している	資金調達と運用の課題の解法にはかなりの努力が必要である	金融ビジネスの課題解法はできていない
解法を文書で説明する力・レポート (20%)	個人金融と企業金融について文書まで書ける	金融の実務について他人を説得する内容が記述できる	論理が通った金融課題説明文が記述できる	ケースについて説明が、説明文を書くことができる	ケースについて説明文を書くことができない
統計的分析能力 (10%)	個人と法人におけるお金を稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどについて統計的分析に優れている	特に個人におけるお金を稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどについて統計的分析が良くできている	金融資産価格の推移についての統計的な分析にやや努力を要する	金融資産価格の推移についての統計的な分析にかなり努力を要する	金融資産価格の推移についての統計的な分析ができていない
歴史的知識 (10%)	金融機関、株式会社制度とその歴史、代表的な株価指数とその推移について詳しい	金融機関、株式会社制度とその歴史、代表的な株価指数とその推移について理解している	金融機関、株式会社制度とその歴史、代表的な株価指数とその推移を知るにはやや努力が必要である	金融機関、株式会社制度とその歴史、代表的な株価指数を知るにはかなり努力を要する	金融機関、株式会社制度とその歴史、代表的な株価指数とその推移について分かっていない

評価方法

期末試験 (70%)、受講態度 (20%)、小テスト (10%)

テキスト

- ・教科書名：『金融読本』；第 32 版、
- ・著 者 名：島村高嘉/中島真志
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出 版 年 (ISBN)：2023 年 3 月 (4492100369)

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

企業とは、計画的・継続的に営利活動を行う経済単位をいい、その中でも資本主義経済において重要な役割を果たしているのが会社企業である。そして会社企業に関して大部分かつ基本的な規制をしているのが、平成17年に制定された「会社法」であり、具体的には設立・構成単位（株式）・資金調達・運営機関などについて規定している。この講義においては、会社企業を規制する法分野である会社法について、株式会社を中心に講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	会社の意義
第 2 回	株式会社の設立
第 3 回	発起人の権限
第 4 回	設立関与者の責任
第 5 回	株式の意義と内容
第 6 回	株式の譲渡と制限
第 7 回	自己株式の取得
第 8 回	募集株式の発行
第 9 回	募集株式の発行の瑕疵
第10回	株主総会の権限と招集
第11回	株主総会の決議と瑕疵
第12回	取締役、取締役会
第13回	取締役の義務
第14回	取締役の会社に対する責任
第15回	責任追及等の訴え（株主代表訴訟）

予 習 ・ 復 習

- ・予習：教科書の通読
- ・復習：ノートのとまとめ

履修上の注意

プロジェクターで映写した内容をノートに書き写してもらい、講義担当者が口頭による説明を加える。書き写す分量は少なくないかもしれないが、講義内容を理解するためには必要な作業である。従って講義には必ず出席すること。

遅刻について、講義途中に出席カードを配付する際に着席している場合は出席として扱うが、不在の場合は出席として扱わない。

到達目標

株式会社の設立、構成単位、資金調達、運営機関について理解することを講義の目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (40%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力 (30%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力 (レポート) (30%)	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができていない。

評価方法

定期試験 100%

テキスト

- ・教科書名：現代商法入門（第11版）
- ・著者名：近藤光男編
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年（ISBN）：2021年（978-4-641-22177-2）

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

この授業では、まず人間の「心」についての基礎を学んでゆきます。生物としての人間という視点から心理学の基礎的な知識を習得します。次に、他の動物にはみられない人間心理の特徴的な部分についての学習に進みます。最終的に、みなさん自身を含めた「人間」という存在を理解することを目指します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、および心理学の歴史 — 心への関心はいつ生まれたのか? —
第 2 回	「心」はどこにあるのか? — 脳の構造と人間心理との関係 —
第 3 回	知覚 — 感覚を使った世界とのつながり方を知る —
第 4 回	学習 — 新しいことが「出来るようになる」メカニズムについて —
第 5 回	記憶 — 新しいことを「覚える（覚えておく）」メカニズムについて —
第 6 回	感情 — 自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について —
第 7 回	注意 — 自分の周りの何かに「気づく」メカニズムについて —
第 8 回	ストレス — ストレスの種類と心身への影響について —
第 9 回	発達 — 人間が「成長する」メカニズムについて —
第10回	言語 — 「会話」し「理解する」仕組みについて —
第11回	思考 — 人間が手に入れた「考える」メカニズムについて —
第12回	意識 — 「意識がある」とは心理学的にどのような状態なのか? —
第13回	パーソナリティ — 性格を科学的に捉えるテクニックについて —
第14回	社会心理 — 社会生活における「情報処理」と「他者」の役割について —
第15回	睡眠と夢 — 人間の「眠り」と「夢」のメカニズムについて —

1

予習・復習

- ・予習：各回の授業テーマに関連する予備知識をつけておく（ネットなどで）。
- ・復習：スマホなどで撮影した画像から、授業ノートを分かりやすく清書する。

履修上の注意

授業には積極的な態度で望み、心と身体の基本的なメカニズムを理解するよう努めること。
なお、この授業では「遅刻 2 回で欠席 1 回」の扱いとしますので注意するように。

到達目標

- ・科学的な視点から心理学の基礎を学ぶ。
- ・科学的な視点から世界を眺め、必要な場合には状況を分析して対処できるようになる。
- ・この授業で得られた心理学の知識を、今後の生活の様々な場面に活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50 %)	-	授業内容を ほぼ理解できて いる。	授業内容の理解 が多少不足して いる。	授業内容を大ま かにではあるが 理解している。	出席不足などか ら授業内容を理 解していない。
関心度 (25 %)	授業内容を越え た領域まで興味 を示している。	授業に大きな関 心を持って臨ん でいる。	授業内容への好 奇心が多少不足 している。	授業内容への関 心があまり持て ていない。	授業内容にほぼ 関心がなく出席 しているだけ である。
発信力 (25 %)	自分の疑問点を 分かりやすく簡 略に質問でき る。	教員からの質問 に対して自分の 考えを口頭で表 現できる。	教員からの質問 に対して自分の 意見を発信でき る (挙手) 。	教員からの質問 に対して自分の 意見を発信でき ない。	

評価方法

定期テスト : 70 %
発表 : 20 %
受講態度 : 10 %

テキスト

使用しません。資料が必要な場合に、適宜プリントを配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

様々なテクノロジーの恩恵や研究成果を受けて、医療ビジネスは現在急速に成長と進化を遂げている領域となった。近未来には国内外における最大マーケットになることも期待されている。医療ビジネスの特徴や諸課題について理解を深め、今後どのような展開をしていくかについても含め講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	医学史からみた医療－医療はビジネスなのか？
第 2 回	医療ビジネスの特徴と範囲
第 3 回	医療ビジネスにおける人的資源の重要性と人件費
第 4 回	医療ビジネスにおける材料費、薬剤費、医療関連サービス等の重要性
第 5 回	医療ビジネスが抱える諸問題
第 6 回	開設主体による病院経営の特徴と違い
第 7 回	ブランド病院
第 8 回	異業種参入
第 9 回	医療費増大とセルフケアの重要性
第10回	遠隔医療の発展
第11回	AI ホスピタル
第12回	先端医療とビジネス
第13回	未病ビジネス
第14回	未来の医療ビジネス
第15回	命を扱うビジネスに重要な視点－倫理、教育・研修、安全、質

予習・復習

- ・予習：次の単元についての教科書部分の予習を1時間程度毎回行うこと。
- ・復習：授業での実施内容について、1時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到達目標

1. 医療ビジネスの扱う領域について理解できる。
2. 医療ビジネスの特徴について説明できる。
3. 医療を取り巻く急速な変化とニーズについて理解できる。
4. 医療ビジネスの課題と問題点について説明できる。
5. 未来の医療ビジネスの方向性について創造できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50 %)	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現できる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力 (30 %)	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
創造する力 (20 %)	独創的に創造することができる。	ほぼ 100%創造することができる。	創造することはできるが、不十分である。	十分に創造することができない。	創造できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

- ・教科書名：図解即戦力 病院業界のしくみとビジネスがこれ 1 冊でしっかりわかる教科書
- ・著 者 名：三森 義夫
- ・出版社名：技術評論社
- ・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4297132026）

医療コミュニケーション論

～良質な医療コミュニケーションは患者の回復を促進する～

一戸 真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

様々な人間関係においてコミュニケーションは最も重要な役割を果たすが、医療現場における医療コミュニケーションもまた、患者の回復や医療安全に直接影響を与える重要な要素であることについて講義する。グループワークを通してコミュニケーションの具体的なあり方についても理解を深められるよう講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	コミュニケーションの本質と目的
第 2 回	コミュニケーションの手段（バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーション）
第 3 回	コミュニケーション・スキル
第 4 回	意思決定能力とコミュニケーション
第 5 回	信頼関係とコミュニケーション
第 6 回	五感からの情報とコミュニケーション
第 7 回	医療コミュニケーションの特徴
第 8 回	患者・患者家族—医療従事者間コミュニケーション
第 9 回	チーム医療におけるコミュニケーション
第10回	グループワーク①あいさつ、ホスピタリティ
第11回	グループワーク②告知
第12回	グループワーク③傾聴・共感
第13回	グループワーク④意思決定支援
第14回	良質な医療コミュニケーションと患者のQOL(Quality of Life)
第15回	良質な医療コミュニケーションと患者・家族満足度、医療のアウトカム

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を1時間程度毎回行うこと。
- ・復習：授業での実施内容について、1時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20分まで）3回で欠席1回とする。

到達目標

1. コミュニケーションの本質について理解できる。
2. コミュニケーションの手段・方法について説明できる。
3. 患者・家族—医療者関係について理解できる。
4. 医療コミュニケーションの特徴について理解できる。
5. 良質な医療コミュニケーションについて実践できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50 %)	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現できる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力 (30 %)	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
実践力 (20 %)	積極的に実践することができる。	ほぼ 100%実践することができる。	実践できるが、十分ではない。	あまり実践できない。	実践できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

- ・教科書名：メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論
- ・著者名：山蔦圭輔、本田周二著
- ・出版社名：南山堂
- ・出版年（ISBN）：2021年（978－4525504519）

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

臨床心理学は何のために発展し、何を学ぶのかということについて講義を行う。皆さん自身の体験を通して、自他の体験について考えることを学ぶ。他者の意見を聞き、様々な意見があることを理解し、そこから自分の考えをまとめ、それをさらに他者に伝え、共有することを重要視した講義となっている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 講義の内容の説明とスケジュールの確認 臨床心理学を学ぶ意味について理解する。
第 2 回	精神医学と臨床心理学の違いについて I 双方は重なる面もあるが、異なる面も存在する。それらの相違について理解する。
第 3 回	精神医学と臨床心理学の違いについて II 事例を通して、双方の違いを理解する。
第 4 回	臨床心理学の実際 I 自分を理解する一環として、質問紙による心理検査を実際に行ってみる。
第 5 回	臨床心理学における心理査定の意義 心理臨床においては心理査定（心理検査）が用いられるが、検査の目的や様々な検査について紹介し、それらの違いについて理解する。
第 6 回	臨床心理学の実際 II 心理療法場面の DVD を見て、グループディスカッションを行い、自分たちの意見を発表する。自分の感覚に基づき、自分の意見を持ち、他者に伝えることを学ぶ。
第 7 回	臨床心理学の実際 III 個人心理療法の目的について理解する。
第 8 回	臨床心理学における観察の意義 心理臨床において観察は非常に重要である。実際に観察してみよう。観察レポート提出
第 9 回	子どもの心理療法 I 子どもの心理療法事例を読み、大人との違いを理解する。
第 10 回	子どもの心理療法 II 子供の心理療法の目的について理解する。
第 11 回	恋愛に関する心理学 I 恋愛に関する簡単な研究結果を読み、クリティカルシンキングについて学ぶ。
第 12 回	恋愛に関する心理学 II 恋愛に関する簡単な研究結果を読み、クリティカルシンキングについて学ぶ。
第 13 回	恋愛に関する心理学 III 臨床心理学的視点から恋愛について考える。
第 14 回	アウトサイダーアート
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：講義中に関連図書を紹介する。また次の回にレジュメを配付することがあるので、必ず読んでくること。

・復習：講義中に関連図書を紹介する。

履修上の注意

臨床心理学は実践学問である為、体験することを通して学ぶことを重要視する。講義中はグループワークを行うので、グループでのディスカッションに積極的な参加を必要とする。ただし、学年等が異なる場合、作業を一人でおこなってもさしつかえない。その場合は、その旨ははっきりと伝えることが必要である。遅刻は4回で1回欠席となる。

到達目標

1) 臨床心理学は、何のために発展してきたか説明できること、2) 臨床心理学において自分を理解することの意味とその重要性を説明できること、3) 心理、精神的に実際に自分が困った時、どのように対処すればよいか説明できること、4) 他者の意見を聞くことができ、自分の意見をまとめられることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (30%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力 (50%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとけること	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくことができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力 (レポート) (20%)	他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験 50 % 小テスト 30% レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配付する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

メンタルヘルスとは心理、精神的な健康を意味する。心理、精神的な健康とその健康さを損なうもの、ことについての理解を目的とした講義を行う。こころの健康は自分一人で維持することは困難であるという理解を促すことを目的としている。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 講義の内容の説明とスケジュールの確認 メンタルヘルスの意味を理解する。
第 2 回	こころの健康と異常 I
第 3 回	こころの健康と異常 II
第 4 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 I
第 5 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 II
第 6 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 I 自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 7 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 II 自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 8 回	家族心理療法 I 健康な家族とはどういうものだろうか。
第 9 回	家族心理療法 II 家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第10回	家族心理療法 III 家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第11回	心理療法・精神科治療の効果 I 心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことがわかっており、これからの課題は何かを理解する。
第12回	心理療法・精神科治療の効果 II 心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことがわかっており、これからの課題は何かを理解する。
第13回	心理療法の失敗とは？
第14回	メンタルをケアするための様々なアプローチ
第15回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：講義中に関連図書を紹介する。また次の回にレジュメを配付することがあるので、必ず読んでくること。

・復習：講義中に関連図書を紹介する。

履修上の注意

他者と交流することから学ぶことが重要な講義となっている。そのため講義ではグループワークを行う。グループディスカッションでは、積極的な参加を必要とする。ただし学年が異なるなどの場合は、作業を一人で行うことは差し支えない。その場合は、教室全体で共有する際、積極的に発表してほしい。遅刻は4回で1回欠席となる。

到達目標

1) こころの異常と健康について説明することができる。2) こころの健康を損なうもの、ことについて説明することができる。3) こころの健康を維持するため何が必要か学ぶ。4) 他者の意見を聞き、自分のコミュニケーション能力を現状より高めることを目的とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 (30%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力 (50%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとける。	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくことができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力 (レポート) (20%)	他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験 50 % 小テスト 30% レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配付する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

情報テクノロジーの進歩に伴い、医療現場における医療情報システム化が進んできている現状を理解することにより、どのようなことが医療者―患者関係および医療従事者間において変化してきているかについて講義する。電子カルテシステムにはどのような情報が含まれているか、医療情報のシステム化が医療の質の向上にどのように貢献可能であるかについて理解を深められるよう講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	医療情報の特性、医療情報の量と質
第 2 回	医療情報倫理、プライバシー保護とセキュリティ
第 3 回	標準化と EBM (Evidence- Based Medicine)
第 4 回	病院情報システム (診療、看護、薬剤含む)
第 5 回	基幹システム①オーダシステム
第 6 回	基幹システム②電子カルテシステム (1)
第 7 回	基幹システム②電子カルテシステム (2)
第 8 回	部門システム①医事会計システム
第 9 回	部門システム②検査系システム
第 10 回	部門システム③医用画像システム
第 11 回	部門システム④栄養システム
第 12 回	部門システム⑤物流システム
第 13 回	部門システム⑥リスク管理システム
第 14 回	地域医療連携情報システム
第 15 回	医療の質の向上と医療情報システムの未来

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。
- ・ 復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到達目標

1. 医療情報とは何かについて理解できる。
2. 医療情報のシステム化の意味することを理解できる。
3. 医療情報システムについて説明できる
4. 基幹システムや部門システムについて説明できる。
5. 医療情報システムの未来について思考できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50 %)	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現できる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力 (30 %)	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
思考する力 (20 %)	具体的に自ら思考して表現できる。	ほぼ 100%思考することができる。	思考できるが、十分ではない。	あまり思考できない。	思考できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

- ・教科書名：医療情報システム入門
- ・著 者 名：保健医療福祉情報システム工業会 JAHIS 編
- ・出版社名：社会保険研究所
- ・出 版 年（ISBN）：最新版

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

産業心理学とは、会社や組織の中での人々の意識、態度や行動などについて研究する学問領域である。講義前半では、人々が仕事に取り組む際に直面するさまざまな問題をどのように解決していくかについて講義する。後半では、消費者行動とマーケティングに関するテーマを取り扱う。本講義を通じて、心理学が職場の人間関係や行動の理解にどのように活かされているかを学んで欲しい。授業は主に講義形式で行うが、映像視聴やディスカッションも取り入れる。授業内容を興味深いものにするために各履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：産業心理学について
第 2 回	リーダーシップ：集団におけるリーダーの役割
第 3 回	ワークモチベーション：仕事への動機付け
第 4 回	組織内の人間関係とコミュニケーション
第 5 回	人を活かす 1：募集・採用と処遇
第 6 回	人を活かす 2：人事評価
第 7 回	雇用の多様化とワーク・ライフバランス
第 8 回	産業疲労：働く人の疲労、過労、眠気
第 9 回	健康の心理：ストレスとメンタルヘルス
第 10 回	消費者行動研究の意義と目的
第 11 回	消費者の購買意思決定：「なぜその商品を買うのか」
第 12 回	消費者行動の規定要因：個人差要因・状況要因・社会的影響
第 13 回	消費者問題と消費者保護：「なぜ人は悪徳商法に騙されるのか」
第 14 回	ファッションの心理学：被服・化粧行動
第 15 回	総括

予習・復習

- 予習：ワークシート課題など。
- 復習：講義で扱った内容と自分の日々の生活上の出来事との関連を考えること。理解を深めるために参考図書や資料を読むこと。授業で学んだことを他者に説明すること。

履修上の注意

- 毎週の講義後にリアクションペーパーの提出を求める。講義に対する質問や意見等を積極的に書くようにして欲しい。
- 授業と関係のない私語は厳禁である。私語を含め周囲に迷惑をかけるような行動がみられる場合には、退席を求めることがあることに注意すること。
- 単位取得には2/3以上の出席が必要である。
- 受講者の希望や進み具合により、授業の順番や内容を一部変更することがある。

到達目標

- 産業場面における課題を理解し、自らのワークライフを考えることができる。
- 産業・組織心理学が培ってきた知見を職場での問題解決に生かすことができる。
- 消費者行動研究について理解する。
- 消費者行動研究で学んだことを日常生活の購買行動の説明に利用できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (70%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	解決策が分からない他者にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解決することができる。	資料を参考にすれば、独自で課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決することができない。

評価方法

- 学期末試験：70%
- 授業内レポート：30%

テキスト

毎回、講義資料を配付する。また、参考文献は適宜授業内で紹介する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における、観光産業の様々な会社や組織との実務経験に基づき、観光ビジネスを分類別に実例を挙げながら具体的な業務内容や日本経済や環境に与える影響を講義する。また観光関連の仕事に興味を持って就職先の選択肢のひとつとしたり、消費者目線で利用する際にも役立ちます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション 授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	日本の観光ビジネスの概要と歴史
第 3 回	観光ビジネス① [運輸関連：J R、私鉄]
第 4 回	観光ビジネス② [運輸関連：航空、観光バス他輸送]
第 5 回	観光ビジネス③ [運輸関連：クルーズ]
第 6 回	観光ビジネス④ [宿泊：ホテル、旅館、レストラン施設]
第 7 回	観光ビジネス⑤ [テーマパーク、他アミューズメント関連]
第 8 回	理解度小テストの実施、課題レポートの提出
第 9 回	日本の観光政策と地域における観光ビジネス（地方創生）
第10回	観光ビジネス⑥ [着地型テーマ旅行関連、他]
第11回	観光ビジネス⑦ [イベント]
第12回	観光ビジネス⑧ [M I C E]
第13回	海外の観光ビジネス① [訪米]
第14回	海外の観光ビジネス② [東南アジア、オセアニア他]
第15回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いので、特に復習が大事です。

- ・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
- ・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的の実施します。

履修上の注意

- ・観光ビジネス（航空、鉄道、宿泊、テーマパーク、イベントなど）関連に興味を持って、日常的に情報収集（テレビ、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・観光ビジネスを分類別に学び、興味を持って、就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線で利用する際に役立てる）
- ・「観光ビジネスが日本経済や環境に与える影響」について修得して、課題に対して情報収集・提案出来るようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

取り組み姿勢 (50%)、授業内の理解度テスト (30%)、課題レポート (20%) を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ホスピタリティ概論

～社会に出て役立つホスピタリティを習得する～

富吉 光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「ホスピタリティ」はさまざまな業界・業種で必要とされる接客や対人関係の心構えにあたり、日本での「おもてなし」に通じるものでもある。旅行会社と航空会社に在籍し、お客様の満足度を高めるために実践してきた実務上の経験を元に取り上げる「ホスピタリティ」の基本を習得しながら、様々な業種・業界におけるマナー・ホスピタリティ・おもてなしの理解につなげていく。とりあげる「ホスピタリティ」の事例から企業やビジネス上の「顧客満足」とは何かを習得することも重要である。就活、実社会の仕事上、いずれにおいても本授業が非常に重要な意味を持つことを理解して履修すること。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画と成績評価の方法の説明、ホスピタリティとは？
第 2 回	ホスピタリティの基本① ビジネスマナーの基本、言葉使い、対応方法のマナー
第 3 回	ホスピタリティの基本② 電話のマナー、会話のマナー
第 4 回	ホスピタリティの基本③ メール、PC、スマホ、インターネット、SNS のマナー
第 5 回	ホスピタリティの基本④ 国際儀礼（プロトコール）・冠婚葬祭のマナー
第 6 回	ホスピタリティの基本⑤ 外国人・インバウンド（訪日外客）の受入対応のマナー
第 7 回	業界別ホスピタリティの考察① 宿泊業・航空業のホスピタリティ
第 8 回	業界別ホスピタリティの考察② テーマパークのホスピタリティ、 <u>理解度小テスト①</u>
第 9 回	業界別ホスピタリティの考察③ 百貨店・小売業のホスピタリティ
第 10 回	業界別ホスピタリティの考察④ 外食産業のホスピタリティ
第 11 回	業界別ホスピタリティの考察⑤ 無形文化遺産「和食」のホスピタリティ
第 12 回	日本・和 문화のホスピタリティ① 体験授業「浴衣と華道」の事前学習と和 문화の尊重
第 13 回	日本・和 문화のホスピタリティ② 特別講師による「浴衣の着付け・生け花」の体験授業
第 14 回	業界別ホスピタリティの考察⑥ 医療・福祉業界のホスピタリティ
第 15 回	振り返り、 <u>理解度小テスト②</u> 、最終課題レポートの提出

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがある。
- ・外部講師を招いての特別講義を行うことがある。その場合、体験・実習に参加するグループと、それを視聴するグループに分かれる。また、それに伴い実費が発生する場合は、負担することになる。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. ホスピタリティの実践に向けて、その方法を構想、立案することができる。
2. ホスピタリティに溢れた利用すべきサービスやビジネスモデルを客観的に捉えることができる。
3. ホスピタリティの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力 (レポート) (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点 (毎回の授業内課題シートの提出) 50%
- ・理解度小テスト (前半・後半に分けて 2 回実施) 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ホテルビジネス基礎

～宿泊業の実務を知り主要部門の業務が分かる～

富吉 光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

ホテル・旅館を中心とした宿泊サービスとその実務を様々な角度から考察し、基礎となる知識を習得する。今後計画されている外資系5ツ星ホテルの日本開業にも対応可能な基礎知識の向上に役立てる。旅行会社在籍時に取得した「マリオット・ホテルセールス・スペシャリスト」の資格取得者としての経験、動くホテルといわれる大型クルーズ客船に乗務した経験を反映した、成功したビジネス事例・ホテル経営の数々を取り上げて講義する。即戦力として接客業務に従事できる「ホテルビジネス実務検定：ベーシック2級（B2）」の受験対策にも触れた、進路決定の一助となる講義である。

授業計画

授業回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業計画と成績評価の方法の説明、検定試験に対する理解
第2回	宿泊業研究① アパホテル 宿泊特化型戦略の成功、創業者から2代目へ、新たな展開
第3回	宿泊業研究② 星野リゾート 成長の秘密、再生事業と関西戦略
第4回	宿泊業研究③ 外資系ホテルの進出、迎え撃つ日系ホテル
第5回	宿泊業研究④ 新しいタイプホテルの戦略
第6回	宿泊業研究⑤ 富裕層マーケットと日本を代表する5ツ星ホテルの研究
第7回	宿泊業研究⑥ 17の温泉場からなる箱根温泉の特徴ある旅館・リゾートホテルと本学だけの「夏休み・箱根温泉で行う長期インターンシップ」過去の実施状況と効果について
第8回	宿泊業研究⑦ 倒産の危機からV回復した旅館、 <u>理解度小テスト①</u>
第9回	宿泊業界の実務① ホテルの概要・ホテル英語
第10回	宿泊業界の実務② 宿泊部門の業務
第11回	宿泊業界の実務③ 料飲部門の業務
第12回	宿泊業界の実務④ 宴会部門の業務
第13回	宿泊業界の実務⑤ 調理部門の業務
第14回	宿泊業研究⑧ 日本を代表する5ツ星ホテルの研究を外部講師による特別授業で
第15回	振り返り、 <u>理解度小テスト②</u> 、最終課題レポートの提出

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがある。
- ・外部講師の招聘は先方のスケジュールによって、シラバスの調整を行う場合がある。
- ・「ホテルビジネス実務検定」の対策を取り入れた講義も一部含まれますが、検定試験の対策は資格講座（エクステンションセンターで募集するもの）を受講すること。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・フィールドワークや企業訪問を実践する際は、交通費などの実費を負担していただき、安全対策に留意して行う。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. 宿泊業界の知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
2. ホテルビジネスの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
3. ホテルビジネスの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート） (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・教科書名：ホテルビジネス基礎編 ―ベーシックレベル 2 級・1 級準拠―（5,500 円）
- ・著者名：日本ホテル教育センター
- ・出版社名：日本ホテル教育センター
- ・出版年：2021 年

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社の重要なビジネスパートナーであるホテルとの業務上の実務経験に基づき、この授業では、皆さんが家族旅行や修学旅行で利用したことのあるホテルを、お客様としてではなく、サービス・おもてなしを提供する側から学び、この業界の現状や今後の将来性を考えます。外資系ホテルも毎年続々と新規開業し、観光産業の中でも大きなビジネスマーケットを形成しています。なお授業では、ホテルビジネス実務検定試験にも対応できるように講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション 授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	ホテルの歴史（江戸時代から始まる宿泊業の役割と変遷）
第 3 回	日本旅館の歴史（奈良時代から始まる宿泊業の役割と変遷）
第 4 回	ホテルと日本旅館の経営形態の違い
第 5 回	ホテル宿泊部門の組織と業務役割、施設と設備の知識
第 6 回	ホテル料飲（フード&ビバレッジ）部門のサービスと経営
第 7 回	ホテルレストランの業態と役割
第 8 回	ホテル宴会部門の組織と業務役割、サービスと宴会の種類、MICE に関する知識
第 9 回	調理部門の組織と業務内容、各国料理の知識
第 10 回	マーケティング部門の組織と業務役割、マーケティング実務
第 11 回	レベニューマネージメント（収益管理）と各担当者の業務
第 12 回	総務・人事部門、施設管理部門、仕入・購買部門、経理・会計部門の各概要
第 13 回	ラグジュアリーホテルや旅行会社におけるホスピタリティーの事例
第 14 回	西洋料理（フランス料理）の歴史と基本ならびに各国料理について
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いので、特に復習が大事です。

- ・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
- ・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的実施します。

履修上の注意

- ・関連する事（ホテル、レストラン、パーティー、各国料理、食文化、ホスピタリティー）に興味を持って日常的に情報収集（テレビ、雑誌、旅行パンフレット、Web）を心掛けてください。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・「ホテル実務・経営」がどのようなものかを理解して、ホテル関連の仕事に興味を持って就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線でホテルを利用する際に役立てる）
- ・「ホテルビジネス実務検定」の合格を目指し、引き続き資格講座（エクステンションセンター）を受講する。
- ・ホテル関連の知識（ホテルチェーン、各国料理、料理関連の基礎知識など）について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。
- ・「ホテルや旅行業界におけるホスピタリティー」を学ぶことによって、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・知識 ＜宿泊、企画、 経営＞ （40％）	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識 ＜料飲、宴会、 調理＞ （40％）	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
情報収集力 ・探求心 （20％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

取り組み姿勢（40％）、授業内の理解度テスト（40％）、課題レポート（20％）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

旅行の企画・販売など旅行業法関連の資格が必要とされる旅行会社における実務経験に基づき、この授業では旅行業務取扱業者（旅行会社）に関する法律・決まり（旅行業法及びこれに基づく命令）について学びます。旅行会社の特徴は、形の無い商品を扱うことから、特に信用が重視される点を理解してもらいます。旅行会社の業務全般の知識を身につけ、旅行業務取扱管理者資格取得に必要な項目を講義します。なお旅行業法の修得は、自分自身が実際に旅行をする際にも役立ちます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション 授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	旅行業法の目的
第 3 回	用語の定義、登録の可否
第 4 回	登録制度と営業保証金制度
第 5 回	旅行業務取扱管理者と外務員
第 6 回	旅行業務取扱料金、旅行業約款、標識
第 7 回	取引条件の説明、書面の交付、広告、旅程管理
第 8 回	旅行業約款、運送約款及び宿泊約款
第 9 回	受託契約、旅行業者代理業、禁止行為・登録の取り消し等、業務改善命令
第 10 回	旅行業協会、弁済業務保証金
第 11 回	国内旅行実務：JR 運賃・料金、国内航空、貸切バス
第 12 回	国内旅行実務：国内地理
第 13 回	国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）と過去問題研究
第 14 回	旅行業界を取り巻く産業
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予 習 ・ 復 習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いので、特に復習が大事です。

- ・予習：次回以降取り上げるテーマについての予習や情報収集を指示します。
- ・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的の実施します。

履修上の注意

- ・国内の地理、歴史、世界遺産などに興味を持って、普段から情報収集（旅番組、ニュース、雑誌、旅行パンフレット、Web）に取り組んでください。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・「旅行業法及びこれにも基づく命令」の各科目を修得する。
- ・「旅行業務取扱管理者試験（総合、国内）」の合格を目指し、引き続き資格講座（エクステンションセンター）を受講する。
- ・消費者目線で実際に旅行をする際に役立てる。
- ・「国内旅行実務（国内地理、JR、航空）」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識 ＜旅行業法・関連法令＞ （50％）	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識 ＜国内旅行実務：国内地理＞ （25％）	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識 ＜国内旅行実務：JR、航空＞ （25％）	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。

評価方法

授業内の理解度テスト（50%）、取り組み姿勢（40%）、課題レポート（10%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配布します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における多彩な販売・企画業務の実務経験に基づき、この授業では、マーケティングの基本を観光業界の事例に学びながら、どうすれば観光地により多くのお客様を誘客・集客でき、その地域の交流人口を増やすことで、観光消費額の拡大ができるのかを考えていきます。また今まで魅力的な観光素材が無かった地域においても、アイデア次第で観光資源の発掘及び磨きをかける事により、新たな観光素材を創造することが可能であり、地域経済の発展（＝地方創生）に繋がるかを講義します。さらに昨今他業種においても地方創生（地域共創）事業に積極的に取り組む企業が増えており、就活や就職後の業務においても活かせるように講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション 授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	国家的な観光政策と観光マーケティングの変遷
第 3 回	マーケティングにおける分析方法（P・E・S・T分析、S・T・P分析、S・W・O・T分析）ほか
第 4 回	マーケティングにおける分析方法（3C分析、4P・4C分析、サービスマーケティングの7P分析）ほか
第 5 回	観光マーケティングの考え方（観光消費による地域経済への波及効果：好循環のしくみ）
第 6 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（インフラ・ツーリズム）
第 7 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（コンテンツ・ツーリズム）
第 8 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（ヘルス・ツーリズム）
第 9 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム （エコ・ツーリズムとサステイナブル・ツーリズム）
第10回	観光マーケティング事例研究：新しい観光地「道の駅」による地域の活性化
第11回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム （スポーツツーリズムとスポーツホスピタリティビジネス）
第12回	フィルムコミッションとコンベンションビューローの役割とMICEビジネス
第13回	観光マーケティング事例研究：高付加価値なオリジナルイベント実施例
第14回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（YAKEI・ツーリズム）
第15回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いので、特に復習が大事です。

- ・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
- ・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的実施します。

履修上の注意

- ・観光や様々なイベントに興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・「観光が経済に与える影響」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
- ・「地方創生と国の様々な観光政策」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
- ・「ニューツーリズムの種類と役割」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
- ・「観光におけるマーケティング分析の種類と内容」について修得して、説明できるようにする。

ループブック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

取り組み姿勢 (50%)、授業内の理解度テスト (30%)、課題レポート (20%) を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における国内外の企画・提案・販売などの多彩な実務経験に基づき、この授業では実際の旅行会社が国内、海外、訪日旅行のマーケットを対象にどのようなビジネスを行っているのか、具体的な仕事内容を楽しく、面白く学びます。皆さんも旅行会社の社員目線また消費者目線で受講してください。どのように旅行企画商品が作られ、どの様に旅行が実施されるのかなど、現場における実務を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション 授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	観光産業の概要、旅行会社の仕事の内容を知る
第 3 回	旅行会社社員（ホスピタリティー産業）に求められる創造力と企画力、人物像と業務知識
第 4 回	旅行業務知識 ヨーロッパ編①（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 5 回	旅行業務知識 ヨーロッパ編②（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 6 回	旅行業務知識 オセアニア編（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 7 回	旅行業務知識 東南アジア編（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 8 回	旅行業務知識 ハワイ、南太平洋編（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 9 回	旅行業務知識 アメリカ、カナダ編（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 10 回	旅行企画作成（日程表作成：資料収集、テーマ、ストーリー、主なポイントなど）
第 11 回	旅行企画作成（企画をパワーポイントに）
第 12 回	発表 各チーム旅行企画プレゼンテーション
第 13 回	発表 各チーム旅行企画プレゼンテーション
第 14 回	旅行会社、関係諸機関（宿泊業、運輸業等）で使用される業界専門用語などを学ぶ
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いいため、特に復習が大事です。

- ・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
- ・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的実施します。

履修上の注意

- ・旅行に関連する様々な事（名勝、史跡、歴史、文化、芸術、世界遺産、地理、ホテル、食）などに興味を持って情報収集（旅番組、ニュース、雑誌、旅行パンフレット、Web）を心掛けてください。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・「旅行実務」がどのようなものかを理解して、観光関連の仕事に興味を持って就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線で旅行をする際に役立てる）
- ・「観光知識（地理、歴史、文化、芸術、食、世界遺産、ホテルなど）」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。
- ・「旅行企画書の作成」を通して企画力、情報収集力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を身に付けて、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

旅行企画書の作成及びプレゼンテーション（30%）取り組み姿勢（30%）、授業内の理解度テスト（20%）、課題レポート（20%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

最先端のテクノロジー、様々な関連業務、高いホスピタリティの複合体である「エアラインビジネス」の基礎知識を多角的・多面的に履修する。空港マネジメント・旅行会社とも密接につながっており、さらにAIとの親和性も高いため、広く観光産業を学ぶ導線と位置付け航空ビジネス全体を捉える。講師のカンタス航空グループに在籍した実務経験を反映した現場感覚を中心とした講義により、社会人としての一般常識、就活アドバイスを含んだ幅広い航空業界の基礎を学ぶ。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画と成績評価の方法の説明、エアラインビジネスとは
第 2 回	航空業界と航空自由化の歴史
第 3 回	国内航空ビジネス① JALの歴史、コロナ前のポジション
第 4 回	国内航空ビジネス② JALのコロナ後の事業戦略
第 5 回	国内航空ビジネス③ ANAの歴史、コロナ前のポジション
第 6 回	国内航空ビジネス④ ANAのコロナ後の事業戦略
第 7 回	国内航空ビジネス⑤ MCC・LCCのビジネスモデル
第 8 回	国内航空ビジネス⑥ ビジネスジェットのビジネスモデル、 <u>理解度小テスト①</u>
第 9 回	エアラインビジネスの業務知識① AIと運賃、エアラインプロダクト
第10回	エアラインビジネスの業務知識② CRS（予約システム）、マイレージサービス
第11回	エアラインビジネスの業務知識③ 各種コード、エアライン専門用語、和製英語
第12回	外航キャリア研究① アメリカ・ヨーロッパ（欧米）主要キャリアの特徴
第13回	外航キャリア研究② アジア・オセアニア（豪亜）主要キャリアの特徴
第14回	空港ビジネスと進化する空港の様々なサービス
第15回	振り返り、 <u>理解度小テスト②</u> 、最終課題レポートの提出

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがある。
- ・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
- ・フィールドワークを実践する際は、交通費などの実費を負担していただき、安全対策に留意して行う。
- ・後期選択科目「エアラインホスピタリティ」と一緒に受講することが望ましい。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. エアラインの知識を身に付け、それに基づいたビジネスの問題点や課題を指摘することができる。
2. エアラインビジネスの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
3. エアラインビジネスの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート） (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する

エアラインホスピタリティ

～洗練されたエアラインのホスピタリティが役に立つ～

富吉 光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

エアラインの使命は、『お客様を「安全」で「快適」に、そして「スケジュールどおり(定時運航)」に目的地にお連れすること』であり、その実現のためにチームとして部門毎に様々な業務を担っている。それはサービスの点においていくつかのグレードを準備し、お客様に選択肢を与えつつ、それぞれに応じた洗練されたホスピタリティとともに提供するものである。本講義では、講師のカンタス航空グループに在籍した豊富な実務経験を踏まえ、エアラインをホスピタリティの観点から掘り下げるとともに、求められるエアラインホスピタリティとは何か、を解き明かす講義とする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画と成績評価方法、エアラインホスピタリティとは
第 2 回	部門別ホスピタリティ① 機内プロダクトの違いによるホスピタリティ
第 3 回	部門別ホスピタリティ② グランドスタッフ (GS) のホスピタリティ
第 4 回	部門別ホスピタリティ③ キャビンアテンダント (CA) のホスピタリティ
第 5 回	部門別ホスピタリティ④ グランドハンドリングのホスピタリティと安全の担保
第 6 回	部門別ホスピタリティ⑤ 最新の空港サービスによるホスピタリティ
第 7 回	エアライン別ホスピタリティ① JALフィロソフィー
第 8 回	エアライン別ホスピタリティ② 顧客満足度で復活したスカイマーク、 <u>理解度小テスト①</u>
第 9 回	エアライン別ホスピタリティ③ スターフライヤーのCX戦略
第10回	エアライン別ホスピタリティ④ 外部講師による特別授業「接遇とおもてなし」
第11回	エアライン別ホスピタリティ⑤ 外資系キャリアのホスピタリティ
第12回	空港のホスピタリティ① 世界の空港ランキングと人気空港のホスピタリティ
第13回	空港のホスピタリティ② 世界と戦う羽田・成田のこれから
第14回	エアラインの環境保護対策と持続可能な航空燃料 (SAF) のホスピタリティ
第15回	振り返り、 <u>理解度小テスト②</u> 、最終課題レポートの提出

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがある。
- ・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることがある。
- ・フィールドワークを実践する際は、交通費などの実費を負担していただき、安全対策に留意して行う。
- ・前期選択科目「エアラインビジネス」と一緒に受講することが望ましい。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. エアラインに関するホスピタリティの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
2. エアラインホスピタリティの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
3. エアラインホスピタリティの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート） (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

観光の中で移動に関わる各交通運輸機関の機能、役割、特性を講義する。観光交通ビジネスにおける様々な移動手段は、幾多の歴史を経て、旅行形態の多様化や AI・IoT の進歩との高い親和性により、観光産業の重要な一部として進化し続けている。一方で地球温暖化防止はこれからの交通輸送とは切っても切れない重要な課題である。持続可能な観光産業のために交通運輸機関のテクノロジーの進歩と人との関わりを講義し、さらに本学の特徴である自然環境保護と観光促進との関係性にも知見を広げていく。講師の航空業界・旅行業界に在籍した実務経験に基づく講義は、新しい気づきと学びが溢れたものとなっている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画と成績評価の方法の説明 環境保護と交通の関係性
第 2 回	観光と交通の係わりと歴史
第 3 回	観光交通の実例① 鉄道ビジネス① 鉄道の歴史とコロナ後のビジネスモデル
第 4 回	観光交通の実例② 鉄道ビジネス② 脱輸送ビジネスと交通を活用 エキナカビジネス
第 5 回	観光交通の実例③ モータリゼーション① CO2削減がもたらす自動車の歴史的変革
第 6 回	観光交通の実例④ モータリゼーション② EV・世界と日本の各メーカーの方向性
第 7 回	観光交通の実例⑤ カンタスグループに在籍した経験を踏まえた航空ビジネス① FSC・高度化するサービスと各社の差別化
第 8 回	観光交通の実例⑥ カンタスグループに在籍した経験を踏まえた航空ビジネス② MCC・LCC、理解度小テスト①
第 9 回	テーマ別考察① コロナ後の観光交通・外部講師を招いた特別授業
第10回	テーマ別考察② 空飛ぶクルマの時代
第11回	テーマ別考察③ 世界初の「Ma a S」アプリが変えたもの
第12回	テーマ別考察④ クルーズ旅行、フライ&クルーズ
第13回	テーマ別考察⑤ 見えてきた宇宙旅行
第14回	テーマ別考察⑥ 持続可能な交通とは、海外主要都市の事例
第15回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に望むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがある。
- ・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
- ・フィールドワークを実践する際は、交通費などの実費を負担していただき、安全対策に留意して行う。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと連動する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない

到達目標

1. 観光交通の知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
2. 観光に与える交通の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
3. 観光交通の現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート） (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出） 60%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 20%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における、関連省庁や自治体との実務経験に基づき、観光が経済に与える影響が極めて大きい事を理解して、観光政策が今後の日本経済（地方創生における地域の発展）に重要な役割を果たすことを講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション 授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	日本の観光産業と変遷
第 3 回	日本の観光政策の概要と基本的な視点
第 4 回	国土交通省の観光政策①〔観光庁：アクションプログラム〕
第 5 回	国土交通省の観光政策②〔観光庁：観光地域づくり〕
第 6 回	国土交通省の観光政策③〔観光庁：国際観光〕
第 7 回	国土交通省の観光政策④〔港湾局、道路局、総合政策局：クルーズ振興ほか〕
第 8 回	理解度小テストの実施、課題レポートの提出
第 9 回	関係省庁の観光政策①〔内閣府、復興庁〕
第 10 回	関係省庁の観光政策③〔農林水産省、経済産業省〕
第 11 回	関係省庁の観光政策②〔外務省、文部科学省、環境省〕
第 12 回	自治体の観光政策〔各都道府県観光協会、DMO、コンベンションビューロー〕
第 13 回	海外の観光政策①〔アメリカ、ヨーロッパ、ほか〕
第 14 回	海外の観光政策②〔東南アジア、オセアニア、ほか〕
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いとため、特に復習が大事です。

- ・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
- ・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的実施します。

履修上の注意

- ・観光に関する様々な分野（航空、クルーズ、鉄道、宿泊、インバウンド、地方創生、環境）に興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
- ・授業の内容や順番は変更になる場合があります。
- ・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。なお遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到達目標

- ・「各省庁の観光関連の政策」を理解して、概略を説明できるようにする。
- ・「観光政策と地方創生（経済に与える影響）」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
- ・「観光政策と環境に与える影響」について学び、課題に対して情報収集・提案できるようにする

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解・知識 (40%)	授業内容を十分に理解しており知識も身につけている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力 (40%)	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができています。	課題に対して期待通りの提案が出来る。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができています。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心 (20%)	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取り組みができています。	情報収集が十分にできています。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできています。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

取り組み姿勢 (50%)、授業内の理解度テスト (30%)、課題レポート (20%) を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	前期	2	選択	専門科目選択

授 業 概 要

本授業では、人生では欠かせない通過儀礼の一つである「結婚」についての基礎知識を学び、人生における「結婚」について考え、「結婚式」を提供するウェディングプランナーの業務内容の基礎について学びます。

ウェディングプランナーになる上では基礎技術の習得はもちろん必要ですが、「結婚」「結婚式」に対する自分の意見をしっかりと持ち、ともに結婚式を作っていくというスタンスがなによりも重要です。本授業では実際の結婚式の第一線の事例を学ぶ中でウェディングプランナーとしてのスタンスを学ぶことを予定しています。

また、昨今結婚や結婚式を取り巻く環境は大きく変化しており、「結婚」「結婚式」について知るだけでなく、恋愛、婚活から結婚、結婚式、さらには出産育児、家族についても知ることが重要になっています。結婚式自体も時代に合わせ変化しており、それに合わせてウェディングプランナーの仕事の幅も増えています。本授業では前半で「結婚」「結婚式」「ウェディングプランナー」について学び、後半では全国からプランニングの事例が集まるコンテストである「GoodWeddingAward」に参加し、最新の結婚式の事例、最先端を走るウェディングプランナーのスキル・スタンスを間近で体験することを予定しています。また、授業内ではゲストとして第一線で活躍するウェディングプランナーを招致し、実際の現場での話を聞く中でウェディングプランナーに求められる力を身につけることを予定しています。ワーク等は適宜サポートの教員が対応することを予定しています。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス。結婚式の変化と現状について考える
第 2 回	結婚式の時代の変化、結婚・結婚式の歴史について考える
第 3 回	カスタマーの変化と「結婚式」の現状について知る
第 4 回	ライフデザイン講座と人生における結婚のあり方を考える
第 5 回	結婚式ビジネスを考える。マーケティングを学ぶ
第 6 回	プランニング事例からプランナーの仕事を考える
第 7 回	実際のウェディングプランナーより、プランナーの介在価値をリアルに学ぶ
第 8 回	実際のウェディングプランナーを通し、プランナーのスキルとスタンスを理解する
第 9 回	ウェディングプランナーの 3 大業務（新規接客・打ち合わせ・当日の施行业務）を学ぶ
第 10 回	ウェディングプランナーの 3 大業務（新規接客・打ち合わせ・当日の施行业務）を学ぶ
第 11 回	ウェディングプランニングの全国規模のコンテストである「Good Wedding Award」に参加。最先端の結婚式における結婚式のプランニングの内容、困難を乗り越える力とプランニングに向かう姿勢を学ぶ
第 12 回	「Good Wedding Award」に参加。結婚式のプランニングの内容を学ぶ
第 13 回	「Good Wedding Award」に参加。結婚式のプランニングの内容を学ぶ
第 14 回	「Good Wedding Award」に参加。結婚式のプランニングの内容を学ぶ
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

予習復習については、授業内で指示します。

履修上の注意

授業内容は表記の通りではありますが、一部変更になることがあります。

到達目標

ウェディングプランナーの業務を理解し、今後の日本における結婚や結婚式のありかたについての自分なりの意見を持ってもらうことを到達目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
レポート・成果物 (30%)	他人に気づきを与えるような記述・発表をすることができる。	論理が通った記述・発表をすることができる。	不足する点があるが、十分な記述・発表をすることができる。	最低限の内容について記述・発表をすることができる。	記述・発表をすることができない。
授業参加・積極性 (70%)	常に授業に出席し、積極的に発言してグループワークでも周りを巻き込みながら参加している。	やむを得ない事情により一部欠席はあるが、授業では積極的に発言してグループワークにも適切に参加している。	やむを得ない事情により一部欠席はあるが、授業では適切に発言し、グループワークにも参加している。	欠席が複数回あり、発言やグループワークへの参加は不十分なところがある。	欠席が目立ち、授業へ参加しようという意思が見られない。

評価方法

講義内で提出するレポート・成果物 (70%)
受講態度 学習・討論への参加の積極性 (30%)

テキスト

必要があれば、その都度資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目選択

授 業 概 要

ブライダルビジネスⅠで「結婚」「結婚式」「ウェディングプランナー」とはを学んだ上で、本授業では現在のブライダル業界の課題を学び、それがなぜ起きているのか等を理解した上で、解決の方向性をワーク形式で考えていくことを予定しています。ワーク等は適宜サポートの教員が行うことを予定しています。本授業では、「恋愛」「婚活」「出会い方の変化」「結婚観」「30年間の時代の変化」などの結婚式前の新郎・新婦を理解するための基礎知識、「結婚式の中身の変化」「結婚式業界の変化」「結婚式がもたらす影響の変化」「夫婦関係の変化」「出産育児」などの結婚式及び結婚式後の基礎知識を習得し、起きている事実を捉えながら業界の課題を特定、そこに対する打ち手を導出することを予定しています。

業界課題例は以下を想定しています。

- ①現在「結婚式」を行わない「なし婚」という結婚の形態を取る夫婦が増えていることが業界の課題となっています。本授業ではどうして「なし婚」を選ぶ夫婦が増えているのかを考え、この課題をどのように解決をしていくのかを考えていくことを予定しています。
- ② ウェディングプランナーは夫婦の一生に一度の晴れ舞台に携わることができる非常にやりがいがある仕事ですが、その一方で退職や転職が多いことも事実です。本授業では今後の人生における「結婚」「結婚式」の意味を再度考えると同時に、ウェディングプランナーとしてどうすれば生き生きと長く働いていくことができるのか？を考えることを予定しています。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス。現在の結婚式の周囲を取り巻く環境を知る
第 2 回	ウェディングプランナーの事例を元に、ウェディングプランニングの考え方を学ぶ
第 3 回	結婚式ビジネスについて考える
第 4 回	ものの見方、捉え方を考える
第 5 回	結婚式場見学に向けたグループワーク
第 6 回	結婚式場見学に向けたグループワーク
第 7 回	結婚式場見学
第 8 回	結婚式場見学
第 9 回	結婚式場見学の振り返り
第10回	「ゼクシィ結婚トレンド調査 2023」で業界理解を深める
第11回	グループワーク テーマ「なし婚解決へ向けた業界としてすべきこと」Ⅰ
第12回	グループワーク テーマ「なし婚解決へ向けた業界としてすべきこと」Ⅱ
第13回	グループワーク テーマ「なし婚解決へ向けた業界としてすべきこと」Ⅲ
第14回	グループワーク テーマ「なし婚解決へ向けた業界としてすべきこと」Ⅳ
第15回	振り返りを行い、今後のブライダル業界について考える

予 習 ・ 復 習

予習復習については、授業内で指示します。

履修上の注意

授業内容は表の通りではありますが、一部変更になることがあります。
前期のブライダルビジネスⅠを履修していることが望ましいです。

到達目標

現在のブライダル業界、ウェディングプランナーの働き方を理解した上で、今後10年、20年にわたっての業界の展望に対し、自分なりの意見を持ってもらうことを到達目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
レポート・成果物 (30%)	他人に気づきを与えるような記述・発表をすることができる。	論理が通った記述・発表をすることができる。	不足する点があるが、十分な記述・発表をすることができる。	最低限の内容について記述・発表をすることができる。	記述・発表をすることができない。
授業参加・積極性 (70%)	常に授業に出席し、積極的に発言してグループワークでも周りを巻き込みながら参加している。	やむを得ない事情により一部欠席はあるが、授業では積極的に発言してグループワークにも適切に参加している。	やむを得ない事情により一部欠席はあるが、授業では適切に発言し、グループワークにも参加している。	欠席が複数回あり、発言やグループワークへの参加は不十分なところがある。	欠席が目立ち、授業へ参加しようという意思が見られない。

評価方法

講義内で提出するレポート・成果物 (70%)
受講態度 学習・討論への参加の積極性 (30%)

テキスト

必要があれば、その都度資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

近年の日本のアニメや漫画は独創性・クオリティが評価され、“クール・ジャパン”と呼ばれ、国内のみならず海外でも高い人気を誇っています。産業・科学・教育・芸術など様々な分野にわたって詳細に描かれているこれら作品群のなかには、利害が複雑に絡み合う現代社会のうつし鏡ともいえる良質な作品を見つけることができます。そのなかでも特に環境問題を考えるのに適した作品を選定し、細部を注意深く読み解くことで、厳しくも温かい人と自然との共生社会の世界への扉を、あるいは複雑怪奇な環境問題への扉を開くような講義を行ないます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	アニメで描かれる自然 1 『ピーターラビット』で描かれる動物観
第 3 回	アニメで描かれる自然 2 『鬼滅の刃』で描かれる自然の緻密さと誤り
第 4 回	アニメで描かれる自然 3 『ゴールデン・カムイ』で描かれる自然の緻密さと誤り
第 5 回	アニメで描かれる自然 4 『ゴールデン・カムイ』で描かれる自然の緻密さと誤り
第 6 回	アイヌ文化とマタギ文化の違い 「クマ送りの儀式」にみられる文化の類似・相違点
第 7 回	日本人の自然観 1 『もののけ姫』の世界観を分析する
第 8 回	日本人の自然観 2 『もののけ姫』の世界観を分析する
第 9 回	未来の地球のゆくえ 1 『風の谷のナウシカ』の世界観を分析する
第10回	未来の地球のゆくえ 2 『風の谷のナウシカ』の世界観を分析する
第11回	地球温暖化の真実 『不都合な真実』のアニメーションと温暖化の現状
第12回	ノラネコとノネコ 奄美大島で進められているネコの大量殺処分計画
第13回	環境を題材にしたアニメや漫画は現状を伝えられているのか？ YouTube 動画で見られる環境系動画の分析
第14回	科学の進歩と環境問題 1 環境問題は科学で解決できるのか？
第15回	科学の進歩と環境問題 2 ドラえもんは「何世紀」から来ていたのか？想定された未来と現在との矛盾

予習・復習

- ・予習：次の講義で扱うテーマのチェックをしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をすることもあります。
- ・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう場合があります。

履修上の注意

本講義を履修したのは、環境問題への理解をより深めることができる『自然科学』や『環境論』を履修することを是非お勧めします。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到達目標

講義の目的は、①アニメや漫画で描かれる虚実を通じて、現実的に起こっている「環境問題」への興味・関心へとつなげ、自身を取り巻く自然や社会が密接につながっていることを実感できるようになること、②アニメや漫画をきっかけに知的好奇心を刺激し、新書や文庫へ、さらにその先の専門的な書籍へと関心を広げてもらうといった「学問的探究心の向上」、にあります。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解力 (30%)	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ 100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力 (40%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テスト 30%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

動物愛護団体は東日本大震災を境に飛躍的に増加し、動物愛護活動が盛んに行われているが問題点を指摘される団体もある。また、2019年の動物愛護法改正で飼養施設基準など数値規制を取り入れた内容が加わった。動物たちが置かれている状況は徐々に改善していると言えるが、当然整備されているとされている事が手つかずであったり、一般の認識と異なることも多々見られる。本講義では、動物たちを取り巻く現状を紐解き、動物の好き嫌いに関わらず全ての人に関係する社会的問題として理解すること目的に講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、履修上の注意）：動物愛護協会について
第 2 回	動物を取り巻く環境：法律で区分されている動物種を知る
第 3 回	なぜノラ猫がいるのか？：猫の歴史、TNR・地域猫活動について
第 4 回	犬・猫の多頭飼育：多頭飼育崩壊とは？プロセスと現在の解決方法
第 5 回	巨大化したペット産業①：犬猫の流通、遺伝性疾患、動物取扱業の法規制
第 6 回	巨大化したペット産業②：犬猫以外の動物たちの取扱い
第 7 回	犬猫殺処分ゼロ：スローガンと現実のギャップ、しつけ、飼育者の問題
第 8 回	展示動物とは？：動物園の問題とエンリッチメントについて
第 9 回	動物輸入大国ニッポン：外来生物問題の拡大放置の歴史と外来生物法
第 10 回	家畜の福祉とは？：日本の畜産業の現状とアニマルウェルフェア
第 11 回	実験動物の福祉とは？：動物実験の歴史と現状
第 12 回	動物虐待と法規制：動物虐待とは何か、動物愛護法改正と動物法医学の必要性
第 13 回	海外の動物福祉：動物愛護先進国の歴史と考え方
第 14 回	動物愛護と動物福祉：動物愛護団体の変遷、客観的な視点と想像力の重要性
第 15 回	動物愛護法の改正と今後：法改正の規制範囲と飼育者責任等について

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次回講義に関する課題を出し、講義前にレポート記載してから講義を受けていただきます。
- ・復習：前回の講義内容から2～3問の小テストを行います。

履修上の注意

- ・コロナ感染での制限がなければ、授業中にワークショップを取り入れたいと思います。
- ・「動物愛護」は後期科目の「生命の尊重」と密接につながっています。重いテーマに感じられるかもしれませんが、現状を知らなければ関心を持つことも考えることもできません。まず知ること大いに視野を広げて頂きたいと思います。
- ・20分以上の遅刻は欠席とします（但し、交通機関の遅延や通院等の証明がある場合を除く）。

到達目標

- ・動物の問題は動物の好き嫌いに関わらず、社会に組み込まれて起きている事を理解していただくこと。
- ・単に「可愛い」「可哀そう」などの表面的な視点ではなく、何故この状態があるのかに疑問を感じ、原因や関係性に興味を持って考えていただくこと。
- ・疑問を感じた時に放置せず調べ、考えるようにすることを身につけていただくことも目標です。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (30%)	授業内容を超えた自主的な学修ができている	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容を8割程度理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容が理解できていない
多角的視野 (30%)	客観的な複数の視点で物事を論理的に捉えた上で自分の意見を明確に述べている	客観的な視点と自分の意見を論理的に述べている	客観的な視点と自分の意見を述べているが論理性に欠ける	客観的に見る努力は感じられるが論理性に欠ける	偏った立場から自分の意見を展開している
考察力と説明する力 (40%)	課題に関する情報収集と考察に加え自分の意見や疑問を明瞭に表現できている	課題に関して考察した自分の意見や疑問を明瞭に表現できている	課題に関して考察した自分の意見や疑問の表現がやや不明瞭	課題に関して考察した自分の意見や疑問の表現が不明瞭	課題に関する考察や意見が表現されていない

評価方法

授業内レポート及び小テスト 60%、学期末レポート 30%、受講態度 10%

テキスト

資料配付

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

効率や経済性ばかりが重視されて、「いのち」が見えづらくなっている社会の中、生きづらさを感じることも多いのではないのでしょうか。本講義では、①「いのち」の概念を倫理・科学・アートなど様々な視点から捉えること ②社会的弱者の抱える問題、現代社会システムの矛盾などを知ること ③自らの思考や体験、あるいはグループセッション等を通して、「生命の尊厳」と向き合うことを目標とし講義します。可能な限り、個々の発言や質問を尊重します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（当講義の概要）～「いのちとはなんだろう？」（地球の生命史等）
第 2 回	動物から学ぶいのち：ペットから野生動物、畜産動物等の現状と課題を考える。
第 3 回	植物から学ぶいのち：雑草から森林、田畑の作物等、植物たちの「生き様」を知る。
第 4 回	農業と関わるいのち：若者の新規就農や移住、さらに有機農業等について知る。
第 5 回	温泉という「いのちの泉」：温泉の種類や効能、さらに温泉に関する資格等を学ぶ。
第 6 回	昔話におけるいのち：昔話、妖怪、民俗学、アイヌ等の先住民の世界観等を知る。
第 7 回	エシカル消費といのち：生活の中で私達ができる倫理的な消費活動について考える。
第 8 回	野宿・路上生活といのち：ホームレス状態にある人や動物の現状や課題を知る。
第 9 回	若者や女性の貧困問題を考える：ゲストスピーカー（雨宮処凛氏）による講義。
第10回	負のベクトルをなくすために：いじめ、ハラスメント、DV 等について考える。
第11回	心のセルフケア：ワークショップ（臨床心理士チームと ZOOM セッション）等。
第12回	二利（自利・利他）を生きる：ゲストスピーカー（玉置妙憂氏）による講義。
第13回	多様性を生きる①：人間社会における多様性（ジェンダー等）、生物多様性を考える。
第14回	多様性を生きる②：日本と朝鮮半島の文化交流の歴史等を知る（韓国打楽器演奏あり）。
第15回	総括～いのちのにぎわい&共に生きるということ

予 習 ・ 復 習

予習・復習については、授業のなかで提示するようにします。講義ごとに、レポート（意見・感想・質問等含む）を必ず提出していただきます。レポートについては、次の講義の際に取り上げ（匿名）、口頭でコメントをいたします。

履修上の注意

「なぜだろう、どうしてだろう？」という気持ちを常に大事にしてください。質問があれば、講義中でも講義後でも（メールでも）遠慮なくどうぞ！なお、ゲストスピーカーの講義については、都合により講義の順番が替わる可能性があることをご承知ください。

なお、15分以上の遅刻ならびに私語については、成績評価において減点対象となります。ご注意ください。

到達目標

現代社会において、「自ら生き延びる」ことが重要視される中で、他の生命（動植物、他者であるヒト）の存在を認め、多様性を尊び、個々の存在意義（レーゾンデートル）を考え、ゆるやかで体温のある「共生」について考えていく等、卒後の「長く続く人生」を見据えた生命観・世界観を培う一端になればと願います。

本講義で学び考えたことが、就職や進学等あらゆる分野とどのように関わり、つながっていくのかを理解し、今後の生き方を考えてもらうことができれば幸いです。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (40%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力 (30%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート） (30%)	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

講義ごとの提出レポート 80%

講義内での発表その他 20%

テキスト

講義のたびに、作成スライド（パワーポイント）や参考資料を印刷して、その都度お渡しいたします。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

ソーシャルメディアとは、個人や企業が情報を発信・共有することによって形成されるインターネットサービスです。本授業では、ソーシャルメディアの起源、ビジネスにおけるソーシャルメディアの活用について概観し、LINE、Twitter、Instagramなどの代表的な企業サービスの現状とそのビジネスモデルについて体系的に講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	ソーシャルメディアの源流
第 3 回	ユーザーサイトの起業ブームとインターネット広告
第 4 回	ソーシャルゲームの誕生と課金モデル
第 5 回	スマホの普及とソーシャルメディアの隆盛
第 6 回	ソーシャルメディアのプラットフォーム化
第 7 回	ビジネスにおけるソーシャルメディアの利活用と課題
第 8 回	中間まとめ（課題提出あり）
第 9 回	ケーススタディ（1）LINEの現状とビジネスモデル
第10回	ケーススタディ（2）Twitterの現状とビジネスモデル
第11回	ケーススタディ（3）Instagramの現状とビジネスモデル
第12回	ケーススタディ（4）Facebookの現状とビジネスモデル
第13回	ケーススタディ（5）YouTubeの現状のビジネスモデル
第14回	ケーススタディ（6）TikTokの現状とビジネスモデル
第15回	期末まとめ（課題提出あり）

予 習 ・ 復 習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜に予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配布プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本授業は、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本授業は、受講生の皆さんが（1）ソーシャルメディアのビジネスモデルと最新の企業事例にかかわる専門知識を修得し、（2）チームメンバーと協力して関連の企業事例を調査でき、（3）自分の言葉でその内容を表現できるようになることを目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (35%)	学習内容を理解した上で、他の分野にも応用できるか常に考えている。	学習内容だけでなくその限界を深く理解している。	学習内容を理解している。	学習内容について最低限の理解をしている。	学習内容についての理解ができていない。
応用力 (20%)	自ら積極的に学習を進め、それを社会の発展に活用しようと考えている。	学習内容を強みとして自らの就職や進学などで活用することを考えている。	学習内容の利活用場面を見出すことを考えている。	単位の取得のみ考えている。	受講の意義について考えていない。
グループワーク (45%)	積極的にグループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、多少不足がある。	グループワークに取り組む積極性は最低限である。	グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

期末試験の成績：55%（基礎力：35%＋応用力：20%）

グループワークの参加とフィードバックシートの提出：45%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配布します。

テーマパーク論

～ワクワクが止まらない、テーマパークを知り尽くす～

富吉 光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

持続可能な観光産業の育成において旅行消費額を増加させるには、「モノ」消費から「コト」消費へのシフトが重要である。エンターテインメント分野の中で身近で人気のあるテーマパークをマネジメントの観点から深く考察することで「コト」消費の促進へとつなげることが可能となる。成功と失敗を繰り返してきた歴史、成長しているテーマパークと運営企業の戦略ポイントを始めとした産業を、講師の旅行会社在籍時に業務により各テーマパークに視察入場し集客や販売企画立案を行った実務経験を交えた分かりやすいテーマパーク論を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 授業計画と成績評価の方法の説明、テーマパークとは
第 2 回	世界・日本のテーマパーク産業の成り立ちと発展の歴史
第 3 回	東京ディズニーリゾート（TDR）の考察① 誘致のドラマに学びがいっぱい
第 4 回	TDR の考察② 非日常空間と独自の世界観
第 5 回	TDR の考察③ コロナ後の戦略と新たな投資
第 6 回	ユニバーサルスタジオジャパン（USJ）の考察① 誘致～開園までの歴史
第 7 回	USJ の考察② オープン後の不祥事と V 字回復請負人の超人的戦略
第 8 回	USJ の考察③ USJ モデルを世界へ、ライセンスビジネス・沖縄が熱い
第 9 回	ハウステンボス（HTB）の考察① 倒産からカリスマ経営者による再生
第 10 回	HTB の考察② V 字回復を実現した数々のアイデアと今後の、戦略
第 11 回	サンリオピューロランドの考察 女性社長の改革が奇跡の V 字回復を生む
第 12 回	その他のテーマパーク① ジブリパーク
第 13 回	その他のテーマパーク② メイキング・オブ・ハリーポッター
第 14 回	その他のテーマパーク③ 世界が注目する日本のエンターテインメントの今後
第 15 回	振り返り、理解度小テストの実施、最終課題レポートの提出

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがある。
- ・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることがある。
- ・フィールドワークを実践する際は、交通費などの実費を負担していただき、安全対策に留意して行う。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到達目標

1. テーマパークの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
2. テーマパーク運営の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
3. テーマパークの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50%)	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート） (20%)	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

生活習慣病が死因の上位を占める中、毎日のライフスタイルそのものが病気の原因や予防に深く関わっていることが次第に明らかにされつつある。急成長する健康ビジネスの実態について講義し、良質な健康ビジネスの発展は、世界中の人々を健康に導くことができることについても理解を深められるよう講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	健康ビジネスとは？
第 2 回	ヘルスプロモーション、プライマリ・ヘルスケア、健康増進法
第 3 回	セルフケア、セルフメディケーション時代への突入
第 4 回	五感に働きかける健康ビジネス
第 5 回	衣・食・住のすべてに関連する健康ビジネス
第 6 回	食、運動、休養・睡眠
第 7 回	人間関係と健康ビジネスーストレス・コーピング
第 8 回	フード・ビジネス①和食のグローバル化、メディカル・ハーブ
第 9 回	フード・ビジネス②トクホと栄養機能食品、サプリメント
第10回	フィットネスビジネス
第11回	ヒーリング・ビジネス、リラクゼーション・ビジネス
第12回	アミューズメント・レクリエーションビジネス
第13回	生活関連（日用品・衛生用品）、フレイル予防ビジネス
第14回	アンチエイジング・ビジネス、
第15回	グローバル・ヘルス・ビジネスー健康ビジネスの未来

予 習 ・ 復 習

- ・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を1時間程度毎回行うこと。
- ・復習：授業での実施内容について、1時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到達目標

1. 健康ビジネスの対象について理解できる。
2. 健康ビジネスの種類と内容について説明できる。
3. 健康ビジネスの必要性について理解できる。
4. 人々の健康に必要な要素について説明できる。
5. 時代のニーズに合った新たな健康ビジネスを創造することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (50 %)	深い理解に基づ き自身の言葉で 置き換えて表現 できる。	ほぼ 100%理解 している。	理解はしている が、十分ではな い。	あまり理解して いない。	理解できていな い。
説明する力 (30 %)	具体的な例も取 り上げ、きちん と説明できる。	ほぼ 100%説明 することができ る。	説明はできる が、内容は十分 ではない。	やや不十分であ る。	説明できない。
創造する力 (20 %)	独創的に創造す ることができ る。	ほぼ 100%創造 することができ る。	創造することは できるが、不十 分である。	十分に創造する ことができな い。	創造できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

- ・教科書名：グローバル・ヘルス・ビジネス
- ・著 者 名：一戸 真子
- ・出版社名：日本経済評論社
- ・出 版 年（ISBN）：2018 年（978 - 4818824911）

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

本講義では、プロスポーツクラブ、スポーツ NPO、スポーツ用品メーカー、フィットネスクラブ、スポーツ小売店、スポーツイベント会社など、スポーツを「事業」として行う活動の総称である「スポーツマネジメント」について講義する。具体的には、「事業」としてのスポーツの特性のみならず、事業としてスポーツを取り扱う組織の経営活動や管理方法について、実際の企業や組織の経営活動を事例に挙げながら講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	スポーツマネジメントとは何かを理解する。
第 2 回	東北楽天ゴールデンイーグルスの事例からスポーツマネジメントの基本原則を理解する。
第 3 回	アシックスの事例からスポーツ企業の経営戦略について理解する。
第 4 回	アルビレックス新潟の事例からスポーツ企業のマーケティングについて理解する。
第 5 回	スポーツ企業の事例からスポーツ企業の組織構造について理解する。
第 6 回	北海道日本ハムファイターズの事例からスポーツ組織のミクロ組織的側面について理解する。
第 7 回	大松博文と岩出雅之の事例からスポーツ組織のリーダーシップについて理解する。
第 8 回	アシックスの事例からスポーツ企業の国際経営について理解する。
第 9 回	マンチェスター・ユナイテッドの事例からスポーツ企業の多角化について理解する。
第 10 回	水野利八の事例からスポーツ企業の経営者に求められる企業家精神について理解する。
第 11 回	カーブスの事例からスポーツ企業におけるイノベーションについて理解する。
第 12 回	ビジネスとしての日本プロ野球（NPB）の特徴、現状、課題について理解する。
第 13 回	ビジネスとしての Jリーグの特徴、現状、課題について理解する。
第 14 回	ニッポンランナーズの事例からスポーツ NPO のマネジメントの特徴について理解する。
第 15 回	IOC を事例としてスポーツイベントのマネジメントの特徴について理解する。

予 習 ・ 復 習

- ・予習：教科書の該当箇所を読み込んで、疑問点を整理しておくこと。
- ・復習：教科書の該当箇所を読むこと。講義中配付したプリントやノートを読み返すこと。

履修上の注意

スポーツに関するニュースだけでなく、経済・経営に関するニュースにも関心を持つこと。

到達目標

- ・「スポーツマネジメント」とは何か、自分の言葉で説明できるようになること。
- ・スポーツ企業・組織の経営事例を、理論を用いながら説明できるようになること。
- ・スポーツマネジメント現象を分析するためのフレームワークを獲得すること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
授業の理解度 (50%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ完全に理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力 (30%)	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりの解決策を考え、報告書を作成し、人前でプレゼンすることができる。	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりの解決策を考えることができる。	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりにではあるが現状分析ができる。	自分が関心のあるスポーツについてはビジネス的な側面について自分なりに現状分析ができる。	スポーツビジネスが抱える問題について関心が無く、全く考えることができない。
論理的な文章作成能力 (20%)	スポーツビジネスの実務家及び研究者に対して提言性と論理性の高い内容のレポートを作成することができる。	論理性を有し、スポーツビジネスの実務家及び研究者に対し、多少の提言性のあるレポートを作成することができる。	不足する部分があるが論理性を備えたレポートを作成することができる。	不足する部分はあるが、自分の言いたいことは読み手に最低限伝えることができる文章を作成できる。	内容について自分でも理解できておらず、読み手にも伝えることができない。

評価方法

- ・授業内課題 90%
- ・レポート 10%

テキスト

- ・教科書名：スポーツ経営学入門—理論とケース—（第4版）
- ・著者名：大野貴司
- ・出版社名：三恵社
- ・出版年（ISBN）：2023年（978-4-86693-724-3）

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

スポーツビジネスの新奇性や特殊性のみに焦点を当てることなく、スポーツビジネスの実務で活用できるマーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とスポーツビジネスのマネジメントに欠かせないマーケティング戦略立案・戦術策定のための発想法を、担当教員の広告会社及びリサーチ会社でのスポーツビジネス実務経験に基づいて、具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	スポーツマーケティングとは？ スポーツマーケティングの定義／スポーツビジネスモデルとトリプルミッション
第 2 回	スポーツビジネスとマーケティングの基本 ① 日本プロ野球の概略／横浜 DeNA ベイスターズにみるスポーツビジネスの特徴
第 3 回	スポーツビジネスとマーケティングの基本 ② 横浜 DeNA ベイスターズのマーケティング戦略と戦術
第 4 回	スポーツビジネスとスタジアム・アリーナのマーケティング スタジアム・アリーナの重要性／プロスポーツチームによるスタジアムの所有・管理
第 5 回	スポーツビジネスとメディア テレビ放映権／ネット配信事業者・SNS プラットフォーマーが獲得した放映権
第 6 回	スポーツビジネスと広告・プロモーション スポーツとスポンサーシップ／若者とつながるための新しい潮流（e スポーツ）
第 7 回	オリンピックのマーケティング 世界 No.1 のイベントブランド／オリンピックのブランドエクイティと課題
第 8 回	FIFA ワールドカップのマーケティング 世界 No.1 のスポーツコンテンツ／FIFA ワールドカップのマーケティング課題
第 9 回	ヨーロッパのサッカーリーグ・クラブのマーケティング プレミアリーグ／ブンデスリーガ／ラ・リーガ／セリエ A／リーグ・アン
第 10 回	アメリカのプロスポーツのマーケティング NFL／MLB／NBA／NHL／MLS
第 11 回	日本のプロスポーツのマーケティング プロ野球／J リーグ／バスケットボール／ラグビー
第 12 回	スポーツ用品メーカーのマーケティング アディダス／ナイキ／アシックス／プーマ
第 13 回	スポーツビジネスによる地方創生 地域マーケティング／e スポーツによる地方創生
第 14 回	スポーツ関連企業のマーケティング活動の実例を調べる（グループワークによる資料作成） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか
第 15 回	スポーツ関連企業のマーケティング活動の実例を発表する（グループによるプレゼンテーション） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか

予習・復習

- ・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
 - ・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配付するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
- ※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 身近なプロスポーツチームやクラブ、スポーツ用品メーカー・小売店、スポーツ施設、スポーツイベント等のマーケティング活動を想定し、講義で解説するテーマに当てはめて考える習慣を身につけること。
2. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到達目標

1. スポーツビジネスモデルを理解し、スポーツビジネスの現状と課題・将来性を説明することができる。
2. マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）を理解し、スポーツビジネスに応用することができる。
3. 身近なプロスポーツチームやクラブ、スポーツ用品メーカー・小売店、スポーツ施設、スポーツイベント等の「マーケティング戦略と戦術」を説明することができる。

ループリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スポーツビジネスの課題・将来性の説明 (30%)	スポーツビジネスモデルの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力を発揮して、スポーツビジネスに関する説明ができる。	スポーツビジネスモデルのフレームワークを用いて、スポーツビジネスに関する説明ができる。	スポーツビジネスモデルの基本とフレームワークを説明できる。	スポーツビジネスモデルの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	スポーツビジネスモデルの基本もフレームワークも十分に説明できない
マーケティングのスポーツビジネスへの応用 (30%)	マーケティングの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力を発揮して、スポーツビジネスに関する説明ができる。	マーケティングのフレームワークを用いて、スポーツビジネスに関する説明ができる。	マーケティングの基本とフレームワークを説明できる。	マーケティングの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	マーケティングの基本もフレームワークも十分に説明できない
スポーツ関連企業のマーケティング活動の説明 (40%)	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続く、論理的な説明ができていない。

評価方法

後期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

- ・ 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- ・ 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「スポーツマーケティング論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授業概要

私たちの健康に対して運動習慣が果たす役割や、ヒトの運動機能が発達していくプロセス、競技におけるパフォーマンスの向上、アスリートが抱える問題とそれに対する支援など、幅広い内容について講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめに：運動・スポーツと心理学の関係
第 2 回	運動・スポーツと発達
第 3 回	運動の学習と指導
第 4 回	スポーツにおける動機づけ
第 5 回	運動とストレス
第 6 回	運動と生活習慣病
第 7 回	スポーツと集団
第 8 回	スポーツの教育的効果
第 9 回	スポーツとパーソナリティ
第10回	スポーツとあがり
第11回	心理的競技能力
第12回	メンタルトレーニング
第13回	スポーツ競技者が直面する心理的問題
第14回	スポーツ競技者に対する心理的サポート
第15回	全体の総括

予習・復習

- ・予習：各回の資料やメモした内容などを読み返すこと。
- ・復習：各回の最後に、次回の講義に向けたキーワードを伝えるので、それについて調べること。

履修上の注意

各回の最後にリアクションペーパーを配付するので、授業に関する感想や質問などを記入すること。必要に応じて、グループや個人でのワークも行うため、積極的に参加することが望ましい。なお、配慮が必要な理由（例えば、出席停止の疫病など）で授業を遅刻・早退・欠席する場合は、必ず授業開始までにメールで連絡すること。特別な理由がなく 30 分以上遅刻した場合には欠席扱いとする。

到達目標

運動機能の発達や動機づけ、個人特性をはじめとする心理学の基礎的な理論や知見を理解すること。また、授業中のワークで扱った内容を、自身のスポーツ活動や生活において実践できるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (40%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ 100%理解している。	おおむね理解はしているものの、多少の不足がある。	最低限の授業内容を理解している。	内容についての理解ができていない。
応用力 (30%)	授業内容をスポーツやそれ以外の生活場面に適用し、生活の質を高められる。	授業内容をスポーツ場面やそれ以外の生活場面に適用できる。	授業内容をスポーツ場面やそれ以外の生活場面に部分的に適用できる。	授業内容を生活場面にどう応用できるかを考えられる。	授業内容が生活場面にどう応用できるかを考えられない。
表現力 (30%)	授業内容を基に、専門家と議論することができる。	授業内容を他者にわかりやすく説明できる。	授業内容を他者に説明することができる。	授業内容の一部を他者に説明することができる。	授業内容を他者に説明することができない。

評価方法

- ①授業への参加態度：20%
- ②授業内課題・リアクションペーパー：30%
- ③期末レポート：50%

テキスト

各回の講義にて資料を配付し、教科書は指定しない。
各回の講義テーマに沿った参考文献は適宜紹介する。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

時事力とは、新聞やテレビのニュース報道を読み解き、生活や勉学、仕事で活用する力のことで、社会の出来事を多角的かつ公正に理解・判断するための基礎力です。本授業では、経済・環境・情報分野からアプローチし、それにかかわる時事ニュースの背景と活用の仕方を体系的に講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業内容の全体像と成績評価、注意事項
第 2 回	働き、消費する私たち
第 3 回	日本経済の現状（1）
第 4 回	日本経済の現状（2）
第 5 回	世界経済の見通し（1）
第 6 回	世界経済の見通し（2）
第 7 回	どうなる日本産業
第 8 回	中間まとめ（課題提出あり）
第 9 回	災害列島に生きる
第10回	地球環境を守るために（1）
第11回	地球環境を守るために（2）
第12回	これからのエネルギー（1）
第13回	これからのエネルギー（2）
第14回	情報社会はどこへ行く
第15回	期末まとめ（課題提出あり）

予 習 ・ 復 習

- ・予習：授業計画に沿って、インターネットや図書館などを活用して適宜予習しましょう。
- ・復習：授業終了後、配付プリントなどを活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

本授業は、グループワーク型アクティブラーニング授業です。毎回、4人程度のチーム（入れ替え制）でノートパソコンを活用して企業事例を調査し、その結果を口頭発表します。グループワークを通して、物事を多面的にとらえ、考え方の幅が広がり、人前に立って自分の考えを表現することにも自然と慣れていき、大学生に求められる「聞く力」「話す力」「積極性」「協調性」「責任感」が養われることを期待しています。

なお、電車の遅延など合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は3回で欠席1回とみなします。

到達目標

本授業は、受講生の皆さんが（１）経済・環境・情報分野にかかわる時事力を身に付け、（２）チームメンバーと協力して関連の企業事例を調査でき、（３）自分の言葉でその内容を表現できるようになることを目標としています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (35%)	学習内容を理解した上で、他の分野にも応用できるか常に考えている。	学習内容だけでなくその限界を深く理解している。	学習内容を理解している。	学習内容について最低限の理解をしている。	学習内容についての理解ができていない。
応用力 (20%)	自ら積極的に学習を進め、それを社会の発展に活用しようと考えている。	学習内容を強みとして自らの就職や進学などで活用することを考えている。	学習内容の利活用場面を見出すことを考えている。	単位の取得のみ考えている。	受講の意義について考えていない。
グループワーク (45%)	積極的にグループワークに取り組んでいると同時にリーダーシップを発揮できる。	チームメンバーと協力して積極的にグループワークに取り組んでいる。	グループワークに取り組む積極性は確認できるが、多少不足がある。	グループワークに取り組む積極性は最低限である。	グループワークに取り組む積極性は確認できない。

評価方法

期末試験の成績：55%（基礎力：35%＋応用力：20%）
グループワークの参加とフィードバックシートの提出：45%

テキスト

指定教科書はありません。毎回、スライドを映して講義し、授業プリント等を配付します。

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目 選択

授 業 概 要

入社試験のひとつ、「SPI 試験（非言語）」対策の授業です。文系学生が苦手意識を持ちやすい非言語分野のなかで特に頻出問題・必出問題についての基本的な解法パターンについて講義を行ないます。社会人として恥ずかしくない程度の数学知識を得るためにも、またこれまで数学を避け続けて数学の基本的な知識を持っていないなど、特に数学が苦手な人は必ず受講するようにしてください。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	SPI とは何か？/ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	習熟度判定テスト 中学生レベルの数学でどの分野の知識が欠落しているのかを知るためのテストを実施
第 3 回	基本的な計算の復習その 2 倍数、約数、公倍数、公約数
第 4 回	基本的な計算の復習その 3 分数計算、四則計算
第 5 回	基本的な計算の復習その 4 文字式
第 6 回	基本的な計算の復習その 5 方程式
第 7 回	基本的な計算の復習その 6 割合/比率/分数【応用】
第 8 回	割合/比率/分数【基礎】
第 9 回	割合/比率/分数【応用】
第 10 回	料金計算【基礎】
第 11 回	料金計算【応用】
第 12 回	速さと距離【基礎】
第 13 回	速さと距離【応用】
第 14 回	濃度計算【基礎】
第 15 回	濃度計算【応用】

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：次回の授業内容について各自予習するようにしてください。
- ・ 復習：講義毎に配付されるプリントを基に必ず復習をするようにしてください。

履修上の注意

本授業は、「基礎的な問題への理解」を第一目標にした、特に数学が苦手な人向けの内容になっています。社会人として恥ずかしくない程度の数学知識を得られる最後のチャンスだと思って是非受講するようにしてください。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到達目標

①数学への苦手意識をなくし実力をつける、②SPI 非言語分野の基礎的問題について理解できる、③講義後は復習を行ない、試験にチャレンジできるレベルにまで到達する、ことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 (40%)	計算の意味を理解した上で他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 (30%)	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、SPI 対応もできている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取ればよいと考えている。	単位だけ取ればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 (30%)	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内提出物 50%、定期テスト 50%

テキスト

授業毎に用意した問題用紙を配付します。

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	-	-	選択

授 業 概 要

レポートや論文の書き方を指導します。授業担当者が過去に中学・高校の教員であった実績を生かして、慣用句・表記・品詞の使い方・表現技術など文章を書くための基礎から文の作成をへて、段落構成・導入・実例のあげ方・結論といった文章全体の組み立て、文章の流れ、そして文章のマナーや読み手に伝わる書き方に至るまで、文章を書くための様々な知識や技術について指導します。

短作文・長作文作成をへて、最終的には資料を参考に自分の意見も主張しながら論文を書く指導を行います。どのようなテーマであっても、読み手に伝えられるようにわかりやすく、なおかつ自分の意見を入れて書くことを目標として指導します。

くわえて実習関連文書の書き方についても、指導します。

教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、こどもの学生の受講が望ましいです。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	書くこと①－国語表記の基準、適切な表現（高等学校国語の復習）
第 2 回	書くこと②－修辞法（高等学校国語の復習）
第 3 回	書くこと③－待遇（敬語）表現・文末表現（高等学校国語の復習）
第 4 回	書くこと④－推敲、一文を書く（高等学校国語の復習）
第 5 回	書くこと⑤－一文を書く、文と文をつなぐ（高等学校国語の復習）
第 6 回	書くこと⑥－主題文をつくる（高等学校国語の復習）
第 7 回	書くこと⑦－材料を集める（高等学校国語の復習）
第 8 回	書くこと⑧－構成を考える（高等学校国語の復習）
第 9 回	書くこと⑨－短作文1－身近なテーマから
第10回	書くこと⑩－短作文2－論理的な文
第11回	書くこと⑪－短作文3－教育をテーマとして
第12回	論文①－時事問題についての論文1
第13回	論文②－時事問題についての論文2
第14回	実習関連文書①－実習日誌など
第15回	実習関連文書②－指導案など

予 習 ・ 復 習

- ・予習：テキストや資料は必ず事前に読んでおいてください。
- ・復習：テキスト・論文等の課題を出しますので、必ず仕上げて提出してください。

履修上の注意

文章、そして論文を書く力をつけたいという強い意志を持って授業に臨んでください。最終的には時事問題等について論文を書きますので、常に自分で考える姿勢で受講し、また、社会や教育の動きには興味関心を持って臨んでください。提出物が出ていなければ、評価できません。

遅刻は 20 分以内までとし、遅刻 3 回で欠席 1 回とします。

教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、こども学科の学生の受講が望ましいです。

到達目標

- ①文章を書くことへの抵抗感をなくします。
- ②文章表現の基礎を学習し、表現力を身につけることを目標とします。
- ③あるテーマについて自分で調べ、調べたことをまとめ、自分の考えを入れながら、論理的な文章を書く力をつけることを目標とします。
- ④教職課程・保育士課程履修者は、実習関連文書の書き方を身につけることをも目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
文章作成能力 (40%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ 100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
考察力 (30%)	自ら調べたり考えたりして、分からない他人にアドバイスができる。	自ら調べたり考えたりして独自の能力で課題を解くことができる。	教員の概括的な指導により、独自で課題を解くことができる。	教員の詳細な指導により、課題を解くことができる。	教員のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
表現力 (30%)	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明を記述することができる。	不足する点があるが、説明を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができていない。

評価方法

授業態度・発言・提出物（テキスト、論文）・コメント・期末試験（期末レポート）等で総合的に評価します。なかでも、テキスト・論文は評価の比重が高いため、注意してください。

期末試験（期末レポート）30%、課題 30%、論文 20%、コメント用紙 10%、受講態度 10%

テキスト

資料・テキストは、授業内で指示します。

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	-	選択	-

授 業 概 要

小学校における国語という教科の位置づけと内容の概略を理解する。さらに、言葉の手本となるべき教員自身の国語に対する意識を高め、思考力・判断力・表現力につながる言葉の力（話す力・聞く力、書く力、読む力）を確かなものにし、具体的な言語活動を通して各技能を磨き高めるように指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 国語「概説」
第 2 回	ことばの力 1 話す力・聞く力
第 3 回	ことばの力 1 書く力 1ー文字を書くー
第 4 回	ことばの力 1 書く力 2ー文章を書くー
第 5 回	ことばの力 1 読む力
第 6 回	文章のいろいろ 説明的文章
第 7 回	文章のいろいろ 文学的文章
第 8 回	文章のいろいろ 言語文化
第 9 回	ことばの理解 表記
第 10 回	ことばの理解 ことばのきまり
第 11 回	ことばの理解 語と意味
第 12 回	ことばの力 2 音読の力
第 13 回	ことばの力 2 コミュニケーションの力
第 14 回	ことばの力 2 情報活用力の力
第 15 回	ことばの力 2 論理の力

予 習 ・ 復 習

- ・ 予習：授業計画にしたがって、事前に教科書の該当箇所を読んでおく。
- ・ 復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

- ・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
- ・遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

到達目標

- ・言語活動を通して国語力を構成する「考える力」「感じる力」を深める。
- ・日常の言語生活において「聞く・話す」「読む」「書く」という具体的な言語活動のスキルを高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 (40%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力 (30%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート） (30%)	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

- ・教科書名：言語活動中心 国語概説 改訂版－小学校教師を目指す人のために－
- ・著者名：岩崎淳ほか
- ・出版社名：学文社
- ・出版年（ISBN）：2022年（9784762031274）

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	-	選択	-

授 業 概 要

幼保小連携を視野に入れ、児童の発達段階に合わせた「生活科の学び」を実践できる指導力を身に付けるために、学習指導要領「生活」に沿って、9つの学習内容やICTを活用した授業構成について講義する。また学生の主体的な学習を推進し生活科教育に関する専門知識を活用した授業力を高めるために、演習を中心に教材研究を行い、学習指導案作成や模擬授業を取り入れ、実践的に学べるように指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の目的と進め方についてのガイダンスを行い、生活科の誕生や歴史についても理解できるようにする。
第 2 回	生活科の教科目標や指導方法についての講義を行う。幼保小連携についての重要性も理解できるようにする。
第 3 回	生活科の学習内容と階層性についての講義と課題学習を行い、理解が深まるようにする。
第 4 回	学習内容（１）の内容・授業展開例と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第 5 回	学習内容（２）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第 6 回	学習内容（３）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第 7 回	学習内容（４）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第 8 回	学習内容（５）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第 9 回	学習内容（６）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第10回	学習内容（７）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第11回	学習内容（８）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第12回	学習内容（９）の内容・授業展開と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第13回	生活科のカリキュラム構成とICTの活用を含めた生活科の授業改善について講義する。
第14回	学習評価について講義し、こどもの表現についてのワークショップを通して指導する。
第15回	これまでの学修を生かし課題レポートの作成を指導し、講義全体のまとめをする。

予 習 ・ 復 習

- ・予習：シラバスを確認する以外にも、授業で次回の講義についての予告をするので、事前にテキストをよく読み、講義内容が理解できるようにしておくこと。
- ・復習：復習として授業でとったノートを整理し、自分の言葉で学んだことをまとめておく。また授業で配布した学修資料の内容を再度確認しながら、資料整理を行い、ファイルするようにすること。

履修上の注意

- ・授業で配布された資料や指定されたテキストを毎回持参すること。
- ・予習・復習をしっかり行い、授業内容を活用した学習指導案の作成や模擬授業に臨むこと。
- ・欠席した場合は、その日の授業内容や課題の把握に努めること。遅刻については 30 分以内なら出席回数にカウントできるが、30 分を越えた場合は欠席扱いとする。

到達目標

- ・「生活科」における教科目標や子どもの学びについて理解する。(知識理解)
- ・生活科の 9 つの学習内容についての理解を深め、ICT の活用等を取り入れた教材研究ができる。
(技能)
- ・気づきの質を高める手立てや表現活動、教師の支援の在り方を考察できる。(思考)

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
生活科に関する 知識理解度 (40%)	授業内容を踏まえ発展的な学修を自主的に行っている。	授業内容をほぼ 100% 理解している。	一定の理解はしているが、授業内容の理解にやや不足がある。	授業内容について最低限の理解しかしていない。	授業内容をほとんど理解できていない。
課題に対する 解決力 (30%)	自分の解法を生かして他人にアドバイスができる。	学修したことを活用しながら、工夫して課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、自分の力で課題を解くことができる。	他人のアドバイスを受け、助言を基に課題を解くことができる。	助言を受けても自発的に課題を解くことができない。
学修した内容を 遣いレポートを 書いたり演習等 で活用したり できる力 (30%)	学修した内容を考察しつつ、他人を説得するようなレポートを作成することができる。	学習内容に沿い、論理が通った文章でレポートを書くことができる。	内容的に多少の不足する点があるが、学修したこと全体を網羅したレポートを書くことができる。	最低限の学習内容についてしかレポートを作成することができない。	レポートに学習内容が全く反映されていないか未提出である。

評価方法

- ・受講姿勢や毎回の授業後の振り返りシート (コメント) 50%
- ・学期中間と学期末に書く課題レポート 50%

テキスト

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 生活編
- ・著 者 名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版
- ・出 版 年 (ISBN)：2018 年 (978-4-491-0 3 4 6 4-5)

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	1	選択	-	-	-

授 業 概 要

基本的な野菜を取り上げ、その栽培方法を習得することを指導する。また、幼児教育での農業体験の重要性を講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	科目「栽培」についてのガイダンス（菜園での心得・姿勢について）
第 2 回	トマトなどの定植（野菜苗の植え付けの基本を覚える）
第 3 回	エダマメ・トウモロコシの播種（種まきの基本を知る）
第 4 回	土壌の性質と施肥（豊かな土壌を作る有機物・化学肥料の施肥量を計算する）
第 5 回	ジャガイモの管理（除草と芽掻きの要領を体験する）
第 6 回	トマトの整枝（美味しいトマトを収穫するための技術を習得する）
第 7 回	キュウリ・ナスなどの管理の仕方を学ぶ（肥料・水の管理）
第 8 回	葉菜類栽培の基礎を学ぶ（コマツナ・ホウレンソウなど）
第 9 回	根菜類栽培の基礎を学ぶ（ダイコン・ニンジン・サツマイモ）
第10回	ジャガイモの収穫と保存の仕方を学ぶ
第11回	エダマメ・トウモロコシの収穫と調整の仕方を学ぶ
第12回	菜園の片づけ（栽培した菜園に感謝を込めてきれいにする）
第13回	地球温暖化と食糧危機に今、私たちにできることを考える（講義）
第14回	幼児教育と農業（自然や生命を通して子供の発達を考える）（講義）
第15回	栽培授業のまとめ

予 習 ・ 復 習

- ・予習：用意した資料等を事前に熟読すること。指示した課題についてはノートにまとめる。
- ・復習：特に実習で学んだ事柄をまとめて記録する。

履修上の注意

栽培は実習中心の授業です。天候（雨・高温）の影響を受けやすいので体調管理が重要です。また、除草など地味で根気のいる作業が多くあります。相応の覚悟が必要です。そのために実習に適した服装を用意してください。正当な理由がない場合は始業時に遅れた者は遅刻とします。

到達目標

誰でもが一つの野菜を栽培できることを目指す。

栽培（農業）が子どもの発達に影響を及ぼすことについて考えられるようになる。

地道に野菜作りに取り組める姿勢を身に着ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
栽培方法についての理解度 （４０％）	栽培方法を理解し次に行う管理を自ら判断し正確に行うことができる。	栽培方法を理解し指示に従って正確に管理を行うことができる。	栽培方法はほぼ理解できているが正確な管理を行うことが困難である。	栽培方法がやや理解不足のため指導のもとある程度の管理ができる。	栽培方法が理解不足のため指導のもとでも管理が困難である。
栽培実習能力についての到達度 （４０％）	機械や道具を正しく使いこなし作業手順について先を見ながら率先して行うことができる。	機械や道具を正しく使いこなし指示通りに作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があるが積極的に作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があり作業が消極的で時間がかかる。	消極的で実習を行う姿勢が見られない。
文章で説明する力 （２０％）	栽培手順や重点箇所を理路整然と正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや大まかであるが正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや正確さに欠けるがまとめることができる。	栽培手順や重点箇所が説明不足なまとめ方である。	栽培手順や重点箇所をまとめる力が劣っている。

評価方法

学期末考査	４０％
実習態度	４０％
レポート	２０％

テキスト

教科書は使いません。必要に応じて資料を配布します。

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期	1	選択	-	-	-

授業概要

演劇のツールを使って、コミュニケーション能力を伸ばす。想像力と創造力を駆使して、自由に表現出来るように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第1回	空間認識。仲間を知り、課題を通して自身の開放を目指す。
第2回	同上
第3回	ストーリーを作る。全員で既成の物語を言葉を紡いで再生する。
第4回	ストーリーを作る。全員で課題に沿ってオリジナルのストーリーを創造する。
第5回	ミラーゲーム。相手の動きを観察して自身が鏡のように動けるようになる。
第6回	1つの音を歌って全員で1曲にしていく。
第7回	単音で自身の出来事を表現する。課題を表現して他者は想像して当てる。
第8回	ジブリッシュを使って表現する。課題に沿ってジブリッシュで会話する。
第9回	「外郎売り」を使って、早口言葉を表現する。
第10回	「3人の時計職人」朗読劇を使って、読解力と表現力を培う。
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	同上
第15回	全授業のふり返し。試験に向けてのブラッシュアップ。

予習・復習

- ・予習：課題を読んでくる。
- ・復習：授業で出来たこと、出来なかったことをふりかえり、何が原因か考える。

履修上の注意

動きやすい服装が望ましい。
遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

到達目標

表現力を使って、他者とのコミュニケーションを円滑に出来るようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 (40 %)	出された課題を 他者にきちんと 説明でき、尚且 つ個性的であ る。	出された課題を 他者にきちんと 説明できる。	出された課題を 他者が理解出来 るように説明出 来ない。	出された課題を 理解できないの で、他者に説明 出来ない。	説明されても理 解出来ていな い。
表現力 (40 %)	課題に対して、 個性的で、自由 に表現できる。	課題に対して、 求められた表現 ができる。	課題に対して、 求められた表現 が出来ていな い。	課題に対して、 表現をどうして いいか悩んでい る。	課題を表現する ことに、恐怖を 感じている。
授業態度 (20 %)	きちんと準備を して、課題に集 中している。他 者に対して寛容 である。	課題に集中して いる。	時々、集中して いない。	全く集中してい ない。	他者に対して排 他的である。

評価方法

学期末試験 30 %、授業の理解度 30 %、表現力 30 %、受講態度 10 %

テキスト

印刷したものを配布します。